

法學博士 江木 衷編輯

司法
行政
判例彙報

卷八十第

號二十第

號一十百二第

判例彙報社

合本出來廣告

法學博士 江木衷先生篇纂

司法行政判例彙報第十八卷合本

紙數凡ソ千二百餘頁
洋裝 金文字入
定價一冊壹圓五拾錢
郵稅ヲ要セズ

本書は明治四十年の發刊に係る全一ケ年分の判例彙報を合綴したる者にして四十年度に於て大審院及び行政裁判所に起りたる民事、刑事、及び行政の判決にして實務并に講學の參考たるものは細大漏さず本書の收むる所なり部數限あり需用の諸士は至急申込あれ

發行所

東京市麴町區飯田町五丁目

東京市神田區一ツ橋通

東京市神田區表神保町

東京市京橋區銀座四丁目

判例彙報社

有斐閣

東京

東海

堂堂閣

大賣捌所

司法行政判例彙報第十八卷判決索引

刑事之部

刑法

第一編 總則

- 詐欺取財事件……………一六
- 一罪數罪ヲ別ツ標準
- 人ニ固有セラレタル法益及ヒ然ラサル法益
- 一ノ詐術ヲ以テ數人ヨリ財物ヲ騙取シタル者ノ處分
- 偽造紙幣收受行使事件……………一五
- 偽造紙幣ヲ行使セントシテ甲者ニ交附シタルモ拒絕セラレ更ラニ乙者ニ交附シ始メテ其ノ目的ヲ達シタル所爲ハ一罪ナルカ數罪ナルカ
- 私書偽造行使詐欺取財事件……………一五
- 犯罪供用ノ物件カ犯人ノ所有物ナルモ他人之レニ留置權ヲ有スルモ如何ニ處分スヘキヤ
- 紙幣偽造機械豫備事件……………一四
- 沒收ノ言渡ハ共犯者中獨リ所有者ノミニ對シ言渡スヘキヤ將タ一般ニ之ヲ言渡スヘキヤ
- 謀殺事件……………一七
- 人ヲ殺害スル下手方ヲ助勢シ兇行ノ障礙ヲ排除シタル者ノ處分
- 積極的加擔
- 消極的加擔
- 共犯者ニ對スル沒收ノ宣言
- 毆打創傷並附帶私訴事件……………一〇〇
- 毆打教唆者ノ責任程度
- 單純ニ人ヲ毆打スルコトヲ教唆シタルニ被教唆者カ人ヲ毆打シテ死ニ至ラシメタル時教唆者ノ處分如何
- 私書偽造行使事件……………一〇七
- 戶籍法第二百十五條ト刑法六十條トノ關係
- 持兇器竊盜及囚徒逃走事件……………一五
- 數罪俱發ヲ以テ處斷シタルトキ其ノ輕キ罪ニ對スル刑ノ時數ノ完成時期
- 私印盜用私書偽造行使詐欺取財未遂事件……………一六
- 未遂犯ノ成立
- 詐欺取財ノ未遂犯
- 詐欺取財事件……………一三
- 被告ノ手中ニアル詐欺ノ金品ハ其ノ之ヲ詐欺スル爲メ取結ハレタル意思表示ヲ取消スコナクシテ直チニ之ヲ被害者ニ還付スルコトヲ得ルヤ
- 官文書毀棄官文書偽造行使收賄及收賄幫助事……………一七

合本出來廣告

法學博士 江木衷先生篇纂

司法行政判例彙報第十八卷合本

紙數凡ソ千二百餘頁
洋裝 金文字入
定價一冊壹圓五拾錢
郵稅ヲ要セズ

本書は明治四十年の發刊に係る全一ヶ年分の判例彙報を合綴したる者にして四十年度に於て大審院及び行政裁判所に起りたる民事、刑事、及び行政の判決にして實務并に講學の參考たるものは細大漏さず本書の收むる所なり部數限あり需用の諸士は至急申込あれ

發行所

東京市麴町區飯田町五丁目
東京市神田區一ツ橋通
東京市神田區表神保町
東京市京橋區銀座四丁目

判例彙報社

有斐堂
東京堂
上海堂

大賣捌所

司法行政判例彙報第十八卷判決索引

刑事之部

刑法

第一編 總則

- 詐欺取財事件……………一六
- 一罪數罪ヲ別ツ標準
- 人ニ固有セラレタル法益及ヒ然ラサル法益
- 一ノ詐術ヲ以テ數人ヨリ財物ヲ騙取シタル者ノ處分
- 偽造紙幣收受行使事件……………一五
- 偽造紙幣ヲ行使セントシテ甲者ニ交附シタルモ拒絕セラレ更ラニ乙者ニ交附シ始メテ其ノ目的ヲ達シタル所爲ハ一罪ナルカ數罪ナルカ
- 私書偽造行使詐欺取財事件……………一五
- 犯罪供用ノ物件力犯人ノ所有物ナルモ他人之レニ留置權ヲ有スルモハ如何ニ處分スヘキヤ
- 紙幣偽造機械豫備事件……………一四
- 沒收ノ言渡ハ共犯者中獨リ所有者ノミニ對シ言渡スヘキヤ將タ一般ニ之ヲ言渡スヘキヤ
- 謀殺事件……………一七
- 人ヲ殺害スル下手法ヲ助勢シ兇行ノ障礙ヲ排除シタ

- ル者ノ處分
- 積極的加擔
- 消極的加擔
- 共犯者ニ對スル沒收ノ宣言
- 毆打創傷並附帶私訴事件……………一〇〇
- 毆打教唆者ノ責任程度
- 單純ニ人ヲ毆打スルコトヲ教唆シタルニ被教唆者カ人ヲ毆打シテ死ニ至ラシメタル時教唆者ノ處分如何
- 私書偽造行使事件……………一〇七
- 戶籍法第二百五條ト刑法六十條トノ關係
- 持兇器竊盜及囚徒逃走事件……………一五
- 數罪俱發ヲ以テ處斷シタルトキ其ノ輕キ罪ニ對スル刑ノ時効ノ完成時期
- 私印盜用私書偽造行使詐欺取財未遂事件……………一六
- 未遂犯ノ成立
- 詐欺取財ノ未遂犯
- 詐欺取財事件……………一三六
- 被告ノ手中ニアル詐欺ノ金品ハ其ノ之ヲ詐欺スル爲メ取結ハレタル意思表示ヲ取消スコトヲ直チニ之ヲ被害者ニ還付スルコトヲ得ルヤ
- 官文書毀棄官文書偽造行使收賄及收賄助事……………一

件……………二五七

○收賂者ヨリ其ノ幾分ノ割前チ受ケタル者ニ對シ其受ケタル部分チ沒收シ又ハ追徴ヲ命スルコトヲ得ルヤ

●私印盗用私書偽造行使詐欺取財未遂並ニ偽證事件……………三三四

○數名ノ押印アル一ノ證書ニ虛偽ノ事項ヲ記載シ行使シタル者ノ處分

●刑ノ執行ニ對スル異議事件……………三三五

○刑ノ意義

○刑ノ發生ノ時期

●監禁制縛毆打創傷事件……………三六六

○數人共謀シテ人ヲ監禁制縛スルニ當リ其ノ一部ノ者カ下手ニ加ハラサルトキハ其ノ處分如何

●印紙再貼用詐欺取財事件……………三六六

○犯罪ノ手段ト之レニ對スル犯罪ノ成立

●銀貨偽造器械豫備事件……………三九〇

○五十錢二十錢ノ二種ノ銀貨ノ偽造器ヲ豫備シタル所爲ハ一罪ナルカ數罪ナル乎

●私書偽造行使詐欺取財未遂事件……………四〇六

○偽造證書ハ刑法第四十三條中第二號ニ依リ收沒スヘキカ第三號ニ依リ沒收スヘキヤ

●詐欺取財事件……………四三〇

○偽證罪ノ成立

●私書偽造行使詐欺取財事件……………四五

○證書ヲ偽造スルニ當リ其ノ署名カ眞ノ氏名ト一致セサルハ其處分如何

●證書偽造行使詐欺取財事件……………八一

○文書偽造罪ノ成立ニ必要ナル實害

○實害ハ文書ニ署名セラレタル者又ハ之ヲ受ケタル相手方ノ二者何レニ在スルコトヲ要スルヤ

●官吏侮辱事件……………九三

○休職官吏ハ官吏タル身分チ有スルカ

○休職官吏ニ對シ其ノ在職中ニ爲シタル事務ニ關シ侮辱シタル者ノ處分

●監守盗私印盗用私書偽造行使委託金費消事……………一〇三

○受託者ト共謀シテ受託物ヲ費消シタル者ノ處分

○官吏カ自ら監守スル金品ヲ騙取シタル場合ニ於テ其ノ官吏ノ處分如何

●公私印公私文書約束手形偽造行使詐欺取財……………一〇六

○町村長ノ作成シタル印鑑證明書ノ性質

●私印盗用私書偽造行使事件……………一一〇

○他人ノ實印ヲ以テ符カニ證書ニ貼用スル印紙ノ消印

民事訴訟原告人ト如何

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

●官吏侮辱及毆打創傷事件……………一三三

○侮辱ノ性質

○刑法第四百一十一條「其ノ目前ニ於テ」ト如何

○侮辱罪ヲ構成スルニハ官吏自ら侮辱ノ言ヲ聞知スルコトヲ要スルヤ

●公印偽造私書偽造行使詐欺取財未遂事件……………一三七

○公印偽造罪成立ノ時期

●官文書偽造行使事件……………一三九

○偽造文書ヲ行使スル爲メ相手方ニ郵送シタルキハ行使ノ已遂犯ハ何レノ時ニ成立スヘキヤ

○執達吏ハ官吏ナルカ

○執達吏ノ作成シタル文書ノ性質

○偽造文書ノ行使

●偽造紙幣收受行使事件……………一四〇

○偽造紙幣ヲ行使セントシテ甲者ニ交附シタルモ拒絕セラレ更ラニ乙者ニ交附シ始メテ其ノ目的ヲ達シタル所爲ハ一罪ナルカ數罪ナルカ

●偽證事件……………一四八

ニ使用シタル者ノ處分

●往來妨害事件……………一五〇

○往來ヲ妨害ス可ラサル道路ト如何

○刑法第二百六十條ノ適用

●賭場開張圖利事件……………一八三

○賭場ニ於テ賭博ノ目的ニ供スル金額ノ計算中賭博行爲ヲ發見セラレタルトキハ賭博ノ現行犯トシテ處分スルコトヲ得ルヤ

●兇徒嘯聚事件……………一八七

○一人ニ暴害ヲ加フル爲メ多衆聚合シテ暴行ヲ爲シタル者ノ處分

●官文書毀棄事件……………二〇〇

○故意ヲ以テ目的以外ノ官文書ヲ毀棄シタル者ノ處分

●印紙偽造行使事件……………二〇三

○藥品ヲ以テ印紙ノ消印ヲ洗滌シ再ヒ之ヲ使用シタル者ノ處分

○數葉ノ印紙ヲ切斷シ其消印ノ痕跡ヲキ斷片ヲ繼キ合セテ新ニ一ノ印紙ヲ製作シタル者ノ處分

●公文書偽造行使事件……………二〇四

○偽造文書ヲ巡査駐在所ニ提出シタルハ文書ノ行使ナルカ

○行使ノ意義

●官文書毀棄官文書偽造行使收賄及收賄幫助……………二〇六

事件 …… 二五七

- 收賄罪ノ成立
- 司法官試補ノ收賄罪
- 收賄者ヨリ其幾分ノ割前ヲ受ケタル者ニ對シ其受ケタル部分ヲ沒收シ又ハ追徴ヲ命スルコトヲ得ルヤ
- 官印盗用官文書偽造行使事件 …… 二六三
 - 徵稅事務ト收入事務トノ分立
 - 稅務署長ノ權限
 - 官文書ノ偽造行使
- 賄賂收受官印盗用官文書偽造行使監守盜并森林法違犯等事件 …… 二八〇
 - 刑法第二百六條ノ適用
 - 文書ノ意義
 - 番號ノ表記ハ文書ナルカ
 - 文書タルヤ否ヲ定ムル標準
- 商品ニ押用スル官ノ印影盗用等事件 …… 二八四
 - 官印タルヤ否ヲ定ムル標準
 - 蚕蠶豫防吏員タル公吏カ蠶種ノ検査合格ノ證トシテ押捺スル印影ハ官印ナルカ
- 酒造稅法違犯并封印破棄差押物脫漏事件 …… 二九二
 - 封印ノ範圍
 - 封印破棄罪ノ構成
- 私印盗用私書偽造行使詐欺取財事件 …… 三二七
 - 文書ノ意義

- 印鑑ハ一ノ文書ナルカ
- 私印盗用私書偽造行使詐欺取財未遂並偽證事件 …… 三三四
 - 數名ノ押印アル一ノ證書ニ虛偽ノ事項ヲ記載シ行使シタル者ノ處分
- 官印盗用官文書偽造行使竊盜事件 …… 三五〇
 - 郵便局通信事務員(雇員)ハ官吏ナルカ
 - 又々右事務員ハ局長印日付印等ヲ監守スル職責ヲ有スルヤ
 - 郵便局雇員カ委託ヲ受ケテ保管スル局長ノ印影ヲ竊カニ使用シタルトキハ如何ニ處分スヘキカ
- 官文書偽造變造行使官印盗用及監守盜并事件 …… 三五五
 - 電信爲替ヲ増減變更シタル者ノ處分
- 官印官文書偽造行使詐欺取財事件 …… 三七三
 - 一ノ官印ヲ偽造スルニ當リ之ヲ數個ノ印材ニ分割シ組合セテ一ノ印影ヲ現出セシメタル者ノ處分
 - 我方刑法上偽造ナル文詞ノ適用上ノ範圍
 - 刑法二百六條ノ適用
- 毆打致死事件 …… 三七八
 - 獄則違犯ノ囚人ヲ毆打致死シタル看守ノ處分
- 私書偽造行使詐欺取財未遂事件 …… 四〇六
 - 預金通帳ノ偽造
 - 犯罪ノ用ニ係シタル偽造文書ノ沒收

- 強盜傷人事件 …… 四二一
 - 賭博ヲ原由トスル金錢ノ貸借證書ヲ強取シタル者ノ處分
- 銃砲火藥類取締法及魚業法違犯事件 …… 四二八
 - 刑法上輸入ノ意義

第二編 身體財産ニ對スル重罪 輕罪

- 詐欺取財事件 …… 三二
 - 詐偽取財罪ヲ構成スルニハ欺罔セラレタル者ト財物ヲ騙取セラレタル者トハ同一人ナルコトヲ要スルヤ
- 私書偽造行使事件 …… 五九
 - 他人名義ノ告訴狀ヲ偽造シ人ヲ誣告シタル者ノ處分
 - 誣告ノ方法
 - 告訴ヲ以テ誣告シタルハ其告訴方法法律上ノ要件ヲ具備セザルトキハ誣告罪ヲ構成セザルカ
 - 誣告罪構成要件及ヒ其ノ性質
 - 誣告ノ已遂犯成立ノ時期
- 詐欺取財事件 …… 七三
 - 貨幣偽造ノ資金タルコトヲ明カシ相手方ヨリ金品ヲ受領シタル者ノ處分

- 詐欺取財並附帶私訴事件 …… 七五
 - 人ヲ恐喝シテ損害賠償ノ證書ヲ騙取シタル者ノ處分
 - 詐欺取財ノ目的タル證書類ノ意義
- 監守盜私印盗用私書偽造行使委託金費消事件 …… 一〇一
 - 受託者ト共謀シテ受託物ヲ費消シタル者ノ處分
- 贓物收受事件 …… 一〇四
 - 贓物收受罪ノ成立時期
- 私書偽造事件 …… 一〇七
 - 親族間ノ詐欺取財
 - 親屬ノ一人カ自己ノ財産ヲ他人ニ寄托シ其ノ保管ニ委シタル場合ニ於テ他ノ親族カ其ノ保管者ヲ欺キ之ヲ騙取シタル者ノ處分
- 私書偽造行使詐欺取財事件 …… 一五二
 - 受託物ヲ費消シタル後詐術ヲ施シタル者ノ處分
 - 後見人カ無能力者ノ財産ヲ費消シタル後親族會ニ偽虛ノ報告ヲ爲シタル者ノ處分
- 詐欺取財事件 …… 一六三
 - 偽罔ノ手段
 - 詭計詐術ヲ用ヒスシテ人ヲ錯誤ニ陥ラシムルハ偽罔ノ所爲トナスヲ得ルカ
 - 自ら陥リタル錯誤ノ覺醒ヲ妨ケンカ爲メニ用ユル偽罔ハ所謂詐欺取財ノ偽罔ノ所爲トナスヲ得ルカ
 - 消極的偽罔積極的偽罔

●委託金費消事件	一八四
○委託物騙取ノ成立	
○委託物騙取罪成立ノ時期	
●委託金費消事件	一九三
○委託金費消罪ノ性質	
○委託金費消罪ノ成立時期	
○參考人ノ性質	
○横領罪ト委託金費消罪トノ關係	
●恐喝取財未遂事件	二〇〇
○強盜罪ノ構成	
○強盜罪ト恐喝取財トノ區別	
●官文書毀棄事件	二一〇
○故意ヲ以テ目的以外ノ官文書ヲ毀棄シタル者ノ處分	
○誤殺。誤毀打創傷者ノ處分	
○刑法第二百九十八條第三百四條ノ趣旨	
●強姦及毆打創傷事件	二三三
○強姦ニ由テ婦女ヲ創傷セシメタル者ノ處分	
○強姦致死又ハ強姦創傷罪ニ對スル告訴取下ノ効力	
○被告ノ一人カ最初婦女ヲ姦淫スルニ當リ加ヘタル暴行ヲ利用シテ他ノ者ニ於テ更ラニ暴行ヲ加フルナク順次ニ同一ノ婦女ヲ姦淫シタル者ノ處分	
●毆打創傷事件	二三九
○毆打ニ基ク休業ノ意義	
○學生カ創傷ノ爲メ入院シ修學ヲ廢スルノ已ムヲ得サルニ至レルハ刑法第三百一條ノ所謂休業ニアラサル	
カ	
●恐喝取財事件	二四二
○恐喝取財罪ヲ認定スルニ具備セサル可ラサル事實上ノ要件	
●虛偽負債増加事件	二五〇
○家資分散ノ意義	
○家資分散ノ状態ニアラシメンニハ如何ナル手續ヲ要スルヤ	
●強盜傷人事件	二六一
○強盜ノ目的タル財物ノ意義	
●竊盜事件	二五七
○自己ノ物件ヲ抵當典物トナシタル後他人ト共謀シテ之ヲ竊取シタルトキハ如何ニ處分スヘキヤ	
●私書偽造行使及詐欺取財事件	二六一
○勳章年金支拂通知書ヲ騙取シ其ノ年金ノ下附ヲ受領シタル者ノ處分	
○勳章年金支拂通知書ヲ騙取シ之ヲ偽造行使シタル者ノ處分	
●冒認販賣及抵當私書變造行使事件	二六二
○冒認罪ノ成立	
●印紙再貼用詐欺取財事件	二六六
○犯罪ノ手段ト之レニ對スル犯罪ノ成立	
○電報發信ノ依頼ヲ受ケタル者カ依頼者ヨリ交換附セラルタル電報料ヲ横領シ自己ノ所持スル使用済ノ古切	

●民事訴訟法	二七七
○不動產競賣ノ性質	
○無權利者ノ申請ニ基ク競賣ノ効力	
●戶籍法	二七五
○戶籍法第二百五條ノ適用	
●齒科醫師法	二八一
○齒科醫師法違反事件	
○齒科ノ醫科ノ一種ニ屬スルカ	
○齒科醫ノ免許試驗ニ及第シタルモノハ當然普通醫業ヲ營ムコトヲ得ルヤ	
○普通醫師ノ開業免狀ヲ有スルモノハ當然齒科醫ヲ開業スルコトヲ得ルヤ	
●沖繩縣酒類出港稅則	二〇〇
○沖繩縣酒類出港稅則違反事件	
○燒酎ノ組成要素	
○燒酎製造ニ付酒酵母ノ混和	
七	

○酒造税法上「麹」ノ意義
○泡盛酒ハ燒酎ナル乎

特許法

●特許法違反事件……………二〇六

○特許品ノ偽造トハ如何
○眞造ノ特許品ニ對シ多少變更ヲ加ヘ模倣シタル製品
ハ特許品ノ偽造ニアラサルカ

砂糖税法

●砂糖消費税法違反事件……………三九二

○砂糖消費税法第六條ノ適用

酒造税法

●酒造税法違反事件……………二二五

○犯則者ニ對スル收税官吏ノ權限

●酒造税法違反事件……………三三三

○酒造税法違反通告書ノ送達

○未成年者カ酒造業ヲ營ムトキハ右通告書ハ本人ニ送達スヘキヤ親權者ニ送達スヘキヤ

●酒造税法違反事件……………三九四

○日ヲ以テ定ムル期間ノ起算點
○日ヲ以テ定ムル期間ハ即日ヨリ起算スルヲ通則トス

ルカ將々翌日ヨリ起算スルヲ通則トスヘキヤ
○間接國稅犯則者ニ對スル七日ノ通告期間ノ起算點
○犯則造石數ノ査定

酒精及酒精含有飲料税法

●酒精及酒精含有飲料税法違反事件……………三二五

○酒精ノ意義
○飲料ニ適セサルモノハ酒精ヲ含有スルモ飲料税法ノ支配ヲ受ケサル乎

●酒精及酒精含有飲料税法違反事件……………三四五

○精酒ト酒精含有飲料トノ區別
○精酒ニ藩椒丁及ヒ甘硝石性ヲ含有スル辛辣ヲ混和シ販賣シタル者ノ處分

●酒造税法並酒母醪及麴取締法違反事件……………三九八

○酒造税法犯則事件ニ關スル罪證ノ集取及ヒ其ノ管轄區域

○甲稅務署ノ稅務官吏ハ乙稅務署ノ管轄内ニ發覺シタル犯則事件ノ證據ヲ集取スルノ權限アル乎

●酒精及酒精含有飲料税法違反事件……………四三三

○清酒ト酒精含有飲料トノ區別ノ標準
○犯則者ノ處罰

關稅法

●詐僞取財及關稅法違反附帶私訴事件……………三三〇

○通脫貨物ノ沒取
○沒收貨物ノ返還ヲ目的トスル私訴ノ提起

破産法

●詐欺破産事件……………七

○詐欺破産罪ノ構成

○商法第五十條「履行スルノ意ナキ義務」トハ如何

移民保護法

●移民保護法違反事件……………一三五

○移民保護法ノ所謂渡航ノ周旋トハ如何

○渡航ニ關シ一部ノ周旋ヲ爲シタル者ノ處分

●移民保護法違反事件……………三六四

○移民取扱行爲トハ如何

新聞條例

●新聞條例違反事件……………一四六

○新聞條例第三十三條ノ適用

○電車賃値上ノ激文

●新聞條例違反事件……………三三三

○新聞條例第十七條ノ適用

○同條中ノ所謂庇護ノ意義

著作權法

●著作權法違反及附帶私訴事件……………一七三

○著作權ノ享有

○著作權ノ侵害

○繪葉書ノ偽作

肥料取締法

●詐欺取財事件……………二二五

○肥料ノ偽造

行政法

●官文書偽造行使事件……………三九

○執達吏ハ官吏ナルカ

●官印盗用官文書偽造行使事件……………二六三

○徵稅事務ト收入事務トノ分立

○稅務署長ノ權限

裁判所構成法

●冒認販賣事件……………三三二

○檢證調書中羅馬字ヲ符號ニ用ユルモ無効ニアラサルカ

○裁判所構成法第百十五條ノ適用

刑事訴訟法

第一編 總 則

- 詐欺取財事件……………三二
- 民事原告人ト如何
- 詐偽取財及關稅法違反附帶私訴事件……………三三〇
- 沒收貨物ノ返還ヲ目的トスル私訴ノ提起
- 官文書偽造行使詐欺取財事件……………三八三
- 數個ノ犯罪行為カ相ヒ合シテ一罪ヲ爲ス場合ニ於ケル公訴時効ノ進行及ヒ其ノ範圍
- 郵便法違反私書偽造行使詐欺取財竊盜竝附帶私訴事件……………四〇一
- 贓物ノ還給ト私訴ノ請求
- 酒造税法違反事件……………三九四
- 日ヲ以テ定ムル期間ノ起算點
- 日ヲ以テ定ムル期間ハ即日ヨリ起算スルヲ通則トスルカ將タ翌日ヨリ起算スルヲ通例トスベキヤ

第二編 裁判所

- 冒認販賣事件……………一
- 從犯ノ裁判籍

○ 加重ノ情狀タルヘキ所爲ノ行ハレタル場所ト裁判管轄トノ關係

第三編 犯罪ノ搜查起訴及豫審

- 森林法違反並附帶私訴事件……………一五六
- 豫審判事ノ公判干與
- 刑事訴訟法第四十條ノ適用
- 盜贓寄藏事件……………五三
- 非現行犯ニ對スル司法警察官ノ職權
- 司法警察官カ非現行ニ對シ物件ヲ差押ヘ由テ作成シタル調書ハ罪證ニ供スルコトヲ得ルヤ
- 強姦及毆打創傷事件……………五七
- 告訴ハ代理人ヲ以テスルヲ得ルヤ
- 代理告訴ノ方式
- 森林竊盜事件……………六四
- 鑑定人ノ資格
- 共犯者ニ對スル沒收ノ宣言
- 官吏侮辱事件……………九二
- 休職官吏ハ官吏タル身分ヲ有スルカ
- 官吏ノ回答ハ斷罪ノ資料タルヲ得ルカ
- 官吏抗拒事件……………九六
- 現行犯ニ對スル司法警察官ノ職權
- 現行犯ニ對シ作成スル檢證調書

委託金費消事件……………二九

- 豫審決定ノ確定時期
- 豫審決定ハ之レニ抗告ヲ許ス場合ト然ラサル場合トナ間ハス抗告アリタルトキハ常ニ其ノ執行ヲ停止スルヤ
- 刑事訴訟法第七十四條ノ適用
- 謀殺及謀殺未遂事件……………一三三
- 同居人ノ刑事訴訟法第二十三條ノ意義
- 謀殺未遂事件……………一八〇
- 證人トナルコトヲ得サル雇人
- 民法上ノ雇傭契約ニ因ル雇人ハ凡テ證人タルヲ得サルカ
- 姦通及誣告并附帶私訴事件……………二四四
- 豫審免訴ノ効力
- 謀殺事件……………二七〇
- 現行犯ニ對スル檢事ノ職權
- 檢事カ現行犯ヲ處分スルニ當リ之ヲ豫審判事ニ通知セシメテ爲シタルトキハ其ノ効力如何
- 臨檢處分ハ日出前日没後ニ之ヲ行フコトヲ許スカ
- 當該判事全部ノ臨檢處分
- 搜索處分
- 人ニ對スル搜索
- 物ニ對スル搜索
- 私印盜用私書偽造行使詐欺取財未遂事件……………二六八
- 受托判事ノ證人訊問ト刑訴第三百一十一條トノ關係

戶籍法違反事件……………三〇五

- 公訴提起ノ時期
- 公訴提起ノ効力
- 郵便法違反官文書偽造行使監守盜事件……………四〇四
- 出張先ニテ作製スル豫審調書
- 第四編 公 判
- 詐欺取財未遂私印盜用私書偽造行使事件……………七
- 公判ニ立會ハサル書記ノ整理シタル公判始末書ノ効力
- 私印盜用私書偽造行使事件……………八五
- 公判判事ハ審判ニ係ル被告事件ノ附帶犯カ豫審ニ際スルヤト雖モ尙ホ職權ヲ以テ其ノ審判事件ヲ終了スルコトヲ得ルヤ
- 詐欺取財事件……………一一二
- 證人供述ノ訂正
- 訂正シタル證言ニ對スル判事ノ心證
- 私書偽造行使詐欺取財事件……………一三二
- 鑑定ハ之ヲ他ノ裁判所ニ囑托スルコトヲ得ルヤ
- 謀殺及謀殺未遂事件……………一三三
- 中止シタル辯論ノ再開
- 同居人(刑訴第二百三十三條)ノ意義
- 移民保護法違反事件……………一三五

- 刑事裁判上訴訟代理人ノ權限
- 訴訟代理人ノ資格
- 辯護士ニ依ル訴訟ノ代理
- 監守盜事件 二四一
 - 刑事訴訟第二百二條ノ適用
 - 差押物ノ還附
 - 豫審決定確定以前ニ於ケル公判ノ豫備訊問
 - 公判辯論ノ準備期間
- 銃砲火藥類取締法違反事件 二四五
 - 公判ニ於ケル鑑定人ノ供述ハ鑑定書ヲ作成セサル可ラサルヤ
- 森林法違反并附帶私訴事件 二五九
 - 人爲的證據
 - 物件的證據
- 故殺未遂事件 二六九
 - 刑事訴訟法第二百三十七條ノ適用
- 外國流通銀行券偽造同教唆並兌換銀行券偽造事件 二八九
 - 官選辯護人ノ期日懈怠
 - 刑事力證人供述ヲ鑑定人ノ供述ナリト誤認シテ斷證ニ供シタル裁判ノ効力
- 委託金費消事件 二九三
 - 參考人ノ性質
- 新聞條例違反事件 二九七

- 辯論公開ヲ停止スル決定ノ言渡
- 公文書偽造行使私印私書偽造行使詐欺取財事件 三三七
 - 他事件ノ爲メニ作成シタル參考人調書ヲ誤テ當該事件ノ爲メニ作成シタルモノトシテ之ヲ判決ニ採用シタルトキハ破毀ノ理由トナルヤ
 - 他事件ノ爲メニ作成シタル證人調書ヲ當該事件ノ爲メニ作成シタル者ト誤認シ之ヲ採用シタル判決ノ効力
 - 證人ノ證言ト參考人ノ供述
- 強盜殺人及詐欺取財事件 三四七
 - 證言ノ効力
 - 他事件ノ證言ノ効力
- 贓物故買等附帶私訴事件 三六八
 - 公訴ノ判決ト私訴ノ判決
 - 私訴ニ付テノ訴ノ原因ノ變更
- 森林法違反及附帶私訴并官印盜用事件 四一四
 - 公判ニ證據書類トシテ取讀ヲ必要トスルモノト然ラサルモノトナ區別スル標準
 - 法廷ニ出頭シタル證人ニ對スル訊問手續
- 詐欺取財事件 四三〇
 - 民事原告人ト證人資格
- 第五編 上 訴 四三六
- 故殺事件 四三六

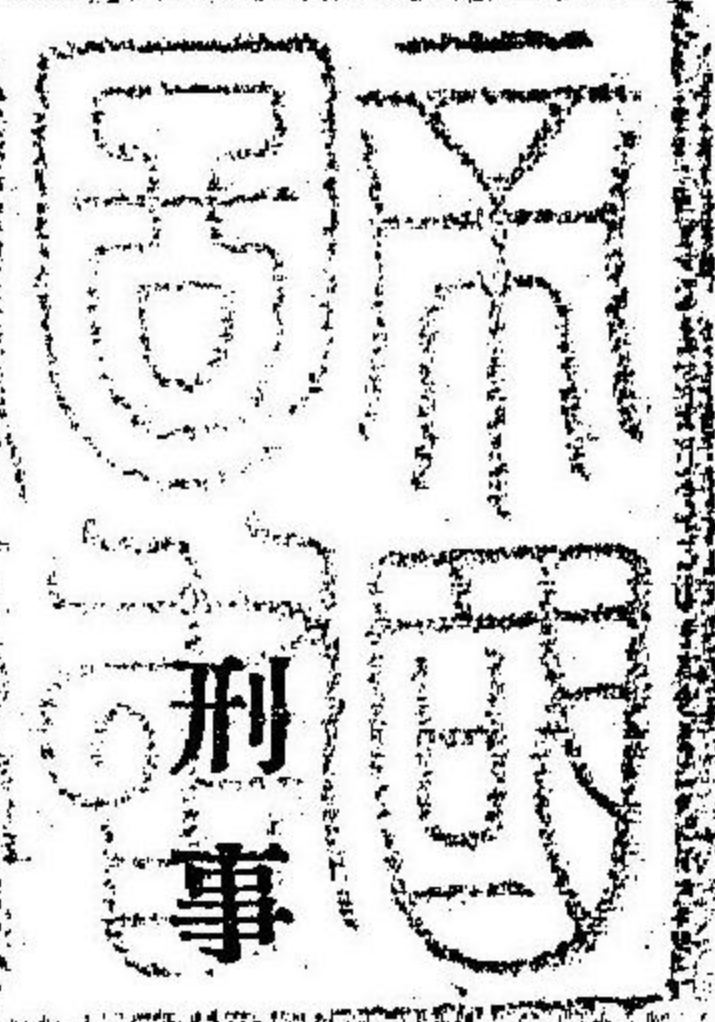
- 代人ニ依ル上訴ノ提起
- 被告ノ辯護チナサマル辯護人ハ被告ニ代テ上訴ヲ爲スコトヲ得ルヤ
- 詐欺取財事件 四六六
 - 控訴審ニ於テ第一審ノ被告事件ヲ重罪ナリトスルトキ又ハ檢事方重罪ナリトシテ控訴シタルトキハ如何ニ處分スヘキヤ
 - 刑事訴訟法第二百六十四條ノ適用
- 出版法違反事件 四六八
 - 第二審判決第一審ト其ノ判決主文ナ同フスルモ理由チ異ニスルトキハ之ヲ取消スヘキヤ
- 私印盜用私書偽造行使詐欺取財未遂事件 四八八
 - 先キニ上告理由由辯明書ヲ提出シタル被告ハ後ニ提出シタル相被告ノ上告趣意書ヲ採用スルコトヲ得ルヤ
 - 他人ノ上告趣意書ノ採用
- 詐欺取財事件 四九六
 - 被告人ニ代リ控訴ノ申立ヲ爲シタル者ハ當然刑訴第二五七條ノ訴訟關係人ナルカ
- 詐欺取財事件 五〇二
 - 證據調ノ違法
 - 失當ナル證據調ヲ理由トスル上告
- 官文書偽造行使詐欺取財事件 五三六
 - 原判決ノ利益變更ノ意義
 - 附加刑ノ言渡ハ不利益ノ變更ナルカ

- 竊盜事件 五三七
 - 原判決ノ不利益變更
 - 原判決トハ如何
- 毆打致死事件 五三六
 - 第二審公判ノ頭初ニ於ケル控訴趣旨ノ陳述者

司法行政例彙報第十八卷索引刑事之部 終

司法行政 判例彙報第十八卷

法學博士 江 木 衷 編纂



刑事判例

冒認販賣事件 明治三十九年(レ)第一〇三號
明治三十九年十月三十日判決 (棄却)
判決要旨

一、從犯ハ正犯ノ管轄裁判所之ヲ管轄スヘキモノナレハ正犯ノ行ハレタル場所ヲ判示スルニ於テハ別ニ從犯ノ行ハレタル場所ヲ示スノ要ナシ

一、一ノ犯罪ニ關スル加重ノ情狀タルヘキ所爲ノ行ハレタル場所ハ判文ニ明示セサルモ違法ニアラス

從犯ノ裁判權〇犯罪ノ場所

犯罪ノ場所。我カ刑事訴訟法ハ犯罪ノ行ハレル地域ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ其
 ノ犯罪ノ管轄裁判所ト爲スカ故ニ犯罪ノ場所ノ如何ヲ定ムルハ裁判ノ管轄ヲ定
 ムルニ付キ最モ必要ナリトス以下左ニ此ヲ分析スヘシ
 犯罪ノ場所ニ付テハ問題ハ犯罪ノ管轄區域内ニ於テ行ハレタルトキハ特ニ
 之ヲ攻究スルノ必要起ラス唯是ヲ攻究スルノ要ハ一ノ犯罪カ二以上ノ管轄區域
 ニ跨リ行レタルトキ則チ(一)甲裁判所管轄内ニ於テ犯罪行爲ヲ爲シ之レニ對スル
 結果カ乙裁判所管轄内ニ於テ生シタルトキ(二)一ノ犯罪カ數個ノ裁判管轄區域内ニ
 亘リ行ハレタルトキ是ナリ犯罪ノ場所ニ付テハ問題ハ以上二ケノ場合ニ遭遇シ
 テ始メテ之ヲ攻究スルノ必要ヲ生スルナリ左ニ是ヲ説カン
 第一 甲裁判所管轄区域内ニ在テ犯罪ヲ實行シ其ノ結果カ乙裁判所管轄区内ニ於
 テ生シタルトキ例ハ犯人カ甲裁判所管内ニ在テ乙裁判所管内ニ在ル者ヲ銃殺
 シタル場合又ハ甲裁判所管内ニ於テ毒藥ヲ服セシメ被害者カ乙裁判所管内ニ至
 リテ死亡シタル場合ノ如キ是ナリ
 近世ノ學說ニ依ルトキハ此ノ場合ニ於ケル犯罪ノ場所ハ甲乙兩裁判所ノ管轄區
 域ハ何レモ犯罪ノ場所ナリト論定ス而シテ其ノ理由ニ曰ク凡ソ殺人若クハ毆打
 ノ如ク死ト云フ結果若クハ創傷ト云フ結果ノ發生ヲ必要トスル犯罪ニ在テハ犯

罪ノ要素ハ獨リ犯罪行爲ニ止マラス死若クハ創傷ト云フ結果ノ發生モ亦タ犯罪
 成立ノ要素ナリト云ハサルヲ得ス犯罪ノ場所ト云フノ意義ハ畢竟犯罪要素ノ出
 現シタル場所ノ謂ニ外ナラサルカ故ニ犯罪要素ノ行ハレタル地ハ何モ之ヲ稱シ
 テ犯罪ノ場所ナリト論定セサルヲ得ス又曰ク犯罪行爲ノ對等ノ地位ニ於テ犯罪ノ
 要素タル結果ノ發生地モ亦タ犯罪ノ場所ト定ムルニアラスハ彼是權衡ヲ失ス
 ルニ至ルヘシ何トナレハ二者共ニ犯罪成立ノ要素タルニ不拘唯其ノ一ヲ採リテ
 犯罪ノ場所トナシ他ヲ否定スルノ理毫モ存スルコトナケレハナリト此ノ説明ハ
 頗ル功妙ニシテ余輩モ亦タ嘗テ之レニ贊同シタルコトアリト雖モ退テ之ヲ再考
 スルトキハ是ヲ以テ適説ナリト云フ可ラサルヲ知ル
 論者ハ犯罪ノ場所ヲ以テ犯罪要素ノ出現シタル地ナリト解シ犯罪行爲ノ地ヲ以
 テ犯罪ノ場所トナスニ異論ナシトセハ均シク犯罪ノ要素タル結果ノ發生地モ亦
 タ犯罪ノ場所ナリト論定スルニアラスハ彼是權衡ヲ失スルニ至ルヘシト云ヘ
 リ論者ノ如ク犯罪ノ要素ヲ分析シテ其ノ要素ノ一カ現出シタル地ヲ以テ犯罪ノ
 場所ト論スルヲ得ヘシトセハ犯罪ノ要素ハ獨リ右兩者ニ止マラス犯罪モ亦タ犯
 罪ノ成立要素ナルカ故ニ犯罪ノ發生シタル地モ亦タ犯罪ノ場所ト云ハサル可ラ
 ス抑モ犯罪ハ内心ノ決定ニシテ其ノ本人ニアラサルヨリハ其ノ發生ハ容易ニ外

從犯ノ裁判權○犯罪ノ場所

部ヨリ観知スルコト能ハス而モ尙ホ是ヲ以テ裁判管轄ヲ定ムル標準則チ犯罪ノ
 場所トナサンカ犯罪ノ場所ヲ明カニスルカ爲メニハ往々云フ可ラサル至難ノ問
 題ニ遭遇シ完全ナル解決ヲ得ルコト到底之ヲ望ム可ラサルニ至ル之レ豈ニ法律
 ノ精神ナランヤ故ニ余輩ハ信ス犯罪ノ場所トハ犯罪行為ノ行ハレタル場所ノ謂
 ナリトスル從來ノ學說ノ正ナルコトヲ乞フ之ヲ説ク

犯罪ノ場所ノ如何ヲ明カニセント欲セハ先決問題トシテ犯罪トハ如何ナル意義
 ナルカヲ論定セサル可ラス余輩ノ信スル所ニ依レハ犯罪ハ其ノ要素ヲ分析スル
 トキハ犯罪行為及ヒ結果(專ラ結果ト云フ三者ニ分ル)雖モ犯罪ノ實體ハ行為ニ
 外ナラス結果ノ發生ヲ以テ犯罪ノ要素ト云フハ概味來レハ畢竟是レ行為カ犯罪
 トナルノ時期ヲ定メタルニ過スキ則チ發砲若クハ毒藥ヲ服用セシムルノ行為ハ
 行為ノモノカ已ニ殺人ノ行爲ト看做サス之ニ對シテ直チニ殺入ノ刑ヲ擬スル
 理論ニ於テ然シテ妨クルコトナシ然レトモ法律ハ對シテ直チニ殺入ノ刑ヲ擬スル
 テ直チニ完全ナル行爲ト看做サス之ニ對シテ結果ノ發生ヲ見ルニ
 及ンテ始メテ其ノ行爲カ殺人ノ行爲トナルノ對シテ結果ノ發生ヲ以テ犯罪ノ要素
 トナスハ其ノ行爲ヲ以テ犯罪トナシ之ヲ罰シ得ヘキ時期ヲ定メタルモノニシテ
 犯罪ノ本體ハ依然犯罪行為トシテ存スルモノナルヲ知ルニ足ラン

更ラニ他ノ方面ヨリ觀察スルニ結果夫レ自體ハ決シテ犯罪ニアラス犯罪カ犯罪
 四四

ノ成立要素タルニ拘ラス之ヲ以テ直チニ犯罪ト唱フ可ラサルト等シク結果ハ犯
 罪ノ要件タルニ相違ナキモ結果夫レ自體ハ決シテ犯罪ニアラス殺人ハ人ノ生
 命ヲ絶ツ行爲ナリト云フト雖モ其ノ實ハ單ニ絶命ノ原因ヲ與フルニ過キス服
 用シタル毒物カ體內ニ充滿シ若クハ其ノ被リタル創所ヨリ出血シテ遂ニ死ニ至
 ルハ是レ物理的作用ニシテ決シテ人力ノ企及スル所ニアラサルナリ故ニ結果ノ發生ハ
 則チ物理的作用ニシテ決シテ犯罪ニアラサルナリ

要是ニ結果ハ犯罪ニ非ス犯罪ノ時期ヲ定ムル標準ニ過キス果シテ然ラハ結果ノ
 發生地ヲ以テ犯罪ノ場所トナスノ議論ハ其ノ當ヲ誤レル者ナルヲ自ラ明カナリ

第二一ノ犯罪カ數個ノ裁判管轄區域ニ亘リ行ハレタル時例是ハ犯人カ汽車若
 クハ汽船中ニ乗組ミ數個ノ裁判區域ヲ通過スル間ニ一ノ犯罪ヲ實行スルカ如シ
 此ノ場合ニ在テハ或ハ犯罪ニ着手シタル地ヲ以テ犯罪ノ場所ナリト云ヒ或ハ犯
 罪ノ完成シタル地ヲ以テ犯罪ノ場所ナリト主張シ諸說一定スル所ナシト雖モ余
 輩ハ犯罪ニ着手ノ時ヨリ其ノ完成ニ至ル迄ノ間ニ通過シタル地ハ何レモ犯罪ノ
 場所ナリト論定スルヲ憚カラサルナリ他ナシ犯罪ノ場所トハ犯罪行為ノ行ハレ
 タル場所ヲ意味スルモノニシテ必スシモ其ノ地ニ於テ行為ノ完成シタルコトヲ
 必要トセサレハナリ

第一審 鹿兒島地方裁判所 第二審 長崎控訴院

從犯ノ裁判權○犯罪ノ場所

五

被告人 内田重助

右冒認販賣被告事件ニ付明治三十九年九月十八日長崎控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書ノ第一點ハ凡ソ從犯ハ正犯ノ成立スルニ因テ始メテ罰スヘキモノナレハ從犯トシテ處罰スルニハ宜シク正犯者ノ犯罪ヲ行ヒタル場所及ヒ時期ヲ判文ニ明示スルコトヲ要ス然ルニ原判文ヲ視ルニ被告ハ宮之原與次郎カ樟木ヲ盜伐シテ樟腦ヲ製造シ森林法第三十八條第二號ニ該當スル輕罪犯ノ從犯タル所行アルモノトシテ處分セルニ係ハラズ第一原院カ從犯ノ所爲ナリト認メタル「被告カ與次郎ニ樟木ヲ販賣セル行爲カ果シテ何レノ所ニ於テ行ハレタルヤヲ示サス又正犯者與次郎ノ盜伐ヲ行ヒタル時期及ヒ盜伐セル樟木ニヨリ樟腦ヲ製造シタル場所ノ何レナルヤヲ明示セサルハ判決ニ理由ヲ付セサル違法アルモノト思料スト云フニ在レトモ○犯罪ノ場所ヲ判示スルハ要ハ裁判管轄ヲ明ニスルニアリ而シテ從犯ハ正犯ノ管轄裁判所ノ管轄ニ屬スルコト刑事訴訟法第二十八條ニ規定スル所ノ如クナルヲ以テ正犯行爲ノ行ハレタル場所ヲ判示スルニ於テハ別ニ從犯行爲ノ場所ヲ示スノ要ナシ原判決ノ認定ニ依レハ正犯タル宮之原與次郎カ樟木ノ盜伐ヲ爲シタル場所ハ其所在始良郡蒲生村大字漆字池ノ尾ナルコト自ラ明カナレハ被告カ與次郎ニ樟木ヲ販賣シタル從犯ノ行爲カ何レノ所ニ行ハレタルヤヲ判示セサルモ不法ト謂フヲ得ス又犯罪ノ時ヲ判示スルハ通例主トシテ公訴時効ノ成就セサルヲ明カニスル爲メナレハ他ノ判示ニ依リ公訴時効ノ未タ成就セサルコト明確ナルトキハ犯罪ノ日時ヲ詳示ナキモ破毀ノ理由ト爲スニ足ラス原判決ニ

依レハ被告ハ明治三十九年三四月頃正犯與次郎ヨリ樟木賣買ノ申込ヲ受ケ之ヲ賣却シテ其盜伐ヲ幫助シ與次郎ハ爾後盜伐ヲ遂行シタルモノナルコト自ラ明カニシテ本件ハ未タ公訴ノ時効ニ罹ラサルコト明白ナル上他ニ犯罪ノ日時ヲ明示スルコトヲ必要トスル事件ニ非サルヲ以テ原判決カ犯罪ノ時日ヲ詳示セサル點ハ破毀ノ理由ト爲ス可ラス又與次郎カ盜伐ノ樟木ヲ以テ樟腦ヲ製造シタル所爲ハ盜伐罪ヲ構成スル要件ニ非スシテ其加重ノ情狀タルニ過キササルヲ以テ原判決カ其場所ヲ明示セサルハ固ヨリ違法ナリト謂フヲ得ス

●詐欺破産事件 明治三十九年(レ)第六九五號 (破毀) 明治三十九年十月三十日判決

判決要旨

- 一、債務者カ支拂停止又ハ破産宣告ノ前後ヲ不問履行スルノ意ナキ義務又ハ履行スルコト能ハサルコトヲ知リテ義務ヲ負擔スルトキハ詐欺破産ノ罪ヲ構成ス
- 一、履行スル意ナクシテ負擔シタル義務又ハ履行スルコト能ハサルヲ知リテ負擔シタル義務トハ必スシモ此等ノ義務ヲ現實ニ負擔シタルコトヲ不要苟モ債務者カ履行スルノ意ナク

詐欺破産罪ノ構成

シテ又ハ履行スル能ハサルコトヲ知リテ債務發生ノ原因タル法律行為ノ外形ヲ具フル行為ヲ爲スニ於テハ其行為カ法律上有效ナルト無効ナルト將タ取消シ得ヘキモノナルト否トヲ不問也
一、贓物ノ還給ニ關スル刑法第四十八條ノ規定ハ民法上ノ請求ヲ基礎トスル原狀回復ノ方法ニ過キサルヲ以テ同條ニ依リ直チニ贓物ヲ被害者ニ還附スヘキヤ否ヤハ民法上ノ權利關係如何ニ從ヒ之ヲ決セサル可ラス

說明 別文指示

抑モ商法破産編第五十條ニ於テ詐欺破産ノ罪トシテ處罰スル破産者ノ所爲ハ多クハ不正ニ破産財團ノ負擔ヲ増加シ以テ破産債權者ニ損害ヲ加フルモノニシテ商法ノ趣旨ハ主トシテ右所爲ヲ防遏シ以テ破産債權者ヲ保護スルニ在ルコト勿論ナレトモ其他破産財團ノ損害トハナラサルモ破産者カ支拂停止又ハ破産宣告ノ前後ヲ問ハス其ノ信用ヲ濫用シテ他人ニ損害ヲ加フルコトヲ防遏セントス

ル趣旨ヲモ包含スルモノナルコトハ場合ノ如何ヲ區別セス汎ク同條前段ノ所爲ヲ以テ詐欺破産ノ罪トナシタルニ依リテ觀ルモ明カナリ又同編第九百八十五條以下ノ規定ヲ見ルニ債務者カ支拂停止又ハ破産ノ宣告ノ前後ニ於テ爲シタル所爲ニハ或ハ當然無効タルモノアリ或ハ之ニ對シ異議ヲ述フルコトヲ得ルニ止マルモノアリ故ニ若シ破産者ノ爲シタル法律行為ニ基キ法律上債務ノ發生セサルトキハ詐欺破産ノ罪ヲ構成セサルモノトセハ破産者カ履行ノ意ナク又ハ履行スル能ハサルコトヲ知リテ右異議ヲ述フルコトヲ得ヘキ行為ヲ爲シタルトキハ詐欺破産ノ罪成立スルニ拘ラス當然無効タルヘキ行為ヲ爲シタルトキハ同罪成立スルコトナシトノ結論ヲ生シ同シク破産ニ際スル詐欺ノ行為ニシテ一ハ詐欺破産ノ刑ニ處セラレ一ハ單ニ詐欺取財ノ刑ニ處セラレハニ過キサルニ至ラン斯ノ如キハ刑罪ノ權衡其ノ當ヲ失スル甚タシキモノニシテ又詐欺破産ノ刑ヲ設ケ破産ニ際スル詐欺行為ヲ嚴罰スル立法ノ精神ニ背戾スルモノト云ハサルヘカラス加之同編第九百八十五條第二項ニ依レハ破産者カ破産宣告後ニ爲シタル行為ハ當然無効ノモノナレハ債務ノ發生ヲ以テ詐欺破産罪構成ノ要件トセハ破産者カ破産宣告後履行ノ意ナク又ハ履行スル能ハサルコトヲ知リテ或法律行為ヲ爲シタルトキモ詐欺破産ノ罪ハ常ニ成立セサルモノト云ハサルヲ得ス果シテ然ラハ同編第五十條ニ破産宣告前後ヲ問ハス下アルモ破産宣告後ノ行為ニ付テ

詐欺破産罪ノ構成

ハ同條前後ノ適用ヲ見ルコト絶テ之レナクシテ破産宣告ノ後ナル法律ノ文旨ハ全ク徒法ニ歸スルニ至ラン然ルニ義務ヲ負擔シタルトキナル法文ヲ前記説明ノ如ク解釋スルトキハ破産宣告後ノ行為ニ付テモ同條前段ノ適用ヲ見ルコトアリテ破産宣告ノ後ナル法律ノ文旨ヲ有效ニ解シ得ルノミナラス詐欺破産ノ刑ヲ設ケタル立法ノ精神ニモ適合スルモノトス故ニ假令法律行為ノ要素ニ錯誤アリテ其行為無効ナリトスルモ詐欺破産罪ノ構成ヲ妨クルコトナシ

(參照) 破産宣告ヲ受ケタル債務者カ支拂停止又ハ破産宣告ノ前後中間ハ履行スル意ナキ義務又ハ履行スル能ハサルコトヲ

知リタル義務ヲ負擔シタルトキ又ハ債權者ニ損害ヲ被ラシムル意思ヲ以テ貸方財産ノ全部若クハ一分ヲ隱匿シ轉匿

シ若クハ脱漏シ又ハ貸方金額ヲ過度ニ掲ケ又ハ商業帳簿ヲ毀滅シ隱匿シ若クハ偽造變造シタルトキハ詐欺破産ノ刑ニ

處ス(明治二十三年法律第三十二條商法第五十條)

(參照) 裁判費用贖物ノ還給損害ノ賠償ノ被害者ノ請求ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之ヲ審判スルコトヲ得若シ贖物犯人ノ手ニア

ル時ハ請求ナシト雖モ直チニ之ヲ被害者ニ還付ス(刑法第四十八條)

第一審 仙臺地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 佐藤源三郎 辯護人 小笠原勇藏 青山幾之助

右詐欺破産被告事件ニ付明治三十九年五月二十九日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ原院檢察長代理檢察事堤定次郎並ニ被告兩名ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

原院檢察長代理檢察事堤定次郎上告趣意書ノ第一被告源三郎カ諸公債株式賣買業者ニシテ明治三十九年一月二十三日破産ノ宣告ヲ受ケ其決定確定シタルコトハ原判決ノ認ムル所ナリ而シテ原判決ハ被告カ豫テ諸公債取引ノ關係アル大塚民三郎ニ對シ破産宣告ノ前即チ明治三十八年十二月九日額面二千五百圓ノ帝國五分利付公債證書ヲ金二千九百七圓五十錢ニ買取り吳レタキ旨虛偽ノ申込ヲ爲シ民三郎カ之ニ應シ其雇人ヲシテ右金額ヲ被告方ニ持參セシムルヤ被告ハ現物ノ引渡ヲ爲スヘキニ付先ツ其金額ヲ交付スヘシト欺瞞シ之ヲ騙取シタル事實ハ之ヲ確認シ乍ラ該行為ハ其法律行為ノ要素ニ錯誤アルヲ以テ之ニ關スル民三郎ノ意思表示ハ法律上無効ニシテ當事者間ニ賣買成立セス從テ被告ニ對シテハ法律行為ニ因ル義務發生セス然リ而シテ詐欺破産ハ商法破産編第五十條ニ規定スル如ク履行スル意ナキ義務又ハ履行スル事能ハキル義務ヲ負擔シタルトキ並ニ其他ノ場合ニ於テ成立スルモノニシテ法律行為ニ因ル債務ノ發生ヲ要件トナスモノナレハ前記ノ事實ノ如ク意思表示無効ノ爲メ法律行為ニ基ク債務發生セサル場合ニ於テハ其義務タルヤ不當利得又ハ不法行為ノ義務タルヘキモ法律行為ニ因ル義務ニ非サルカ爲詐欺破産ノ所爲ト認ムルコト能ハサルヲ以テ刑法ニ所謂詐欺取財ノ行為ニ外ナラストノ理由ヲ以テ刑法第三百九十條第一項第三百九十四條ヲ適用セリ抑モ商法第五十條ニ掲クル「履行スルノ意ナキ義務」トハ果シテ斯ノ如ク狹隘ニ解スヘキモノナリヤ本職ノ見解ヲ以テスレハ商人カ履行スルノ意ナクシテ法律行為ニ因リ義務ヲ諾約スレハ即チ是レ履行スルノ意ナキ義務ヲ負擔シタルモノニシテ其行為カ結局有效ナリヤ又ハ無効ナリヤ將タ取消シ得ヘキモノナリヤヲ區別スルコトナク又其意思ヲ發表スルニ當リテ積極

詐欺破産罪ノ構成

的欺罔手段ヲ用フルト消極的隱秘手段ニ依ルトヲ問フノ必要ナシ要スルニ履行スルノ意ナクシテ
他人ニ對シ法律行為ノ形式ニ依リ義務ヲ諾約スルヲ以テ足レリトス然リ而シテ法律行為ニ因リ眞
ニ義務ヲ負擔シ之ヲ履行スルノ意思アルカ如ク裝ウテ他人ヨリ財物ヲ騙取スルハ所謂履行スル意
ナキ義務ヲ負擔スルノ最モ顯然タルモノニシテ商法第五十條ニ所謂「履行スルノ意ナキ義務ヲ
負擔スル」ノ中ニハ法律行為ニ因ル詐欺取財ノ行為ハ悉ク包含スルモノト謂ハサルヘカラス若シ夫
レ破産ノ前後ニ於テ他人ト取引ヲ爲スニ乘シ又ハ取引ヲ爲スニ託シ欺罔手段ヲ用キテ財物ヲ騙取
シタルモノハ相手方ノ錯誤ニ基ク意思表示無効ノ爲メ有效ニ法律行為成立セサルカ故單一ナル詐
欺取財ノ行為ニシテ詐欺破産ノ行為ヲ組成セストセハ寧ロ商人ニ對シ特ニ嚴重ナル詐欺破産ノ制
裁ヲ設クルノ必要ナキニアラサヤ之ヲ極言スレハ商人カ當初ヨリ財物詐取ノ目的ヲ以テ店舗ヲ開
キ取引ニ託シ衆人ヲ欺罔シ盛シニ財物ヲ騙取スルモ（勿論破産宣告ノ前後ニ在リテ）其所爲タル
ヤ單一ナル詐欺取財ニシテ詐欺破産ヲ以テ論スルヲ得スト謂ハサルヘカラサルニ至ラン然レモ斯
ノ如キ行為ハ履行スルノ意ナクシテ義務ヲ負擔スルノ最モ甚タシキモノニアラサヤ又立法上ヨリ
觀ルモ商法ニ於テ商人ノ支拂停止ヲ重要視シ破産ノ制度ヲ設ケ更ニ其破産ニ關スル詐欺ノ所爲ヲ
最モ重大視シ之ヲ防遏センカ爲メ特ニ刑罰ヲ重クシタルニ拘ハラサス惡意ヲ以テ積極的手段ニ因レ
ル詐欺ノ所爲ハ輕キ刑ニ處セラレ情狀輕キ消極的方法ニ因レル詐欺ノ所爲ハ却テ重キ刑ニ處セラ
ル、モノトセル理由果シテ何クニ在ルヤ立法上刑ノ輕重ヲ顛倒スルノ謂レナキコト明カナリ本件
ハ被告カ從來ノ商取引上ノ信用ヲ利用シ公債證書ヲ賣買シタキ旨虛偽ノ申込ヲ爲シ大塚民三郎ヲ

シテ其雇人ニ其代金ヲ持參セシメ直チニ現物ノ引渡ヲ爲スヘキ旨ヲ告ケ該金額ヲ交付セシメテ之
ヲ騙取シタル事實ニシテ被告ハ公債證書ヲ賣渡スヘシト詐稱シ其給付ノ爲メ代金ノ前拂ヲ受クル
旨ヲ以テ之ヲ取得シタルモノナリ即チ被告ハ公債ヲ給付スルノ意ナクシテ之カ義務ヲ諾約シタル
モノナレハ則チ履行スルノ意ナキ義務ヲ負擔シタルモノト謂ハサルヘカラス而シテ被告ハ破産宣
告ノ前ニ於テ此行為ヲ爲シタルモノナレハ詐欺破産ノ犯罪行為ヲ組成スヘク單一ナル詐欺取財ヲ
以テ論スヘキモノニアラス然ルニ原判決ハ商法第五十條ノ解釋ヲ誤リ被告ノ前記ノ所爲ニ對シ
刑法上ノ詐欺取財ノ法條ヲ適用シ詐欺破産ノ法條ヲ適用セザリシハ法律ニ違背スルノ裁判ナリト
云フニ在リ○因テ按スルニ商法破産編第五十條ニハ「破産宣告ヲ受ケタル債務者カ支拂停止又
ハ破産宣告ノ前後ヲ問ハス履行スルノ意ナキ義務又ハ履行スル能ハサルコトヲ知リタル義務ヲ負擔
シタルトキ云々ハ詐欺破産ノ刑ニ處ス」トアリテ「義務ヲ負擔シタルトキ」ナル文詞ニ拘泥シテ
解釋ヲ爲ストキハ同條前段ノ犯罪ヲ構成スルニハ現實ニ債務ノ發生シタル場合ナルコトヲ必要ト
シ法律行為ノ要素ニ關スル錯誤又ハ其他ノ原因ニ依リテ意思表示カ無効トナリ法律上債務ノ發生
セサル場合ニ於テハ詐欺破産ノ罪ヲ構成セサルモノ、如シト雖モ同條ニ所謂「義務ヲ負擔シタル
トキ」トアルハ即チ義務ヲ負擔スルニ至ルヘキ法律行為ヲナシタルトキノ趣旨ニ外ナラズシテ債
務ノ發生シタルトキハ勿論債務ノ發生セザルトキト雖モ苟クモ債務發生ノ原因タルヘキ法律行為
ノ外形ヲ具フル所爲アリテ破産者カ形體上義務ヲ負擔シ而シテ初メヨリ履行ノ意ナク又ハ履行シ
能ハサルコトヲ知リタルトキハ破産者ノ目的、那邊ニ在ルヲ問ハス常ニ詐欺破産ノ罪ヲ構成スル

詐欺破産罪ノ構成

モノト謂ハサルヘカラス抑モ商法破産編第一千五百條ニ於テ詐欺破産ノ罪トシテ處罰スル破産者ノ所爲ハ多クハ不正ニ破産財團ノ負擔ヲ増加シ以テ破産債權者ニ損害ヲ加フルモノニシテ立法ノ趣旨ハ主トシテ右所爲ヲ防遏シ以テ破産債權者ヲ保護スルニ在ルコト勿論ナレトモ其他破産財團ノ損害トハナラサルモ破産者カ支拂停止又ハ破産宣告ノ前後ヲ問ハス其信用ヲ濫用シテ他人ニ損害ヲ加フルコトヲ防遏セントスル趣旨ヲモ包含スルモノナルコトハ場合ノ如何ヲ區別セス況ク同條前段ノ所爲ヲ以テ詐欺破産ノ罪トナシタルニ依リテ觀ルモ明カナリ又同編第九百八十五條以下ノ規定ヲ見ルニ債務者カ支拂停止又ハ破産宣告ノ前後ニ於テ爲シタル所爲ニハ或ハ當然無効タルモアリ或ハ之ニ對シ異議ヲ述フルコトヲ得ルニ止マルモノアリ故ニ若シ破産者ノ爲シタル法律行為ニ基キ法律上債務ノ發生セサルトキハ詐欺破産ノ罪ヲ構成セサルモノトセハ破産者ガ履行ノ意ナク又ハ履行スル能ハサルコトヲ知リテ右異議ヲ述フルコトヲ得ヘキ行為ヲナシタルトキハ詐欺破産ノ罪成立スルニ拘ラス當然無効タルヘキ行為ヲナシタルトキハ同罪成立スルコトナシトノ結論ヲ生シ同シク破産ニ際スル詐欺ノ行為ニシテ一ハ詐欺破産ノ刑ニ處セラレ一ハ單ニ詐欺取財ノ刑ニ處セラレニ過キサルニ至ラン斯ノ如キハ刑罰ノ權衡其當ヲ失スル甚タシキモノニシテ又詐欺破産ノ刑ヲ設ケ破産ニ際スル詐欺ノ所爲ヲ嚴罰スル立法ノ精神ニ背戾スルモノト謂ハサルヘカラス加之同編第九百八十五條第二項ニ依レハ破産者カ破産宣告後ニ爲シタル所爲ハ當然無効ノモノナレハ債務ノ發生ヲ以テ詐欺破産構成ノ要件トセハ破産者カ破産宣告後履行ノ意ナク又ハ履行スル能ハサルコトヲ知リテ或法律行為ヲナシタリトスルモ詐欺破産ノ罪ハ常ニ成立セサルモノ

ト謂ハサルヲ得ス果シテ然ラハ同編第一千五百條ニ「破産ノ宣告ノ前後ヲ問ハス」トアルモ破産宣告後ノ行為ニ付テハ同條前段ノ適用ヲ見ルコト絶エテ之レナクシテ破産宣告ノ後ナル法律ノ文旨ハ全ク徒法ニ歸スルニ至ラン然ルニ「義務ヲ負擔シタルトキ」ナル法文ヲ前記説明ノ如ク解釋スルトキハ破産宣告後ノ行為ニ付テモ同條前段ノ適用ヲ見ルコトアリテ破産宣告ノ後ナル法律ノ文旨ヲ有效ニ解シ得ルノミナラス詐欺破産ノ刑ヲ設ケタル立法ノ精神ニモ適合スルモノトス、故ニ本件第二ノ事實ハ假令法律行為ノ要素ニ錯誤アリテ其行為ヲ無効ナリトスルモ詐欺破産罪ノ構成ヲ妨クルコトナシ況ヤ原判決ノ認ムル所ニ依レハ本件第二ノ事實ハ被告源三郎ハ明治三十八年十月九日大塚民三郎ニ對シ額面二千五百圓ノ帝國五分利附公債證書ヲ現物引替ニ金二千九百九十七圓五十錢ニ買取リ吳レタキ旨虛偽ノ申込ヲ爲シタル處民三郎ハ之ヲ信シ同月十一日午前十一時頃雇人寺田嘉吉ヲシテ右金額ヲ被告方ニ持參セシメタルヨリ被告ハ同人ニ對シ現物ノ引渡ヲ爲スニ付キ先ツ其金額ヲ交付スヘシト欺キ之ヲ騙取シテ逃走シタルモノナリト云フニ在リテ被告ハ義務履行ノ意ナクシテ大塚民三郎ニ對シ額面二千五百圓ノ帝國五分利附公債證書ヲ二千九百九十七圓五十錢ニ賣渡スノ意思ヲ表示シ民三郎ハ之ニ應シ雇人寺田嘉吉ヲシテ其代金ヲ被告方ニ持參セシメタルモノニシテ嘉吉カ其代金ヲ被告ニ交付スル當時ニ於テハ民三郎ニ代ハリ右公債證書ヲ被告指定ノ代金ヲ以テ買取ルノ意思ヲ表示シタルモノナルコト明カナレハ被告ノ眞意ハ金圓ノ騙取ニ在リテ公債證書ヲ給付スルノ意思ナカリシモノナルモ是民法第九十三條前段ニ該當スル場合ニシテ且法律行為ノ要素ニ錯誤アルコトナキカ故ニ被告ト民三郎トノ間ハ買賣契約ハ既ニ成立シ被告カ

詐欺破産罪ノ構成

法律上公債證書ヲ給付スルノ義務ヲ負擔シタルヤ毫モ疑ヲ容ルヘカラス唯民三郎ニ於テハ右ノ如ク被告ノ爲メ欺罔セラレテ意思表示ヲ爲シタルモノナレハ之ヲ取消シ得ルニ過キス而シテ被告カ明治三十九年一月二十三日仙臺地方裁判所ニ於テ破産ノ宣告ヲ受ケ其決定確定シタルコトハ原判決ニ明カニ認メアル所ナルヲ以テ被告カ明治三十八年十二月中前示ノ如ク民三郎ニ對シ履行スル意ナキ義務ヲ負擔シタル所爲ハ商法破産編第五十條ニ該當スルモノトス然ルニ原院カ被告ノ第二所爲ハ詐欺破産ノ罪ニアラスシテ詐欺取財ノ罪ナリトシ刑法第三百九十條第一項第三百九十四條ヲ適用シタルハ即チ擬律ノ錯誤ニシテ檢事ノ上告ハ此點ニ於テ其理由アリ

第二原判決ハ其第一ノ犯罪事實ノ部ニ於テ被告ハ三上綱雄ヨリ公債證書ヲ取得シタル事實及ヒ近藤誠造ヨリ國庫債券ヲ取得シタル事實ニ付テハ孰レモ買賣契約ニ因リ履行スルノ意ナキ義務ヲ負擔シ之カ支拂ヲ爲サ、リシ事實ヲ認メ詐欺破産ノ法條ヲ適用セリト雖モ其犯罪ノ動機トシテハ被告カ漸次負債ヲ醸シ到底誠實ナル取引ヲ爲スコトヲ得サル情況ニ陥リタルヨリ履行スルノ意思ナカリシコトヲ前提トシ其各犯罪ノ內容事實ヲ認ムル爲メ援用セル證據中三上綱雄近藤誠造ノ豫審調書ニ據レハ被告ハ右ノ者等ノ問合ハセニ對シ一定ノ代金ヲ以テ各其公債證書又ハ國庫債券ヲ買取ルヘキ旨ヲ告ケ之ヲ受取リナカラ言ヲ左右ニ託シテ代金ノ支拂ヲ爲サス殊ニ綱雄ノ如キハ現物授受ノ際現金ヲ要求セシニ拘ハラヌ被告ハ種々ノ詐言ヲ設ケ強テ預金證書ヲ交付シ以テ公債證書ヲ領得シタル旨證言スルモノナルヲ以テ其證據ノ內容ニ依レハ右ノ取引ニ於ケル被告ノ行爲ハ同シク眞ニ買取ルモノ、如ク裝ヒ之ヲ騙取シタルモノナレハ之ヲシテ大塚民三郎トノ關係ニ於ケル

犯罪事實ノ認定ト同一筆録ニ出テシメハ右二箇ノ所爲モ亦法律行爲ノ要素ニ錯誤アルカ爲メ詐欺取財ノ行爲タルニ過キスシテ詐欺破産ノ行爲ニアラスト判定セサルヘカラサルニ至ラン然ルニ原判決ハ右二箇ノ所爲ニ付キテハ其判斷ノ資料ト爲シタル證據ノ內容ト事實ノ認定ト相合致セサルコト此ノ如キノミナラス殆ント同一ノ趣旨內容ナル證據ヲ基礎トシテ認定シタル三箇ノ犯罪事實中其二ハ詐欺破産ノ行爲ナリトシ他ノ一ハ詐欺取財ノ行爲ニ外ナラストセルニ至リテハ矛盾モ甚クシク要スルニ理由齟齬ノ裁判タルヲ免レスト云フニ在ルモ○前論旨ヲ理由アリトシ原判決ヲ破毀スル以上ハ本論旨ニ對シテハ別ニ説明ノ要ナシ

第三原判決ハ押收物件中被告ノ手ニ在リタル賍物ハ被害者ニ還付スト言渡セリ右賍物トハ押收目錄ニ據レハ被告カ大塚民三郎ヨリ受領シタル金圓ノ殘分ヲ指示スルモノナリ然ルニ被告ノ所爲ニシテ前第一項所論ノ如ク詐欺破産罪ト爲ル以上ハ其犯罪ハ履行スルノ意ナキ義務ヲ負擔スルニ因リテ當然成立スルモノニシテ金圓物件ノ授受ハ其犯罪ノ成立要素ニ非ス然レハ假令其義務ノ諾約ニ伴ヒ金圓物件ノ授受アリトスルモ其金圓物件タルヤ賍物ニアラスシテ犯人ノ資産ニ歸シ以テ破産財團ノ一部ヲ組成スルノ結果ヲ生スルモノナリ故ニ本件ニ於テ被告ノ手中ニ現存セル金圓ハ一旦被告ノ有ニ歸シ破産手續開始ノ今日ニ在リテハ既ニ破産財團ニ歸屬シ在ルモノナルヲ以テ之ヲ被告ニ還付スルノ言渡ヲ爲スノ適法ニシテ之ヲ相手方タル大塚民三郎ニ還付スト言渡シタル原判決ハ亦適法ノ裁判タルヲ免レサルナリト云フニ在リ○因テ按スルニ大塚民三郎ヨリ受領シテ被告ハ手ニアリタル押收ノ金圓ハ被告カ民三郎ニ公債證書ヲ給付スヘキ義務ヲ負擔シ其對價トシテ受

詐欺破産罪ノ構成

領シタルモノニシテ詐欺破産ノ罪ヲ犯スニ因テ得タル贓物ナルコトハ論ヲ俟タズト雖モ贓物ノ還給ニ關スル刑法第四十八條ノ規定ハ民法上ノ請求ヲ基礎トスル原狀回復ノ一方法ニ過キサザルヲ以テ同條ニ依リテ直ニ贓物ヲ被害者ニ還付スヘキヤ否ヤハ民法上ノ權利關係如何ニ從ヒ之ヲ決セサルヘカラス而シテ本件ニ在テハ第一點ノ論旨ニ對シテ既ニ説明シタルカ如ク被告ト民三郎トノ間ニハ公債證書ノ賣買契約既ニ成立シ民三郎ノ意思表示ハ單ニ之ヲ取消シ得ルニ過キサザルモノナルニ民三郎ヨリ贓物ノ還付ヲ請求シ又ハ其他ノ方法ニ依リ取消ノ意思ヲ表示シタル事跡ナケレハ裁判所ヨリ進ンテ其還付ヲ命スルヲ得サルモノトス故ニ原院カ之ヲ被害者ニ還付スルノ言渡ヲ爲シタルハ違法ニシテ檢事ノ上告ハ此點ニ於テモ亦結局其理由アルモノトス

●詐欺取財事件

明治三十九年(レ)第九五四號
明治三十九年十一月八日判決

(棄却)

判決要旨

一、一旦提起セラレタル公訴ハ後チ起訴狀ヲ紛失スルモ爲メニ

其ノ效力ヲ失フモノニアラス

一、一罪數罪ヲ區別スルニ付テハ侵害セラレタル法益ノ單數ナルヤ複數ナルヤヲ以テ標準トナス

一、法益ハ各人ニ固有セラレ各々獨立シテ犯罪ノ目的トナスコトヲ要スルモノト數個ノ法益ヲ一括シテ之ヲ犯罪ノ目的トナスコトヲ得ルモノトアリ。人ノ生命名譽體軀等ノ如キ其ノ人ト分離ス可ラサル法益ハ前者ニ屬シ其ノ主體ト分離スルコトヲ得ル財産上ノ法益ハ後者ニ屬ス

一、一般人ヲ欺罔スルノ意思ヲ以テ唯一ナル詐術ヲ用ヒ數名人ヲ其ノ術中ニ陷レ因テ以テ財物ヲ騙取シタル所爲ハ一罪ニシテ數罪ニアラス

第一審 東京地方裁判所

第二審 宮城控訴院

被告人 平塚茂助

外一名

辯護人

川島長治
信岡雄四郎

公訴提起後ニ於ケル訴狀ノ紛失○法益ノ侵害ト一罪數罪トノ關係

右詐欺取財被告事件ニ付明治三十九年七月十日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告兩名ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

被告茂助辯護人川島龜夫上告趣旨擴張書第四點ハ本件記録ヲ閱スルニ第二ノ事實ニ對スル起訴ナキニ之ヲ有罪トシテ處罰シタルハ訴ナキニ審理シタル不法アルモノニシテ第二ノ事實ニ對シテハ公訴不受理第三ニ對シテハ之ヲ破毀シテ事件ヲ移送スヘキモノナリト確信スト云フニ在リ○依テ一件記録ヲ調査スルニ第二ノ事實ニ對スル檢事ノ起訴狀ハ記録中ニ現存セルコトハ明確ナリト雖モ此起訴狀ハ當初ヨリ提出セラレサリシモノナルヤ若クハ一旦提出セラレタルモ其後ニ至リ紛失シタルモノナルヤハ本訴ニ於テ決スヘキ重要ノ争點ナリ何トナレハ起訴狀ノ現存セサル原由前者ナリトスレハ裁判所カ之ヲ受理審判シタルハ訴ヲ受ケサル事件ニ付審判ヲ爲シタル不法アリテ上告論旨ハ其理由アルモノトナルヘク之ニ反シテ起訴狀ノ存在セサル事由後者ナリトセハ適法ニ起訴セラレタル公訴ハ其後ニ至リ起訴狀ノ紛失シタル爲メニ其效力ヲ失フヘキモノニ非サルヲ以テ裁判所カ事件ヲ審判シタルハ適法ニシテ上告論旨ハ其理由ナキニ歸スヘケレハナリ依テ當院ハ此點ニ付審査ヲ遂クルニ明治三十七年檢第七百三十二號記録ノ冒頭文書ノ標目書面ノ月日丁數ヲ揭ケタル目錄中「東京地方裁判所豫審」ナル題目ヲ付シタル部分ノ初筆ニ「起訴狀、一月二十三日、十六(十七)ト改竄シタル形跡ヲ認ム」トアリテ此記載ニ徴スルトキハ本件豫審ノ記録中ニハ本件ノ起訴狀ノ存在シタルモノナルコトヲ推測スルニ難カラス而シテ更ニ目錄中ノ此記載ト記録ノ内容トヲ比較對照スルニ本件記録ノ丁數一ヨリ四十五迄ハ豫審以前ニ屬シ高木梅太郎ノ勾引狀正本

以下ノ分ハ豫審ニ於ケル書類ナルコトハ其書類ノ性質上明白ニ之ヲ認ムルヲ得ヘシ而シテ豫審以前ノ書類ノ丁數ハ四十五ニテ終了シタルヲ以テ豫審ノ書類ハ其丁數ヲ追ヒ四十六、四十七ト順次ニ丁數ヲ付スヘキニ豫審ニ於ケル最初ノ書類タル前掲勾引狀ニハ十七ノ丁數ヲ付シ以下十八、十九ト順次ニ丁數ヲ掲ケアリスノ如ク豫審前後ノ書類ノ丁數ニ齟齬ヲ來セルハ豫審前ノ最終ノ書類タル證據金品目錄ノ「四十五」ナル「アラビヤ」數字中ノ「四」ノ字カ「一」ノ字ニ紛シカリシヨリ「四十五」ヲ「十五」ナリト誤認シ其丁數ヲ追ヒ豫審書類ニ十六、十七、十八以下ノ丁數ヲ付シタルニ基因シタルモノナルコトハ記録ノ調査上ニ於テ之ヲ確認スルニ足ルヘク斯クスルトキハ丁數四十五ト丁數十七トノ間ニ丁數十六(眞ノ丁數ハ四十六ニ當ル)ノ存在セサルヘカラサル筋合ニシテ目錄ノ「起訴狀、一月二十三日、十六」ナル記載ニ參照スルトキハ丁數十六ヲ付シタル一月二十三日附本件起訴狀カ記録中ニ存在シタルニ其後ニ至リ何等カノ事由ノ爲メニ此所ニ丁數ノ脱落ヲ生シ爲メニ起賦狀ノ存在ヲ失フニ至リタルモノト認ムルヲ正當ナリトスヘシ左スレハ本件ニ付キテハ檢事ノ起訴アリテ裁判所ハ適法ニ事件ノ受理審判ヲ爲シタルモノナレハ上告論旨ハ其理由ナシ

同辯護人布施辰治ノ擴張書第一點ハ原院判決ハ本件ノ第一審タル東京地方裁判所ニ於テ被害者米地玄道以下樋口近義小林鯨吉森山徳右衛門ニ對スル銀行員雇入ノ保證金名義ヲ以テ被告又ハ原審相被告ノ或者カ受領シタル詐欺取財ハ被害者ノ各ニ對シテ各別ノ數罪ヲ構成スルモノナリト判示シタルヲ擬律錯誤トス即チ以上ノ事實關係ハ一罪ノ内ニ包含セラル可キ數箇ノ事案ニシテ各箇ノ

公訴提起後ニ於ケル訴狀ノ紛失○法益ノ侵害ト一罪數罪トノ關係

事實ハ皆夫々ニ獨立シタル數箇ノ犯罪ヲ構成スルモノニ非スト判示セラレタルハ群鴉ノ白鷺ヲ嘲笑セルニモ等シク己レ却テ擬律錯誤ノ原判決タルヲ免レス抑モ一罪ト數罪トヲ區別ス可キ標準ニ付テハ學者間多少ノ異論ナキニアラスト雖モ先ツ近來ノ趨勢ハ事實上侵害セラレタル法益ノ數ニ應照シテ之レヲ解決ス可シト云フニアルモノ、如ク亦御院ノ判示ニ於テモ一罪カ數罪カヲ區別スルハ侵害セラレタル法益ノ數ニ應シテ解決スルモノナレハ例之私書偽造行使罪ニ於テ該罪ハ行使ヲ以テ完成ノ時期ト爲スモノナレハ一時ニ數葉ノ私書(株券ナリ)ヲ偽造シタリトスルモ之ヲ數多ノ人ニ對シテ行使シタル時ハ其行使ニヨリテ侵害シタル法益ノ數ニ應シテ犯罪ヲ構成スルモノナリ云々(辯護人ノ最近ニ接受シタル三九年七六二號山田太郎池田虎一事件判決書中ニ合レタル御趣旨)ト云フニアリテ見ルモ一罪ト數罪ヲ區別スルノ標準カ所謂法益說ナルモノニヨリテ解決ス可キモノタルヲ要ス然ルニ原院判決ハ其事實摘示ノ部ニ明瞭ナルカ如クイ、犯罪ノ日時ヲ異ニスロ、犯罪ノ場所ヲ異ニスハ、被害者ヲ異ニス從テ全ク異別ナル數箇ノ法益ヲ侵害シタル事實ヲ一括シテ一罪ニ包含シタル數箇ノ事案ニシテ各箇ニ犯罪ヲ構成スルモノニアラストセラレタルハ結局擬律錯誤ノ不法アルヲ免レスト云フニ在リ○依テ按スルニ一罪數罪ヲ區別スルニ付テハ侵害セラレタル法益ノ單數ナルヤ複數ナルヤヲ以テ標準トスルコトヲ要スルコトハ寔ニ所論ノ如ク當院モ亦タ從來此主旨ヲ以テ判決ヲ爲シ來リタル所ナリ然レトモ法律ノ保護スル法益中各人ニ固有ニシテ格別ニ之ヲ觀察シ別箇獨立ナル犯罪ノ目的トナスコトヲ要スルモノト包括的ニ之ヲ觀察シ數箇ノ法益侵害ヲ網羅シ一括シテ之ヲ犯罪ノ目的トナスコトヲ得ルモノトアリ人ノ生命名譽體軀

等ノ如キ其人ト分離スルコトヲ得サル法益ハ前者ニ屬シ其主體ト分離スルコトヲ得ル財產權ノ侵害ハ後者ニ屬ス故ニ本件ノ如ク一般人ヲ欺罔スルノ意思ヲ以テ唯一ナル詐術ヲ用キ數名ノ人ヲ其術中ニ陷レ因テ以テ財物ヲ騙取シタル所爲ハ包括的ニ之ヲ觀察シ唯一ノ詐欺取財トシテ之ヲ論スルヲ相當トシ被害者ノ多少騙取ノ日時場所ノ異同ハ之ヲ問フノ必要ナシ故ニ原院カ被告ノ所爲ハ一罪ヲ構成スルモノトシテ擬律ヲ爲シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ

官吏侮辱及毆打創傷事件

明治三十九年(レ)第一〇三二號
明治三十九年十一月八日判決 (棄却)

判決要旨

- 一、刑法第四百十一條ノ所謂官吏ノ職務ニ對シ其ノ目前ニ於テ云々トアル其ノ目前ニ於テトハ官吏ノ現在スル場所ノ意義ニ外ナラス
- 一、官吏ノ現在スル場所ニ於テ其ノ職務ニ對シ侮辱シタルトキハ官吏自ラ其ノ侮辱ノ言ヲ聞カサルト雖モ侮辱罪ヲ構成ス

說明

侮辱ノ意義

カ社会公衆ニ對シテ保有スル名譽ヲ害スルニ至レハナリ唯其ノ行フ處ノ犯罪所
爲ハ單一ナルモ其ノ所爲カ二以上ノ法文ニ觸ルハ其ノ觸ル數ニ從テ數罪ヲ
構成スヘキハ一罪數罪ヲ區別スルノ標準トシテ方今ノ定説タルハナリ故ニ此ノ
場合ニ於テハ其ノ被害者タル官吏ハ個人ノ資格ヲ以テ其ノ裁判ニ私訴ヲ提起シ
名譽回復ノ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得ルナリ

(參照) 官吏ノ職務ニ對シテ目前ニ於テ形容若クハ言語ヲ以テ侮辱シタル者ハ一年以上以下ノ重懲罰ニ處シ五圓以上五十
圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑法第百四十
一條第一項)

第一審 岐阜地方裁判所

第二審 名古屋控訴院

被告人 吉村健二郎

右官吏侮辱及毆打創傷被告事件ニ付明治三十九年十月一日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ
不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左
ノ如シ

上告趣意書ハ原判文中第一明治三十九年七月十八日午後七時頃同監獄醫(奏任官待遇)青山時三
郎カ他ノ病囚ヲ診察スル際被告ハ其職務執行中ナルコトヲ知リナカラ其場所ヲ距ル七間許ニシテ
聽力ノ達スル檻房ニ於テ同醫師ヲ藪醫者ナリ馬鹿野郎ナリト大聲嘲罵シタリトノ文詞ヲ掲ケ其所
爲ヲ以テ官吏侮辱罪ヲ構成スルモノ、如クニ理由ヲ付シタリ然ルニ右嘲罵ノ事タル青山時三郎ノ
目前ニ於テ之ヲ爲シ又ハ青山時三郎カ之ヲ聽取シタリトノ事實認定ナシ然ラハ即チ右所爲ハ刑法

第四百四十一條第一項ニ該當スルモノニアラサルニ原院カ同條項ヲ適用處斷シタルハ不當ナリ又被
告ハ先ニ賭博罪ヲ犯シタル事實ナシ然ルニ原判決ニ於テ賭博罪ヲ前科ニ加ヘ刑法第九十八條第九
十二條ヲ適用シタルハ法律ニ違背シタルモノナリト云フニ在リ○依テ按スルニ刑法第百四十一條
ノ所謂「官吏ノ職務ニ對シテ目前ニ於テ云々」トアル「其目前ニ於テ」トハ「官吏ノ現在スル場所
ニ於テ」トノ意義ヲ示シタルモノトス故ニ右條項ノ犯罪ハ官吏ノ現在スル場所ニ於テ之ヲ侮辱シ
タル行爲アルニ於テハ直チニ成立スルモノニシテ官吏カ自ラ其侮辱ノ言ヲ聞キタルヤ否ヤノ問題
ハ如キハ本罪ノ成立上何等ノ影響ヲ來タサルモノトス今原判決認定ノ事實ヲ見ルニ論旨ニ摘載
スル如ク被告ハ監獄醫 奏任官待遇) 青山時三郎カ他ノ病囚ヲ診察スル場所ヲ距ル七間許ニシテ
聽力ノ達スル檻房ニ於テ同醫師ヲ藪醫者ナリ馬鹿野郎ナリト大聲嘲罵シタリト云フニ在リテ即チ
右被告カ侮辱ノ行爲ハ同監獄醫ノ現在スル場所ニ於テ之ヲ行ヒタルモノト認メタルモノナルコト
原判文上自ラ之ヲ知ルニ足ルヘク原判文上既ニ右ノ事實ヲ見ルニ足ル以上ハ縱シ同監獄醫カ自ラ
被告ノ發セシ侮辱ノ言ヲ聞キタリトノ事實認定ヲ缺キタリトスルモ右被告ノ所爲ニ對シ刑法第百
四十一條第一項ヲ適用スルノ妨ケトナルコトナケレハ原判決ニ於テ本件被告ノ所爲ハ右同條項ニ
該當スルモノトシ之ニ依リテ處斷シタルハ相當ナリ又論旨ノ末段ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認
定ヲ批難スルニ過キスシテ上告ノ理由トナラス

公印偽造私書偽造行使詐欺取財未遂事件

明治三十九年(レ)第九九五號 (棄却)
明治三十九年十月三十日宣告

印類ノ調製ト公印偽造罪ノ成立

判決要旨

一、犯人カ公印ヲ偽造スルニ當リ情ヲ知ラサル者ヲシテ是ヲ彫刻セシムルトキハ其彫刻ノ成ルト同時ニ公印偽造罪ヲ構成ス犯人カ其ノ偽造印願ヲ彫刻者ヨリ受取リタルト否ト將タ其彫刻ノ成リタルコトヲ知了スルト否トハ犯罪ノ成否ニ關係ナシ

第一審 長野地方裁判所

第二審 東京控訴院

被告人 座間龜十郎

辯護人 齋藤二郎

右公印偽造私書偽造行使詐欺取財未遂被告事件ニ付明治三十九年九月二十日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

辯護人齋藤二郎上告趣旨擴張辯明書ノ第一點ハ原判決理由ノ第三事實認定ノ部ヲ査閱スルニ「第三右龍太郎及今朝十二對スル村役場ノ印鑑證明書ヲ偽造セント企テ明治三十九年五月七日頃被告ハ自己ノ印鑑證明書ヲ東筑摩郡島立村役場ニ差出シ其證明ヲ受ケタル後之ニ押捺シアリタル同役場印同村助役荷村嘉次郎ノ職印並ニ同役場ノ文書ニ押捺スヘキ契印ノ各印章ヲ切抜キ同日之ヲ同

郡松本町印判師宮澤和作方ニ持參シ之と同様ノ印章三顆ヲ注文シ翌八日マテニ同人ヲシテ前顯三箇ノ公印ヲ彫刻セシメ以テ其偽造ヲ遂ケタリ」云々トアリ而シテ之レカ證據説明ノ部ヲ見ルニ「前顯第三犯罪事實ニ付被告ハ公印ヲ偽造スル爲メ前顯ノ如ク公印三箇ノ彫刻方ヲ依頼シタルコトハ相違ナキモ依頼後末々出來上ラサル前ニ彫刻ノ注文ヲ取消シタリト辯解スルモ宮澤和作ノ豫審調書中明治三十九年五月七日午後一時頃被告來リテ島立村役場印及助役印契印受附印ヲ押シタルモノヲ持テ來リ此通りニ彫刻シ吳レト云ヒタル故君ハ今何ヲシテ居ルカト尋ネタルニ同村役場ニ出テ居ルカ役場ノ印カ磨滅シタルニヨリ新ニ捺ヘルト云ヒ明後日ハ朝迄ニ捺ヘ置キ吳レト申シタルニヨリ翌八日ノ夕方迄ニ捺ヘ上ケタリ被告ヨリ注文ノ取消ハ更ニ之レナキ旨供述ノ記載島立村助役荷村嘉次郎豫審調書中本年五月七日頃被告ヲシテ島立村役場ニ於テ使用スル印形四箇ノ彫刻方ヲ宮澤和作ヘ注文セシメタルコトナシ和作ヨリ注文ノ有無ニ付問合アリタルモ何等ノ回答ヲ爲サスニ居リシ處印判屋ヨリ小僧ニ印影アル紙片ヲ持タセ此ノ通り出來タカラ注文シタモノナラ取リニ來テ吳レト申來リタルニヨリ駐在所ニ通知シタリ本年五月七日被告ニ印鑑證明書ヲ付與シタルコトアル旨供述ノ記載ニ徴スレハ被告ノ辯解ハ信スルニ足ラスシテ前顯第三犯罪事實ヲ認ムルニ十分ナリトス」トアリ之レヲ對照詳査スルニ被告カ東筑摩郡島立村役場印同村助役荷村嘉次郎ノ職印並ニ同役場ノ文書ニ押捺スヘキ契印ノ各印章ト同様ノ印章三顆ヲ明治三十九年五月七日頃松本町印判師宮澤和作ニ注文シタル事實及同人カ翌八日前顯三箇ノ公印ヲ彫刻シタル事實ハ之レヲ認メタルモノ、如シ然レトモ之レト同時ニ原院カ斷罪ノ資料ニ供シタル宮澤和作ノ豫審

調書島立村助役荷村嘉次郎豫審調書ニヨリテ彫刻ノ依頼ヲ受ケタル宮澤和作ハ其約ヲ履行シテ右
印願ヲ被告ニ交付シ了リタル事實ナキノミナラス却テ「和作ヨリ注文ノ有無ニ付キ問合セアリタ
ルモ何等ノ回答ヲ爲サス居リタリシ處印判屋ヨリ小僧ニ印影アル紙片ヲ持タセ此通リ出來タカラ
注文シタモノナラ取リニ來テ吳レト申シ來リタルニヨリ駐在所ニ通知シタリトアリ右ノ事實ハ
明カニ公印ノ偽造ト謂フ可ラス被告ハ原院ノ認メタル如ク平民農ニシテ彫刻師ニアラサルヲ以テ
宮澤和作ナル印判師ニ役場印願ノ模造ヲ託シタルモノナレハ同人カ彫刻ノ上被告ニ引渡サ、ル以
上ハ刑法第九十五條ノ制裁ヲ受クヘキモノニアラス殊ニ本件ニ於テハ中途ニ於テ和作カ之ヲ島
立村役場ニ通知シ同役場員ハ之ヲ駐在所ニ通知シタル事實ニ依リ至ク公印偽造ノ目的ヲ達セサル
モノナルヲ以テ不能犯ヲ以テ論スヘキ場合ナリト確信ス少クモ刑法第一百二十二條ノ所謂未遂犯ヲ
以テ論スルヲ相當トス若シ夫レ原院判決ノ如ク之ヲ既遂ナリトセハ和作カ被告ノ依頼ニ依リ公印
ノ模造彫刻終リタル其瞬間ヲ以テ原院ハ既遂罪ナリト認メタルモノ、如シ然レトモ刑事上ノ犯罪
ニ付キ被告カ知ラサル間ニ犯罪ノ既遂未遂ノ定マルハ頗ル奇態ニシテ至ク刑罰ノ本義ニ反ス此點
ニ就テハ原院ハ明カニ法律ヲ不法ニ適用シタルモノナリ若シ上告人主張ノ如クセハ本件ノ公印偽
造罪ハ無罪トナサ、ルヘカラサルモノナリト信スト云フニ在レトモ○犯人カ偽造ノ意思ヲ以テ情
ヲ知ラサル者ヲシテ公印ヲ彫刻セシムルハ犯人自ラ之ヲ彫刻スルト異ナルコトナキヲ以テ其彫刻
ハ成ルト同時ニ公印偽造罪ハ成立スル者ニシテ犯人カ偽造印願ヲ受取リタルト犯人カ彫刻ノ成リ
タルコトヲ知リタルトハ其犯罪ノ成否ニ何等モ影響ヲ及ホスヘキ事項ニアラス而シテ原院判決ノ認

ムル所ニ依レハ被告ハ偽造ノ意思ヲ以テ島立村役場印同村助役荷村嘉次郎ノ職印並ニ同役場ノ文
書ニ押捺スヘキ契印ト同様ノ印章三顆ノ彫刻ヲ印判師宮澤和作ニ注文シ同人ヲシテ之ヲ彫刻セシ
メタルモノナレハ所論ノ如ク被告ニ於テ未タ其引渡ヲ受ケス又彫刻ノ出來上リタルコトヲ實際知
ラサリシモノトスルモ公印偽造罪ハ右印願ノ彫刻出來上リシ瞬間ニ於テ既ニ成立シ被告ニ於テ其
罪責ヲ免ル、能ハサルヤ固ヨリ論ナキヲ以テ本論旨ハ上告ノ理由ナシ

●詐欺取財事件

明治三十九年(レ)第九八四號
明治三十九年十一月八日判決 (棄却)

判決要旨

一、欺罔ヲ手段トシテ財物ヲ騙取スルニ於テハ詐欺取財ノ構成
要素ハ茲ニ具ハルモノニシテ欺罔セラレタル人ト欺罔ノ結
果財物ヲ騙取セラレタル人トハ必スシモ同一人ナルコトヲ
要セス

一、民事原告人トハ被告ニ對シ公訴ニ附帶シテ刑事裁判所ニ民
事ノ訴ヲ提起シ又ハ被告ヲ相手トリ犯罪ニ因ル損害賠償ヲ
別ニ民事裁判所ニ請求スル者ヲ云フ

欺罔取財成立○民事原告人ノ意義

從テ刑事ノ被告ヨリ訴ヲ受ケ民事裁判ニ被告タルノ地位ニ立ツ者ハ其ノ事件刑事裁判ニ關係ヲ有スル場合ト雖モ刑事訴訟法上ノ所謂民事原告人ニアラズ從テ刑事裁判ニ證人タルノ能力ハ之レカ爲ニ妨ケラルベコトナシ

(參照) 刑ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及ヒ證據ニ依リテ之ヲ認メタル理由ヲ明示シ且法律ヲ適用シ其理由ヲ付ス可シ

(刑事訴訟法第二
百三條第一項)

第一審 安濃津地方裁判所

第二審 名古屋控訴院

被告人 別府増次郎

辯護人

大道寺慶男
花井卓藏
渡邊澄也

右詐欺取財未遂被告事件ニ付明治三十九年九月六日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

被告並辯護人大道寺慶男ノ上告趣意書ハ原院判決ハ法律ニ違背シ裁判ニ理由ヲ付セラル不法アリ原判決ハ其前段ニ於テ訴訟事實ヲ掲ケ證據トシテ被告ノ公廷ニ於ケル自陳證人橋本久左衛門西口久吉木村善八前川初次郎丹羽政七高橋政之助ノ各豫審調書ノ一部ヲ列記シ此等ヲ綜合スレハ判示事實ヲ認ムルノ證據十分ナルヲ以テ云々ト説明シ殆ト茫漠トシテ捉フル所ナキカ如シ蓋シ判決ハ

事實ト證據ノミヲ列記スルヲ以テ足レリトセス進テ或ル事實ニ向テ其證據ニ依リテ之ヲ認メタル理由ヲ確的ニ指示セサルヘカラス然ルニ原判決ハ之レカ明示ヲ欠クノミナラス判示事實中ノ「偶々非常ノ獲アリシヨリ爰ニ惡意ヲ起シ(中略)該通帳ニ支拂ノ記入漏ナルコトヲ利用シテ自己ヨリ魚類ヲ賣込タルモノ、如ク裝ヒ金圓ヲ騙取センコトヲ企テ云云」トノ點ニ對シテハ判文列記ノ證據中全ク之ヲ認ムヘキ記載ナシ

辯護人大道寺慶男上告趣意擴張書第二點ハ原判決ハ事實記載ノ部ニ於テ「明治三十九年五月一日前川初次郎ノ告訴スル所トナリ事發覺シテ騙取ノ目的ヲ遂ケサリシモノナリ」トノ摘示ヲ爲シ之カ證據トシテハ其後段ニ「明治三十九年五月一日附ヲ以テ前川初次郎ヨリ被告ニ對シテ本訴ヲ詐欺取財トシテ一身田警察署ニ告訴ノ提起ヲ爲シアルコト」ト説明シアルモ之レ唯事實ヲ重ネテ掲記シタルニ止マリ證據説明トシテハ何等ノ意味ヲ爲サス所謂問ヲ以テ問ニ答ヘタルカ如ク其事實ハ如何ナル證據ニ依リテ之ヲ認メタルヤヲ明示セサルモノニシテ結局原判決ハ此點ニ對シ理由ノ不備ナル不法アリト云フニ在リテ○原判決中所論ノ一節ハ架空ニ事實ヲ記載シタルニ止マリ證據説明トシテハ意味ヲ爲サルコトハ所論ノ如シト雖モ元來此一節ハ本件被告ノ犯罪カ未遂ニ終了シタル事實ヲ認定スルノ資料ニ供セラレタルモノニシテ未遂ノ點ニ關スル事實ハ刑事訴訟法第二百三條ニ所謂罪トナルヘキ事實ノ範圍外ニ屬スルヲ以テ證據ニ依リテ之ヲ認ムルノ必要ナキヲ以テ原院カ其認定ノ證據ヲ判文ニ掲ケサレハトテ之ヲ以テ原判決ノ破毀ヲ必要トスヘキ重大ノ瑕瑾トナスコトヲ得ス故ニ本論旨モ亦タ其理由ナシ

欺罔取財成立○民事原告人ノ意義

辯護人花井卓藏渡邊澄也上告趣意擴張書第一點ハ詐欺取財罪ノ成立ニハ被害者ヲ欺罔シテ錯誤ニ陷ラシメ以テ財物若クハ證書類ヲ騙取スルコトヲ必要ト爲ス從テ詐欺取財犯トシテ處斷スルニ當テハ被害者ニ對シ欺罔ノ手段ヲ施シタル事實ヲ確認セサルヘカラス原判決ハ被告ハ安濃津區裁判所ニ對シ高橋政之助ヲ債務者トシタル支拂命令ノ申請ヲ爲シタル事實ヲ認メタルニ止マリ被害者タル高橋政之助ニ對シ何等欺罔ノ手段ヲ施シタル事實ヲ認定セサルカ故ニ被告ノ所爲ハ決シテ犯罪ヲ構成スヘキ者ニ非ス然ルニ有罪ノ言渡ヲ爲シタル原判決ハ罪ト爲ラサル所爲ニ對シ刑ヲ科シタル不法アルモノト信スト云ヒ一第二點ハ詐欺取財罪トシテ處斷スルニ當リテハ被告ノ所爲ニ因リ被害者ハ錯誤ニ陥リタル事實ヲ判示セサルヘカラス原判決ハ「被告ハ云々安濃津區裁判所ニ政之助ニ對シ該通帳ニ基キ魚類賣掛代金殘額金百四十四圓六十錢辨濟請求ノ支拂命令ヲ申請シタルモ同人ヨリ異議ノ申立ヲ爲シタルヨリ次テ本訴ト爲リ第一審ニ於テハ敗訴シ第二審ニ於テハ勝訴ト爲リタルモ」云々ト民事訴訟ノ經過ヲ略叙スルニ止マリ毫モ被害者タル高橋政之助カ錯誤ニ陷リタル事實ヲ認定セス加之政之助モ亦被告人ニ欺罔セラレタルモノトセハ第二審ニ於ケル敗訴ノ判決以前ニ於テ告訴其他相當ノ手續ニ據リ權利ノ救濟ヲ求ムヘキハ當然ナルニ拘ハラズ事爰ニ出テス被害者ニ非ラサル前川初次郎ノ告訴ニ因リ本件ノ發生シタル事實ニ徴スルモ被害者タル政之助ハ錯誤ニ陥リタルコトナキモノト認メサルヘカラス然ルニ爰點ニ關スル說明ヲ遺脱セシ原判決ハ理由不備ノ不法アルモノト信スト云フニ在レトモ○詐欺取財罪ハ人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取スルニ因リテ成立スル犯罪ナルコトハ刑法第三百九十條ニ明カニ規定スル所ナルヲ以テ財物ノ騙取

カ欺罔ヲ手段トスル場合即チ苟モ財物ノ騙取ト欺罔トノ間ニ因果ノ連絡アルニ於テハ詐欺取財罪ハ完全ニ成立スヘク犯人ノ爲メニ欺罔セラレタル人ト欺罔ノ結果財物ヲ騙取セラレタル人即チ被害者トハ必スシモ同一人タルコトヲ要セス故ニ犯人カ被害者ヲ欺罔シテ其所持スル財物ヲ自己ニ交付セシメタル場合ハ勿論事實上又ハ法律上被害者ノ財物ヲ處分スルノ實權ヲ有スル人ヲ欺罔シ其結果財物ノ交付ヲ受ケテ之ヲ領得シタル場合ニ於テモ亦詐欺取財罪ノ成立スルコトヲ妨ケザルモノニシテ被欺罔者ト被害者トカ同一人ニアラサルノ故ヲ以テ犯罪ノ成立ヲ否定スヘキニアラス而シテ本件ニ在テハ被告ハ本件ノ被害者タル政之助ニ對シテ民事ノ訴ヲ提起シ其訴ヲ受理審判スヘキ當該裁判所ヲ欺罔シ因テ以テ政之助ヨリ財物ヲ騙取セント企テタルモノニシテ訴ヲ受ケタル裁判所ハ法律上政之助ニ對シテ被告ノ請求ニ對シ財物ノ交付ヲ命令スル職權ヲ有スルヲ以テ被告カ裁判所ニ對シテ施シタル欺罔手段カ其效ヲ奏スルニ於テハ被告ハ裁判所ノ命令ヲ得テ政之助ヨリ財物ノ交付ヲ受ケルコトヲ得ヘカリシモノナレハ被告ノ所爲ハ刑法第三百九十條ニ所謂人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取セントシタルモノニ該當シ前川初次郎ノ告訴ノ爲メニ終ニ其目的ヲ達スルコトヲ得サリシモノナレハ未遂ヲ以テ之ヲ論スヘキモノトス左スレハ被告ハ政之助ニ對シテ欺罔手段ヲ施サス隨テ政之助ハ毫モ被告ノ爲メニ欺罔セラレサリシモノトスルモ被告ノ所爲ハ詐欺取財罪ヲ構成スルコトヲ妨ケサルモノトス故ニ原院カ前掲ノ事實理由ニ基キ被告ニ對シテ有罪ノ判決ヲ言渡シタルハ相當ニシテ原判決ニハ所論ノ如キ違法ノ點ナク上告論旨ハ其理由ナシ

第三點ハ本件ハ被告カ高橋政之助ニ對スル魚代金請求ノ民事訴訟ニ基因シタルモノニシテ其民事欺罔取財成立○民事原告人ノ意義

訴訟ハ今仍ホ上告審ニ繫屬セルコト原判決ノ明認スル所ナリ而シテ刑事訴訟法第二條ハ私訴ハ犯罪ニ因リ生シタル損害ノ賠償贖物ノ返還ヲ目的トスルモノナルコトヲ規定スルモ同條ハ私訴ノ目的ヲ定メタルニ過キサレハ犯罪ニ基因スル訴訟ハ其損害ノ賠償タルト損害ノ豫防タルトヲ問ハス均シク私訴ニ包含スルモノト云ハサルヘカラス本件ノ原因タル被害者高橋政之助ハ被告ノ犯罪ニ因テ生スヘキ損害ヲ防止スルノ目的ニ出テシモノナルコト明カナレハ同人ハ民事原告人ニ外ナラサレハ證人タルノ資格ナキ者トス然ルニ同人ヲ證人トシテ訊問シタル豫審調書ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタル原判決ハ法則ニ背戾スル不法アルモノト信スト云フニ在レトモ○刑事訴訟法ニ所謂民事原告人トハ刑事被告人ニ對シ公訴ニ附帶シテ刑事裁判所ニ民事ノ訴ヲ提起シ又ハ被告人ヲ相手取リ別ニ民事ノ訴訟ヲ民事裁判所ニ提起シタル者ヲ意味シ刑事ノ被告人ヨリ相手取ラレ民事訴訟ニ於テ被告ノ地位ニ立ツ者ハ刑事訴訟ノ結果ニ付キ直接ノ利害關係ヲ有スルニモセヨ刑事訴訟ニ所謂民事原告人ニアラス從テ證人トシテ供述ヲ爲スノ能力ハ民事訴訟ノ現ニ繫屬スルカ爲メニ毫モ妨ケラル、モノニアラス是レ即チ本件ノ場合ニシテ被害者政之助ハ所論ノ民事訴訟ニ於テハ被害トシテ訴ヲ受ケタルモノニシテ原告トシテ訴ヲ提起シタルモノニアラサルヲ以テ豫審判事カ證人トシテ之レカ取調ヲ爲シタルハ固ヨリ適法ナルノミナラス其供述ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル原院ノ採證モ亦タ法則ニ違背シタルモノニアラサルヲ以テ上告論旨ハ其理由ナシ

故殺事件

明治三十九年(七)第一〇二九號

明治三十九年十一月九日判決

(棄却)

判決要旨

一、被告人ニ代リ上訴ヲ爲スコトヲ得ル辯護人ハ原審ニ於テ被告人ノ爲メ辯論ヲナシタル者ニ限ル

一、上訴ヲ爲スニ代人ヲ以テスルハ法律ニ明規シタル場合(刑事訴訟法第二百四十三條第)ノ外之ヲ許サス故ニ法律規定以外ニ於テ代理人ノ名義ヲ以テナシタル上訴ハ不適法ナリ

(參照) 辯護人ハ被告人ニ代リ上訴ヲ爲スコトヲ得但被告人ノ明言シタル意思ニ反スルコトヲ得ス(刑事訴訟法第) 被告人ノ法律上代理人ハ獨立シテ上訴ヲ爲スコトヲ得(刑事訴訟法第) 第二百四十四條

第一審 水戸地方裁判所下妻支部 第二審 東京控訴院 被告人 田崎幸一

右故殺被告事件ニ付明治三十九年十月二日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ辯護人添田増男ハ同月四日上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審按スルニ同法第二百四十三條ノ被告人ニ代リ上訴ヲ爲スコトヲ得ル辯護人ハ原審ニ於テ被告事件ノ辯論ヲ爲シタル辯護人タラサルヘカラサルコトハ本院カ明治三十六年(七)第五四二號私印盜用私書偽造行使詐欺取財未遂事件ニ付既ニ判示シタルカ如シ而シテ原院公判始末書ヲ見ルニ添田増男カ本案被告事

代人ニ依ル上訴ノ提起

件ニ付辯論ヲ爲シタルコトヲ見ルヘキ事蹟ナク又訴訟記録中被告人田崎幸一ト添田増男ト連署ヲ以テ差出シタル明治三十九年十月二日付ノ辯護届書ナルモノアリト雖モ上告申立ナキ以前即チ本件カ上告審ニ繫屬セサル以前ニ於テ辯護人ノアルヘキ理ナケレハ本件ニ付テハ第二審ヨリ見ルモ上告審ヨリ見ルモ添田増男ハ辯護人ニアラサルヲ以テ刑事訴訟法第二百四十三條ニ依リ被告人田崎幸一ニ代リ上告ヲ爲スノ權ナク又上告申立書ヲ見ルニ辯護人添田増男ノ氏名捺印アルノミニシテ被告人田崎幸一ノ氏名捺印ナケレハ該上告申立ハ被告人幸一カ自ラ之ヲ爲シタルモノト見ルヲ得サルハ勿論刑事訴訟法中第二百四十三條及ヒ第二百四十四條ヲ以テ特ニ規定シアルモノハ外代人ニ依リテ上訴ヲ爲スコトヲ認許シタル法條ナキヲ以テ添田増男ハ假令ヒ被告人幸一ノ委任ニ依リ上告申立ヲ爲シタルモノトスルモ其申立ハ不合法タルヲ免レヌ故ニ本件上告ハ何レノ方面ヨリ觀察スルモ適法ニ成立セサルモノトス

官文書偽造行使事件

明治三十九年(レ)第一二六六號
明治四十年一月二十四日判決

(棄却)

判決要旨

- 一、偽造文書ヲ郵便ニ付シ對手人ニ送附シタルトキハ其ノ文書カ受取人ノ手許ニ達シ又ハ其郵便受函ニ入りタル時ヲ以テ使行ノ既遂ト爲ス
- 一、執達吏ハ官吏タル身分ヲ有ス從テ執達吏カ其ノ職務權限内ニ於テ作成スル一切ノ書類ハ官文書タルノ性質ヲ有ス

說明

偽造文書ノ行使 刑法カ文書偽造行使罪ヲ罰スル所以ヲ考フルニ其目的トスル所ハ一般ノ取引上ニ於ケル真造文書ノ信用ヲ害セントスル危險ヲ豫防セントスルニ外ナラス故ニ偽造文書ノ行使カ如何ナル意義ニ解セラレサル可ラサルヤハ刑法カ此ノ所爲ヲ處罰スル目的ニ基キ論定セサルヲ得ス按スルニ刑法カ文書偽造行使ノ所爲ヲ罰スルノ目的己ニ以上ノ如シトセハ偽造文書ノ行使ノ程度ハ必スシモ真造文書ノ信用ヲ害スルノ結果ヲ生シタルコトヲ要セス唯其ノ信用ヲ害

偽造文書ノ行使○執達吏ノ身分

行使ノ既遂アリト云フコトヲ得、ヘシ原判決ノ認定事實ニ依レハ被告ハ執達吏金子健次郎ノ名義ヲ以テ郵便葉書ニ虚偽ノ事實ヲ記載シ同執達吏ノ文書ヲ偽造シ之ヲ佐々木治三郎外二名ニ發送シテ同人方ニ到着セシメタルモノニシテ被告ハ即チ偽造文書ヲ發送シテ受取人等ヲシテ其ノ内容ヲ認識スヘキ状態ニ在ラシメタルモノナレハ被告ノ所爲ハ此ノ時ニ於テ初メテ既遂ヲナスモノニシテ其ノ以前ニ在テハ被告ハ文書ヲ發送シテ其ノ手ヲ離レタルマテニシテ受取人ノ未タ閱覽スヘキ状態ニ在ラサリシモノナレハ未タ行使ノ既遂アリト言フコトヲ得サルナリ去レハ原院カ郵便葉書ノ受取人方ニ到着シタル時ヲ以テ既遂ノ成立時期ト認メタルハ相當ニシテ毫モ不法アルコトナシ同辯明書、三ハ原判決ハ執達吏ノ名義ヲ用ヒテ偽造シタル郵便葉書ヲ以テ官文書ニ屬スルモノト判示セラル、モ此ノ如キハ法律上何等其根據ナキモノニシテ原判決ハ法律ヲ不當ニ適用シタル違法アルモノナリト云フニ在リ○因テ按スルニ民事訴訟法第五百六十六條第二項ニ依レハ執達吏ハ差押ヘタル有體動産ヲ債務者ノ保管ニ委任スルコトノ職權ヲ有セリ而シテ執達吏規則第二十二條ニ依リ執達吏ハ官吏タル身分ヲ有スルモノナレハ執達吏カ夫ノ債務者ニ委任シタル保管ノ件ニ關シ作成スル一切ノ文書ハ同人ノ職務上作成スルモノナルカ故ニ之レヲ官文書ト言ハサルヘカラス從ヒテ執達吏ニ於テ差押物件ニ付作成スル保管替通知書ノ如キモ亦固ヨリ官ノ文書ナリト去レハ被告カ偽造シタル保管替通知書ハ執達吏ノ職務上作成スヘキ文書ナレハ被告ハ官ノ文書ヲ偽造行使シタルモノト言ハサルヘカラス故ニ原院カ被告ノ所爲ヲ官ノ文書ヲ偽造行使シタルモノトシ處分シタルハ相當ニシテ論旨ハ理由ナシ

偽造紙幣收受行使事件

明治三十九年九月二十三日判決

(棄却)

判決要旨

一、偽造紙幣ヲ行使セントシテ先ツ甲者ニ對シ之ヲ交附シタル
 二、偽造紙幣タルユトヲ覺知セラレ之カ返戻ヲ受ケタルニヨリ
 犯意繼續シテ更ラニ乙者ニ之ヲ交附シ其ノ目的ヲ達シタル所爲ハ一箇ノ已遂犯ヲ構成スルニ止マリ已遂犯ノ外曩キニ行使ヲ遂ケサリシ所爲ニ對スル未遂犯ヲ構成スルモノニアラス

第一審 秋田地方裁判所大曲支部

第二審 宮城控訴院

被告人 茂木松藏

辯護人 花井卓藏

右偽造紙幣收受行使被告事件ニ付明治三十九年十月二十二日宮城控訴院ニ於テ言ヒ渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

辯護人花井卓藏上告趣意擴張書ノ第一點ハ偽造貨幣行使トハ他人ヲ欺ムキ真正ノ貨幣トシテ之カ

一ノ決意ニ基テ數個ノ行爲

交付ヲ受ケシムルコトヲ云フ從テ偽造貨幣ヲ行使セント欲シ之ヲ他人ニ呈示スルモ偽造タルコトヲ覺知セラレ受領ヲ拒マル、トキハ行使ノ未遂ト云フコトヲ得ヘキモ行使トシテ處分スルコトヲ得ス原判決ハ「被告松藏ハ云々偽造ニ係ル日本銀行兌換十圓券一枚ヲ知情收受シ云々進藤一郎ニ交付シタル處偽造券タルコト同人ノ覺知スル所トナリ之カ返戻ヲ受ケタルヨリ犯意繼續シテ云々」ト判決シ被告カ偽造紙幣ヲ進藤一郎ニ呈示シタルニ偽造券タルコト同人ノ覺知スル所トナリ受領ヲ拒絶セラレタル所爲ヲ以テ刑法第九十條第一項ニ問擬シタルハ擬律錯誤ノ不法アルモノト信スト云フニ在リ○依テ原判決ノ事實理由ヲ查閱スルニ被告松藏ハ行使ノ目的ヲ以テ明治三十九年八月二日氏名不詳者ヨリ偽造ニ係ル日本銀行兌換十圓券一枚ヲ知情收受シ翌三日居村ニ於テ賣掛代金ノ支拂トシテ進藤一郎ニ交付シタル處偽造券タルコト同人ノ覺知スル所トナリ之カ返戻ヲ受ケタルヨリ犯意繼續シテ更ニ同日被告居宅ニ於テ佐々木孫吉ニ對シ炭代金支拂ノ爲メ之ヲ交付シタルモノナリトアレハ原判決ノ趣旨ハ被告カ當初ハ進藤一郎ノミニ對シ偽造兌換券ヲ行使スルノ意思ナリシモ遂ケサリシヨリ新ニ佐々木孫吉ニ對シ行使ノ意思ヲ起シテ之ヲ行使シタリト云フニアラスシテ本件偽造兌換券ヲ行使セントスル一箇ノ決意ニ基キ先ツ進藤一郎ニ對シテ其ノ行使ヲ試ミ次テ佐々木孫吉ニ對シ之ヲ交付シテ其行使ヲ遂ケタリトノ趣旨ナルコト自ラ明ラカナリ故ニ被告カ當初進藤一郎ニ對シテ本件偽造兌換券ヲ交付シタルハ一所爲中ノ第一ノ階段タルニ過キス更ニ佐々木孫吉ニ交付スルニ至レルニ及ンテ行使ナル一箇ノ所爲ヲ完成シタルモノナレハ單ニ一箇ノ既遂罪ヲ構成スルニ過キスシテ既遂罪ト未遂罪トノ二罪ヲ構成スルモノニアラス何トナ

レハ其所爲タルヤ單一ノ意思ニ基ケル繼續セル一箇ノ所爲ニシテ其侵害スル法益ノ單一ナルモノナレハナリ本件ノ場合ニ於テ偽造兌換券ノ行使ヲ受ケタル人ヲ基本トシテ觀察セハ進藤一郎ト佐々木孫吉トノ二人アルヲ以テ各人毎ニ一罪ヲ構成スルモノ、如シト雖モ兌換券偽造罪ハ貨幣偽造罪ト其性質ヲ同フシ兌換券ヲ製造發行スルノ特權ヲ侵シ公ノ信用ヲ害スルニ因リテ成立スル罪ナレハ其行使ヲ受ケタル人ノ單數ナルト復數ナルトハ罪ノ成立ニ影響ヲ及ホスヘキモノニアラス故ニ本件ニ於テ行使ヲ受ケタル者二人アルモ之レカ爲メニ二罪ヲ構成スヘキモノニアラス又本件被告ノ所爲ニハ進藤一郎ニ對スル行使未遂ノ事實ト佐々木孫吉ニ對スル行使既遂ノ事實トヲ包含スルヲ以テ所爲ノ態樣ニ付キ觀察スレハ二箇ノ所爲ニ區別スルヲ得ルモノ、如クナレトモ本件ノ如ク一箇ノ兌換券ノ行使ノ目的ヲ達スル爲メニ爲シタル繼續セル數箇ノ所爲ハ一箇ノ不法ノ目的ノ爲メニ行ハレタルモノナルカ故ニ其各行爲ハ性質上一所爲中ノ階段タルニ止マルモノニシテ之ヲ分離獨立セシメテ觀察スル能ハス若シ右ノ各所爲ヲ分離シテ觀察スヘキモノトセハ偽造貨幣タルノ情ヲ知り行使スルノ意思ヲ以テ之ヲ收受シ而シテ其行使ヲ遂ケタル場合ニ於テハ先ツ之ヲ收受シタル時ニ於テ刑法第九十條二項ノ罪成立シ次キニ其行使ヲ遂ケタル時ニ於テ同條第一項ノ罪成立スヘク即チ常ニ二罪ヲ成立セシムルモノト云ハサルヘカラス然レトモ右ノ場合ニ於テ偽造貨幣ヲ行使シタルニ因リテ侵害セラレタル法益ハ之ヲ收受シタル時ニ於テ侵害セラレタル法益ト別異ノモノナルニアラスシテ其侵害ノ程度ノ進ミタルニ外ナラサルカ故ニ二罪成立スルモノニアラサルヤ明カナリ故ニ本件ノ場合ニ於テモ被告カ進藤一郎ニ偽造兌換券ヲ交付シテ返戻セラレタル事

一ノ決意ニ基ケ數個ノ行爲

ニ符合セサル證言ト雖モ其ノ證言カ偶々眞ノ事實ニ符合スルトキハ裁判ヲ誤マ
ラシムル恐ナキカ故ニ偽證罪ヲ構成セストノ說ヲ主張スル者ナキニアラス然レ
トモ之レ非ナリ夫レ吾人ノ記憶ニ存セサル事項ノ陳述ハ性質上虚偽ノ陳述ナリ
眞ノ事實ニ符合スルト否トハ此ノ陳述ノ虚偽タルニ妨クル所ナシ若シ論者ノ說
ノ如ク證人ノ陳述カ事實ニ符合スルコトノ一條件タルニ具ラハ虚偽ノ陳述モ尙ホ
偽證罪ヲ構成セストモ亦ハ法律ハ此ノ點ニ於テ宣誓ノ制限ヲ解テ虚偽ノ陳述ヲ許
セルナリ從テ裁判所モ亦ハ虚偽ノ陳述ヲ以テ判斷ノ資料ニ供スルコトアルハ蓋
シハ已ムヲ得サル事ニ屬ス虚言ヲ以テ刑ヲ斷ス假令其ノ適用ニ誤ナキヲ得ルモ法
律ノ嚴正ヲ如何ニセシムル乎論者ノ說供ニ語ルニ足ラサルナリ
聖ヲ如何セシムル乎論者ノ說供ニ語ルニ足ラサルナリ
證言眞正ノ何モノタル以上説明スルカ如シト雖モ今之レヲ民事刑事ノ裁判ニ就
テ考フルトキハ眞正ノ範圍同一ナラサルカ故ニ左ニ之レヲ說示スヘシ
一 民事ニ於ケル證人ノ陳述ハ記憶ト一致スル點
ニ於テ絶對的ナル證言ノ眞正ノ民事裁判ニ於ケル證人ノ陳述ハ記憶ト一致スル點
ル證人ノ陳述ハ之ニ依テ判斷ノ資料ニ供スルコトヲ得ルニシテ尋問ニ對ス
ル記憶ト一致スルコトヲ得ルニシテ尋問ニ對スルコトヲ得ルニシテ尋問ニ對ス
トキハ民事商事又ハ行政裁判所ニ關シ偽證ヲナスタル者ハ云々ト規定シ其ノ偽

證タルヘキ事項ニ付キ何等ノ制限ヲ置カサルヲ以テ法律ノ意ハ判斷ノ資料ニ供
シ得ヘキ事項ニ付キ何等ノ制限ヲ置カサルヲ以テ法律ノ意ハ判斷ノ資料ニ供
罪ニ問擬スルニ在リト否トヲ問荷モ訊問ニ對シ虚偽ノ陳述ヲナスニ於テハ偽證
ムルモノナルコトハ判旨ノ明示スル所タリ
二 刑事ニ於ケル證言ノ眞正ノ刑事裁判ニ於テ證言ノ眞正ナルヲサレ可ラサル範圍
ハ被告ノ曲庇シ又ハ陷害スルコトニ限ル之レ刑法第二百十八條ノ規定スル
所ニシテ更ニ曲庇シ又ハ陷害スルコトニ限ル之レ刑法第二百十八條ノ規定スル
ノ事項ニ對シテハ假令虚偽ノ陳述ヲ爲スモ刑法上ノ偽證トシテ之レヲ罰スルヲ
得サルナリ(判例彙報第十四卷刑事三八二頁參照)

(參照) 刑事ニ關スル證人トシテ裁判所ニ呼出サレタル者被告ノ曲庇スル爲メ事實ヲ掩蔽シテ偽證ヲ爲シタルハ左ノ例ニ
照シテ處斷ス(下略)刑法第二一八條)

(參照) 被告人ヲ陷害スル爲メ偽證ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス(下略)刑法第二一〇條)

(參照) 民事商事又ハ行政裁判ニ關シテ偽證ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重懲罰ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附
加ス(刑法第二百二十三條)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 金子吉藏 辯護人 (尾崎利中 南茂平)

右偽證被告事件ニ付明治三十九年十一月十四日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告

偽證罪ノ構成

ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
辯護人南茂平辯明書ノ一永濱ます所有淺草區山川町二番地ノ地代從來ハ比隣ニ比シ安價ナリシ而
已ナラス近時地價ノ騰貴公課ノ増徴等ニヨリ地主ニ於テ明治三十八年四月分ヨリ四割値上ノ事ニ
決定シ被告人ニ於テ其旨ヲ各借地人ニ通知シタルコトハ原院ニ於テ各證人ノ豫審調書ニ依テ認ム
ル所ナリ而シテ地代ノ値上ナルモノハ地價ノ騰貴増稅其他ノ理由ニ依リ地主一方的ノ意思ニ依リ
之ヲ爲シ得ヘク借地人ノ承諾ヲ要スヘキモノニ非ラサルヲ以テ右通知ト同時ニ右借地人等カ支拂
フヘキ明治三十八年四月以降ノ地代ハ増額セル以上ハ同月以降ハ其増額セル地代ヲ提供スルニ非
ラサレハ借地人等ハ假令從前ノ額ニ於ケル地代ヲ提供シタリトスルモ其支拂ヲ怠リタルモノニ非
ラスト云フコトヲ得ス即チ結局借地人等ハ同月以降ノ地代ノ支拂ヲ怠リタルコトニ歸ス故ニ被告
人ノ供述ハ借地人カ從前ノ地代ヲモ支拂ヲ怠リタルモノナリトノ意ナリトスルモ地代延滞ヲ原因
トスル訴訟即チ右地所明渡事件ニ對スル法律上ノ價值即チ裁判ノ結果ニ及ホスヘキ影響ハ同一ナ
ルヲ以テ別ニ實害ヲ生スヘキモノニ非ラス從テ被告人カ該事件ニ於ケル供述ハ偽證罪ヲ構成スル
モノニ非ラス然ルニ原院カ之ヲ偽證罪ニ問擬シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リ○依テ按スル
ニ永濱ますヨリ渡邊禎造大森萬太郎松井傳吉釜井由藏ニ對スル地所明渡及ヒ損害金請求ノ民事訴
訟ハ地代ノ滞納ヲ請求ノ理由トスルモノナレハ若シ上告人カ同事件ノ證人トシテ供述シタルカ如
キ事實ナルニ於テハ渡邊禎造外三名ハ地代支拂ニ付キ不履行ノ責ヲ免ルヘカラサルモ若シ之ニ反
シ右四名ハ從前ノ地代額ヲ提供シ其受領ヲ求メタルニ拘ハラヌ永濱ますノ差配人タル上告人ニ於

テ之ヲ拒ミ受取ラサリシ事實ナルニ於テハ右四名ハ地代ノ支拂ニ付キ遲滞ノ責ナキニ至ルヤモ亦
知ルヘカラス何トナレハ永濱ますノ差配人トシテ上告人ノ爲シタル地代ノ増額カ正當ナルヤ否ヤ
モ亦係爭事項ノ一ナルハ其増額ニシテ不當ナリトセシカ右四名カ從前ノ地代額ヲ提供シタルハ相
當ニ歸スヘキヲ以テナリ故ニ上告人ノ虛偽ノ證言ハ前記事件ノ裁判ニ影響ヲ有スヘキモノニアラ
スト云フヘカラス加之虛偽ノ證言カ裁判ノ結果ニ影響ヲ有セサル場合ト雖モ訊問事項ニ關シ事實
ニ反スルコトヲ知リナカラ虛偽ノ供述ヲ爲シタルトキハ到底偽證罪ヲ免レ得サルモノナルヲ以テ
本趣旨ハ理由ナシ

○盜賊寄藏事件

明治三十九年(レ)第二三三八號
明治四十年一月二十一日官告 (破毀)

判決要旨

一司法警察官ハ非現行犯ノ場合ニ於テハ物件ヲ差押フルノ職權ヲ有セス從
テ該處分ニ基キ作成セラレタル書面ノ原本ハ勿論其謄本モ亦違法ナリ

第一審 金澤地方裁判所 第二審 大阪控訴院
被告人 向井孫助 辯護人 上原鹿造

右盜賊寄藏事件ニ付明治三十九年十一月十四日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告
ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
辯護人上原鹿造上告理由擴張書第一點ハ原判決ハ巡查部長後藤和信ノ作成シタル證據金品差押目
録ナルモノヲ證據ニ供シタルトモ物件差押ノ處分ヲ爲シ得ヘキモノハ豫審判事ニシテ警察官ニ其

盜賊寄藏事件

権能ナキコトハ明白ナル事實ナリ然ルニ原判決カ差押處分ノ結果ニ基ク證據金品目錄書ナルモノ
ヲ證據ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在リ○依テ按スルニ物件ノ差押ハ豫審處分ニ關スル手續ニ
シテ豫審判事ノ職權ニ屬スルモノナルコトハ刑事訴訟法第三編第三章第五節ノ規定ニ照ラシ一點
ノ疑ナク從テ是等ノ手續ハ原則トシテ豫審判事ニアラスンハ之ヲ爲スコトヲ得サルモノナルコト
固ヨリ論ナキ所ナリ唯々現行犯ノ場合ニ於テ刑事訴訟法ハ其第四百四十四條ニ規定スル如ク檢事ニ
モ此種ノ手續ヲ爲スコトヲ許シ且其第四百四十七條ニ規定スル如ク司法警察官ニモ亦假リニ之ヲ爲
スコトヲ許シタルト雖モ右等ノ規定ハ前記ノ原則ニ對スル一ノ例外規定ニ外ナラサレハ現行犯ノ
場合ニ限り之ヲ適用シ得ル者ニシテ非現行犯ノ場合ニハ之ヲ適用スル能ハサルト勿論ナリトス今
本件ニ付テ按スルニ當院ニ於テ先キニ本件初度ノ上告ニ對シ與ヘタル判決ニ說明セシ如ク一件記
録ニ依ルモ本件ハ一モ現行犯又ハ準現行犯ニ係ルモノト確認スヘキ事實アルヲ見サレハ司法警察
官ニ於テ物件差押等ノ豫審處分ヲ爲スコトヲ得サル事件ナルニ拘ハラス記録二十五丁二十六丁ニ
於ケル證據物件差押ニ關スル書面即チ證據金品目錄ト題スル書面ノ謄本ニ徵スルニ司法警察官ニ
於テ物件差押ノ處分ヲ爲シタルモノナルコト明瞭ナレハ其處分ノ違法ニ屬スルモノナルコト前記
說明ノ趣旨ニ照ラシ疑ヲ容レサル所ニシテ從テ其違法處分ニ基キ作成セラレタル差押ニ關スル書
面ノ原本ハ勿論其原本ニ依リ作成セラレタル前記謄本モ共ニ違法ノモノタルコト別ニ辯スルヲ要
セス然ルニ原判決證據說明ノ部ヲ閱スルニ右謄本記載ノ内容ヲ掲ケアリテ即チ違法ノ書面ヲ斷罪
ノ資料ニ供シタルモノナレハ上告論旨ノ如ク其判決ハ違法ニシテ結局破毀ヲ免カレサルモノトス

私書偽造行使詐欺取財事件

明治三十九年九月廿二日判決

(棄却)

判決要旨

一。他人ノ名義ヲ冒シ文書ヲ作成シタル以上ハ其名義カ被害者
ノ眞ノ姓名ト相一致セサル所アルモ人ヲシテ其ノ文書カ署
名者ヨリ出テタルモノナリトノ感想ヲ惹起セシメ得ヘキト
キハ文書偽造罪ヲ構成ス
一。犯罪ノ用ニ供セラレタル物件カ犯人ノ所有ニ係ルトキト雖
モ之ニ對シ被害者カ留置權ヲ有スル物ナルトキハ之ヲ其被
害者ニ還附スヘシ

第一審

大阪地方裁判所

第二審

大阪控訴院

被告人

久保田久太郎
外一名

右私書偽造行使詐欺取財事件ニ付キ明治三十九年十月十日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不
法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依リテ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如

偽造ノ程度○犯罪供用物ノ沒收

被告久太郎上告趣意書ハ縷々陳述スル所アルモ之ヲ要スルニ原院ハ被告カ虛無ノ領收證ヲ以テ出口万次郎ノ本名ニ用キ私書ヲ偽造シテ詐欺取財ヲ爲シタリトテ刑法第二百十條ヲ適用處斷シタルモ被告六助ノ作成シタル領收證ニハ出口万次郎ノ名義ヲ用キスシテ出口万吉又ハ出口商會トアリ且ツ其ノ住所ニモ相違アルヲ以テ出口万次郎ノ私書ヲ偽造シタルモノト謂フコトヲ得ス又原院ハ押收物件ハ差出人ニ還付シタルモノナレハ詐欺取財罪ハ成立セサル筋合ニシテ若シ犯罪成立スルモノトセハ押收物ハ沒收セサルヘカラス且ツ第一審ニ於テ被告ノ主張ヲ認メタルヲ以テ押收物ハ被告久太郎ノ所有ニ屬スルモノナルニ原院カ之ヲ原告人ニ還付シタルハ失當ナルノミナラス質入物件ハ期限内受質スルニ於テハ何等犯罪ヲ構成スルモノニアラサルニ原院カ受戻ノ期限内ニ拘ハラス被告ニ私書偽造行使詐欺取財ノ罪アリト斷シタルハ失當ナリト云フニ在レトモ凡ソ他人ノ名義ヲ冒シテ文書ヲ作成スル場合ニ人ヲシテ其文書ハ署名者ノ手ニ成リタルモノト信セシムヘキ形式ヲ以テ作成セラルルニ於テハ文書偽造罪ノ成立ニ要スル偽造ノ條件ヲ具備スルモノト謂フヘク文書ニ署セラレタル姓名カ其人ノ眞ノ姓名ト全然一致スルコトハ必スシモ之ヲ要セサルモノニシテ文書ノ署名ト眞ノ姓名トノ間ニ多少ノ差異アルモ其文書ハ署名者ヨリ出テタルモノナリトノ感想ヲ惹起シ得ヘキ限リハ偽造罪ノ成立ヲ妨グルコトナシ果シテ然ラハ被告ノ偽造ニ係ル本件ノ證書ニ出口万吉又ハ出口商會トアリテ精確ニ出口万次郎ト署名シアラサルモ人ヲシテ其證書ハ万次郎ノ手ニ成リタルモノトノ信念ヲ生セシムルニ足ルヲ以テ原院カ被告ニ對シ出口万次郎ノ名義

ヲ冒シテ文書ヲ偽造シタルモノトシテ刑ヲ適用シタルハ相當ニシテ上告前段ノ論旨ハ理由ナク又タ押收物ハ被告ノ所有ニシテ本件犯罪ノ用ニ供シタルモノナルヲ以テ刑法第四十三條第四十四條ニ依リ沒收スヘキモノナルモ被害者ハ該物件ニ對シ留置權ヲ有スルモノナレハ該物件ハ之ヲ被害者ニ還付スルコトヲ要シ之ヲ被告ニ還付スヘカラサルハ勿論第四十三條第四十四條ニ依リ之ヲ官ニ沒收スルニ由ナキヲ以テ此ノ點ニ關スル被告ノ論旨モ亦タ理由ナク終リニ被告カ原院ノ認ムル如ク欺罔手段ヲ用ヒ質入名義ヲ以テ本件財物ヲ被害者ヨリ騙取シタル以上ハ詐欺取財ハ其時ニ於テ完全ニ成立スヘク被告カ其後ニ於テ受質ヲ爲スト否トハ毫モ犯罪ノ成立ニ影響ヲ及ホスコトナキヲ以テ後段ノ論旨モ亦タ理由ナシ

強姦及殴打創傷事件

明治三十九年(レ)第一〇五四號
明治三十九年十一月廿二日判決

(棄却)

判決要旨

- 一。告訴ハ代理人ヲ以テスルコトヲ得
- 一。告訴ニ付テハ刑事訴訟法第二十一條同第五十一條ノ外法律ニ何等ノ規定ナキヲ以テ代理ヲ以テスル告訴狀ニハ必スシモ代理人ナル文字ヲ明記スルコトヲ要セス唯代理人ヲ以テス

告訴ノ代理及ヒ其ノ方法

ルノ意ヲ知ルコトヲ得ルニ於テハ告訴トシテ其ノ效ヲ有ス

第一審 熊本地方裁判所 第二審 長崎控訴院
被告人 徳永秋藏 辯護人 小山吾一郎

右強姦及毆打創傷被告事件ニ付明治三十九年十月六日長崎控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ辯護人小山吾一郎ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣旨書第二點ハ刑事訴訟法第四十九條ニヨレハ告訴ハ犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタルモノニ於テ爲スヘキモノタリ又刑法第三百四十九條ノ犯罪ハ同第三百五十條ニ依リ被害者又ハ親族ノ告訴ヲ待テ論スヘキモノタリ本件ニ於テ原裁判所カ犯罪認定ノ理由トシテ援用セル池田末次ノ告訴狀ハ不適法ニシテ證據タリ得ヘキモノニ在ラス何トナレハ右池田末次ハ被害者永田サダノ親屬ニアラス又右告訴ハ被害者永田サダノ養母永田マヌヲ代理シタルモノト見ルコトヲ得ヘカラサレハナリ(告訴狀ニ代理ノ表示ナク池田末次一己ノ告訴タルコト顯然タリ)然ルニ原裁判所カ此無効ノ告訴狀ヲ證據トシテ採用シ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○告訴狀ノ形式ニ付テハ刑事訴訟法第五十一條及同第二十一條ノ外法律ニ規定スル所ナキヲ以テ代理人カ告訴狀ヲ提出スル場合ニ於テモ代理人ナル文字ナキモ告訴狀ノ文詞ニ徴シ代理人カ告訴ヲ爲スノ意ヲ知ルヲ得ヘキトキハ代理人ノ告訴トシテ其効力アルモノナリ本件池田末次ノ告訴狀ヲ閱スルニ同人カ被害

者ノ養母マヌノ依頼ニ因リ告訴ヲ提起シタルコトハ其内容ノ記載ニ徴シ自ラ明カナレハ右告訴狀ハ適法ナリトス從テ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル原判決ハ相當ナリトス

●私書偽造行使事件 明治三十九年(レ)第一二七〇號 明治四十年一月二十一日判決 (棄却)

判決要旨

一、他人名義ノ告訴狀ヲ偽造シテ人ヲ誣告シタル所爲ハ文書偽造行使及ヒ誣告ノ二罪ヲ構成ス
誣告ノ爲メニ起リタル被告事件ニ付キ作成セラレタル聽取書ハ其ノ誣告事件ノ被告ニ付テモ亦タ證據タルコトヲ得
一人ヲ誣告スル爲メニ提出シタル告訴狀カ法律上ノ要件ヲ具備スルト否トハ誣告罪ノ成立ニ何等ノ關係ナシ

說明

誣告罪ノ構成 誣告罪ヲ構成セシムル要件ヲ具備スルコトヲ要ス
(一) 誣告ヲ爲スノ故意アルコトヲ要ス
(二) 誣告ハ刑事上訴追スルコトヲ得ヘキ人ニ對シ行ハルコトヲ要ス
(三) 刑事上訴追スルコトヲ得ヘキ虛偽ノ犯罪事實ヲ以テ犯罪捜査ノ職權アル官府

誣告罪ノ構成

例判事刑卷八拾第報彙例判

誣告罪ノ構成

告○ス○ル○モ○苟○モ○此○ノ○危○險○ヲ○生○ス○可○ラ○サ○ル○キ○ハ○虚○偽○ノ○事○實○ヲ○官○ニ○告○知○シ○テ○故○ナ○ク○良○民○ニ○刑○事○ノ○訴○追○ヲ○加○フ○ル○ニ○シ○テ○探○ル○ニ○足○ラ○ス○何○ト○ナ○レ○ハ○已○ニ○層○々○說○明○ス○ル○カ○如○ク○刑○法○カ○誣○告○ノ○所○爲○ヲ○論○シ○テ○方○法○ニ○依○ラ○サ○ル○可○ラ○サ○ル○ヲ○主○張○ス○ル○モ○是○レ○甚○タ○謂○ナ○キ○議○論○ニ○シ○テ○探○ル○ニ○足○ラ○ス○何○ト○ナ○レ○ハ○已○ニ○層○々○說○明○ス○ル○カ○如○ク○刑○法○カ○誣○告○ノ○所○爲○ヲ○罰○ス○ル○ノ○目○的○ハ○不○實○ノ○犯○跡○ヲ○官○ニ○告○知○シ○テ○故○ナ○ク○良○民○ニ○刑○事○ノ○訴○追○ヲ○加○フ○ル○ヲ○防○止○ス○ル○ニ○存○シ○テ○其○ノ○之○ヲ○告○知○ス○ル○手○段○カ○告○訴○發○ノ○方○法○ヲ○以○テ○シ○タ○ル○ト○シ○テ○其○他○ノ○方○法○ヲ○以○テ○シ○タ○ル○者○ハ○不○當○ト○シ○テ○罰○ス○ル○ノ○理○由○ハ○不○實○ノ○事○實○ヲ○官○ニ○告○知○シ○テ○故○ナ○ク○良○民○ニ○刑○事○ノ○訴○追○ヲ○加○フ○ル○ノ○功○能○ヲ○失○フ○ル○ニ○在○リ○ト○ス○ル○ハ○危○害○ニ○付○キ○重○重○ノ○差○支○ナ○ク○從○テ○被○害○者○ノ○故○ナ○ク○刑○事○上○ノ○訴○追○ヲ○促○ス○ニ○付○キ○重○重○ノ○誣○告○罪○ハ○相○當○官○廳○カ○所○告○發○シ○タ○ル○ヲ○以○テ○既○遂○ト○ス○或○ハ○又○タ○其○ノ○受○理○官○吏○カ○不○實○ノ○告○訴○大○ル○ヲ○知○リ○タ○ル○キ○ヲ○以○テ○已○遂○ト○論○シ○或○ハ○又○タ○其○ノ○受○理○シ○タル○事○件○ニ○基○キ○更○ラ○ニ○公○訴○ヲ○提○起○シ○タル○キ○ヲ○以○テ○已○遂○ト○論○シ○或○ハ○又○タ○其○ノ○受○理

六二

例判事刑卷八拾第報彙例判

ニ○告○知○ス○ル○コ○ト○ヲ○要○ス○ル○刑○罰○ノ○上○に○追○加○シ○テ○罰○ス○ル○者○ハ○非○所○以○テ○行○フ○ノ○防○止○ノ○功○能○ヲ○失○フ○ル○ニ○在○リ○ト○ス○ル○ハ○危○害○ニ○付○キ○重○重○ノ○差○支○ナ○ク○從○テ○被○害○者○ノ○故○ナ○ク○刑○事○上○ノ○訴○追○ヲ○促○ス○ニ○付○キ○重○重○ノ○誣○告○罪○ハ○相○當○官○廳○カ○所○告○發○シ○タ○ル○ヲ○以○テ○既○遂○ト○ス○或○ハ○又○タ○其○ノ○受○理○官○吏○カ○不○實○ノ○告○訴○大○ル○ヲ○知○リ○タ○ル○キ○ヲ○以○テ○已○遂○ト○論○シ○或○ハ○又○タ○其○ノ○受○理○シ○タル○事○件○ニ○基○キ○更○ラ○ニ○公○訴○ヲ○提○起○シ○タル○キ○ヲ○以○テ○已○遂○ト○論○シ○或○ハ○又○タ○其○ノ○受○理

ノ○偽○眞○犯○キ○ノ○ス○カ○實○罪○誣○ス○許○ハ○刑○按○ニ○
 訴○ル○ノ○人○ハ○告○ル○故○若○事○告○ル○サ○必○事○ス○告○
 追○ノ○事○ノ○本○知○結○ニ○ク○實○ノ○モ○ハ○ス○上○ル○知○
 フ○所○實○意○罪○ス○果○之○ハ○ハ○爲○訴○ル○刑○罰○ノ○ニ○
 加○爲○ニ○ハ○ヲ○ル○ニ○ヲ○親○族○追○ニ○セ○ヘ○上○追○法○
 ヘ○ニ○符○不○構○所○シ○告○族○相○ス○官○ラ○ハ○訴○ヲ○カ○ト○
 ン○ア○合○實○成○犯○テ○知○相○ス○盜○ル○ニ○ル○外○追○加○誣○
 ト○ラ○ス○ノ○ス○罪○其○ル○ノ○コ○告○ハ○國○シ○ヘ○告○要○
 ス○ス○ル○犯○ル○ニ○ノ○ル○ノ○如○ト○知○ノ○愛○使○ヘ○ト○
 危○險○ノ○如○實○ニ○ス○所○罪○ハ○得○ル○ナ○ノ○キ○ス○罰○
 フ○申○何○ヲ○ア○例○以○フ○犯○ヘ○モ○キ○如○者○ル○ス○
 禁○告○ハ○告○ラ○之○ノ○構○罪○キ○虚○偽○以○者○對○非○所○
 渴○ヲ○按○知○サ○ハ○理○亦○セ○實○ノ○ノ○テ○ニ○シ○行○以○
 ス○ナ○ス○ル○ル○コ○戒○タ○ス○タ○ナ○事○實○告○シ○ハ○防○モ○
 ニ○タ○ニ○ニ○ト○處○前○段○レ○ニ○コ○ハ○ハ○ハ○ハ○ハ○
 外○ル○誣○在○更○分○原○說○タ○違○ヲ○罪○事○實○タ○得○其○要○
 ナ○結○告○ル○ラ○ノ○ノ○原○說○タ○違○ヲ○罪○事○實○タ○得○其○要○
 フ○果○罪○モ○ニ○原○說○タ○違○ヲ○罪○事○實○タ○得○其○要○
 ス○犯○ハ○若○論○因○明○誣○罪○モ○公○タ○得○其○要○
 故○跡○偽○シ○ラ○タ○ニ○告○キ○ス○實○タ○得○其○要○
 ニ○ナ○證○其○ノ○タ○ヘ○シ○ヲ○罰○追○ノ○コ○ル○罪○事○實○タ○得○其○要○
 假○令○良○民○如○知○ル○事○明○カ○ル○ル○効○ヲ○要○
 僞○ニ○ク○シ○タ○リ○ヲ○ナ○目○的○ヲ○經○ス○而○
 ノ○對○主○觀○ル○以○リ○的○ヲ○許○ル○ノ○
 犯○シ○觀○ル○以○リ○的○ヲ○許○ル○ノ○
 罪○故○的○事○實○カ○
 實○ク○官○廳○遇○
 フ○刑○應○遇○
 申○事○ヲ○々○
 如○其○生○ル○事○犯

六〇

スルモノナキニアラスト雖モ我カ刑法ノ適用論トシテハ共ニ取ルニ足ラス

第一審 千葉地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 池田方平 辯護人(高木益太郎)

右私書偽造行使被告事件ニ付明治三十九年十一月三十日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ辯護人高木益太郎上告辯明書ノ二ハ原判決ノ認定シタル被告犯罪事實ハ被告ハ偽造告訴狀ヲ提出行使シタルモノニシテ之ト同事ニ誣告罪ヲ構成スヘキ事實ナリト云フニ在リ而シテ原判決ハ其事實ヲ以テ二罪ノ俱發ナリト判斷セリ然レトモ犯罪ハ行爲ナリ被告カ告訴狀ヲ提出セル單一ノ行爲ニシテ偽書トシテノ行使ト誣告トシテノ行使ト二箇ノ行爲アルニ非ラス本件ハ一箇ノ行爲カ偶二箇ノ法條ニ觸レタルモノニシテ所謂法條競合ノ一場合ニ過キス法條競合ハ數罪俱發ヲ以テ論スヘキモノニアラス原判決ニ之ヲ二罪俱發トシテ處斷シタルハ失當ナリト信スト云フニ在レモ○犯人カ自己署名ノ告訴狀ニ依リテ人ヲ誣告シ仍ホ別ニ他人名義ノ文書ヲ偽造行使シタル所爲アル場合ト他人名義ノ告訴狀ヲ偽造行使シテ人ヲ誣告シタル本件ノ如キ場合ト問ハス文書偽造行使ノ點ハ文書ノ信用ヲ害スル結果ヲ生シ誣告ノ點ハ人ヲ罪ニ陥ル結果ヲ生スヘク從テ二箇ノ法條ヲ侵害スルニ至ルヘキヲ以テ本件ノ如キ場合ニ付テモ文書偽造行使ト誣告トノ二罪ヲ構成スルモノト論斷スルヲ相當スヘケレハ原院カ本件被告ノ所爲ニ擬スルニ私書偽造行使罪ト告訴罪トヲ以テシタルハ相當ニシテ本論旨ハ上告ノ理由ナシ

1110

三ハ原判決カ罪證ニ引用セタル安西サタ及安西三治ノ警察署ニ於ケル聴取書ハ千葉地方裁判所明治三十九年へ第六一二號、安田熊吉私印盜用私書偽造行使被告事件記録中ニ編綴シアルモノニシテ則チ全ク別事件ニ關シ作成セラレタル書類ナレハ刑事訴訟法第九十八條ニ依リ被告ニ示シテ辯解セシムヘキモノニシテ同法第二百十九條ニ依リ朗讀ヲ以テ證據調ヲナスヘキモノニアラス何トナレハ其事件ニ付キ當該官カ作成シタル書類ハ之ヲ朗讀スルヲ以テ足レリトスルモ別事件ニ付テハ先ツ之ヲ被告ニ示シテ其認否ヲ尋ネ相當ノ辯解ヲ聽クノ必要アルハ勿論ノ事ニ屬スレハナリ故ニ原院ハ被告ニ示シテ辯解ヲ聽カサル證據ヲ罪證ニ供シタル不法アルモノトスト云フニ在レトモ○或ル被告事件ニ付作成シタル文書又ハ其事件ニ關聯シタル被告事件ニ付作成シタル文書ハ何レモ證據書類ト云フヘキモノニ屬ス而シテ本件ハ被告ニ於テ安田熊吉ニ私印盜用私書偽造行使ノ犯罪アリトノ事ヲ虛構シタル安西サタ夫安西三治名義ノ告訴狀ヲ偽造シテ之ヲ千葉地方裁判所檢察局ニ差出シ以テ安田熊吉ヲ誣告シタルモノナリト云フニ在ルヲ以テ本件ト右安田熊吉私印盜用私書偽造行使被告事件トハ互ニ關聯シタル事件ナルカ故ニ右熊吉ノ被告事件ニ付作成シタル所論安西サタ及ヒ安西三治ノ各聴取書ハ本件ニ付テモ仍ホ證據書類タルノ性質ヲ有スルモノナレハ原院カ刑事訴訟法第二百十九條ニ從ヒ右等聴取書ノ朗讀ヲ以テ證據調ノ手續ヲ爲シタルハ相當ニシテ本論旨ハ理由ナシ

辯護人花井卓藏上告趣意擴張書第四點ハ告訴人ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スヘキコト刑事訴訟法第五十一條第一項ノ規定スル所ナルカ故ニ告訴狀ニシテ偽造ニ係ル場合ニハ告訴

誣告罪ノ構成

六三

人ノ署名捺印ヲ缺如セルモノニシテ告訴ノ效ナキモノトス從テ假令告訴狀ニ不實ノ事項ヲ記載スルモ誣告罪ヲ構成スルモノニ非ラス原判決ハ安西三治名義ノ告訴狀ハ被告ノ偽造シタルモノナルコトヲ認メナカラ誣告罪ヲ構成スルモノトシテ處斷シタルハ法則ニ違背スル不法アルモノト信スト云ニ在リ○依テ按スルニ誣告ノ罪ハ人ヲ陷害スルノ目的ヲ以テ犯罪捜査ノ職權ヲ有スル官吏ニ對シ其人ニ犯罪アリトノ虛構ノ事實ヲ申告スルニ因リテ成立シ而シテ其申告ノ何如ナル方法ニ出タルヤハ誣告罪ノ成立ニ何等ノ關係ナキモノトス故ニ本件被告カ提出シタル告訴狀ハ被告ノ偽造ニ係ルモノニシテ從テ告訴人トシテ揭ケタル安西三治ノ氏名及ヒ捺印ハ同人ノ自署捺印ニアラサレハ告訴狀トシテノ法律上ノ條件ヲ具ヘサルモノナルコト勿論ナルトモ當該官吏ニ之ヲ提出スルニ於テハ之ヲ以テ誣告ノ行為ナリトスルニ於テ何等妨ケアルコトナク告訴狀カ法律上ノ條件ヲ缺如スルトノ事ヲ以テ誣告罪ノ成立ヲ阻止スルノ理由ト爲スヘキモノニアラス左レハ原院ニ於テ被告カ安田熊吉ニ私印盗用私書偽造行使ノ犯罪アリトノ事實ヲ虛構シタル安西三治名義ノ偽造告訴狀ヲ提出シ以テ右熊吉ヲ陷害セントシタル事實ヲ認メテ之ヲ誣告罪ニ間擬シタルハ相當ニシテ本論旨ハ上告ノ理由ナシ

●森林窃盜事件

明治三十九年(レ)第一〇七六號
明治三十九年十一月二十二日判決

(棄却)

判決要旨

一、鑑定ハ鑑定人カ自ラ修得シタル學術又ハ特別ノ智識ニ據リ

之ヲ爲スコトヲ要ス從テ鑑定事項ニ付キ別段ノ學術ナク又ハ特別ノ智識ナク普通ノ常識ヲ有スルニ過キササル者ハ鑑定人タルコトヲ得ス
嚴冬中寒氣凜烈ニシテ人ノ居住ニ堪ヘ難ク從テ伐木造材ニ從事スルコト能ハサル時期ノ到來スル地方ニ於テ氣候ノ凜烈ト伐木ノ可能時期ノ如何ニ付テハ其ノ地ニ在勤スル林務官吏ノ職務ニ從事スルニ付キ始メテ知ルコトヲ得ヘキ特別ノ智識ナリトス從テ同林務官吏ヲシテ之ヲ鑑定セシムルモ違法ニアラス

第一審 宇都宮地方裁判所

第二審 東京控訴院

公訴上告人 鯨 龜 吉

公訴私訴上告人 佐野巳喜三

私訴被上告人 竹内泰治

右法定代理人 黃海牛次郎

辯護人 中島松次郎

右森林窃盜被告事件ニ關シ之ニ附帶スル私訴事件ニ付キ明治三十九年十月十三日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシテ被告龜吉ハ公訴ニ付キ被告巳喜三雅太郎庄作林造ハ全私訴ニ付キ

鑑定

六五

各上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
 被告己喜三雅太郎庄作林造辯護人中島松次郎辯明書第二點ハ原判決ハ其證據理由ニ於テ前項論旨
 ニ掲ケタル如ク鍋田三重ノ鑑定書ニ神社地ノ分ニテ明治三十七年五月以後ノ伐採ニ係ルト認メ得
 ヘキ者ハ木數七十八本前白根山檜平檜棚ノ分ニテ同年同月以後ノ伐採ニ係ルモノト認メ得ヘキモ
 ノハ木數三百六十七本御用平ノ分ニテ同年同月以後ノ伐採ニ係ルモノト認メ得ヘキモノハ木數四
 本ナリト鑑定スル旨記載アリト判示セラレタリ依テ該鑑定人ハ如何ナル理由ニ依リ明治三十七年
 五月以後ノ伐採ト其以前ノ伐採トヲ鑑別セシヤヲ查スルニ其鑑定書ニ依レハ明治三十七年五月以
 前ノ伐採ニ係ルモノト同年五月以後ノ伐採ニ係ルモノトヲ鑑定スルハ所謂伐採期ヲ月ニ依リテ區
 分スルモノニシテ年月經過ノ今日頗ル至難ノ業ニ屬スルモ幸ニモ鑑定ヲ要スル伐根ノ所在地カ他
 方面ト異ナリ寒氣非常ニ激烈ニシテ立木伐採時期ニ制限アルカ爲メ偶然ニモ本鑑定ハ一點ノ疑ヒ
 ナク判斷區別スルヲ得タリ元來檢證地ニ係ル地方ハ海拔數千尺ノ高キニ在リテ我國春梁山脈タル
 男體上ノ山奥ニ位シ四顧繞ラスニ巍峨タル群巒ヲ以テシ寒氣ノ峻酷ナル殆ト名狀スヘカラスシテ
 到底嚴寒中ハ勿論翌年四月マテハ人ノ居住シ又ハ往來ナシ得ヘキ所ニアラス有名ナル入湯本ノ温
 泉ハ即チ該地ニアルモノナルモ是レ等住民ト雖モ尙ホ寒威ヲ恐レテ常住セス十數戸ノ住民ハ僅カ
 ニ二名ノ留守番人ヲ殘シテ他ハ悉ク毎年十一月ヨリ翌年五月迄日光町其他ニ避寒スルヲ例トセリ
 亦以テ寒威ノ猛烈ナルヲ推知スルニ足ラン斯カル有様ナルヲ以テ而カモ積雪五尺ニ餘ル森林内ニ
 於テ嚴寒中伐木造材ノ業ニ從事スルカ如キハ到底爲シ得ヘキ所ニアラス必スヤ伐木造材ノ時期ハ

毎年五月ヨリ十一月迄ノ間ヲ出テサルコトハ明瞭ナル事實ナリトス前項所述ニ依リ考フルトキハ
 明治三十六年ニ屬スル伐根ハ即チ明治三十七年五月以前ノ伐採ト稱スルヲ得ヘク又明治三十七年
 ニ屬スル伐根ハ即チ明治三十七年五月以後ニ伐採シタルモノト斷定スルコトヲ得即チ御命令ニ於
 ケル明治三十七年五月以前ニ伐採セシモノナルヤ同月以後ニ伐採シタルモノナルヤハ恰カモ同地
 方ニ於ケル入材伐木時期カ五月ナルヲ以テ伐根年別ノ鑑定ニ依リ五月前後ヲ區別シ得ルナリ伐採
 カ三十七年以後ナルヤ以前ナルヤノ鑑定ハ所謂年ヲ以テ伐採期ヲ區別スルモノニシテ月ヲ以テ伐
 採期ヲ區別スルト異リ鑑別決シテ難シトセス即チ伐根斷面ノ模様切屑枝葉ノ狀態腐朽ノ程度等ニ
 依リテ明カニ識別シ得ルナリトノ記載アリ是レニ依テ觀レハ該鑑定人カ其特殊ノ技能ニ依リ伐根
 斷面ノ模様切屑枝葉ノ狀態腐朽ノ程度等ニ徵シ鑑別シ得タルハ其伐採カ明治三十七年以後ナルヤ
 將タ其以前ナルヤノ點ニ止マリ其伐採カ明治三十七年五月以前ナルヤ將タ其以後ナルヤ即チ月ヲ
 以テ伐採期ヲ區別シタル點ニ付テハ單ニ伐根所在地ハ寒氣嚴烈就中湯本十數戸ノ住民ノ如キハ僅
 カニ二名ノ留守番ヲ殘シテ他ハ悉ク毎年十一月ヨリ翌年五月迄日光町其他ニ避寒スルヲ例トスル
 カ故伐木造材ノ如キハ毎年五月ヨリ十一月ノ間ニ出テストノ事實ニ基キタルコト明白ナレハ該鑑
 定ハ鑑定人カ特殊ノ技能ニ基キタル鑑別ニアラスシテ全ク其地方特種ノ事實ニ基キタル推測ナル
 ヤ言フ俟タス從テ該鑑定ハ法律上鑑定トシテ無効ナリ加之鑑定人ハ右ノ如キ地方特種ノ事實ニ基
 キ鑑定ヲ爲シ得ヘシトスルモ事實ハ如何ニシテ之ヲ知得シタルヤ記録上明白ナラス故ニ該鑑定ハ
 架空ノ事實ニ基キタルモノト云フヘク隨テ該鑑定ハ此點ヨリ觀ルモ無効ナリ要スルニ原判決ハ無

效ノ證據ヲ採テ罪證ニ供シタル不法アリト云フニ在リ。○因テ按スルニ凡ソ鑑定人ハ鑑定ノ事項ニ付學術又ハ特別ノ智識ニ依リ鑑定ヲ爲スヘキモノタルコトハ言フ俟タス。(刑事訴訟法第三百三十五條第一項)去レハ原判決ノ事實認定ノ資料ニ供シタル鑑定書ヲ作成シタル鑑定人鍋田三重ハ山林屬ニシテ今市小林區署長ナレハ其職務上本件ノ伐根所在地カ嚴冬中寒氣凜烈ニシテ人ノ居住ニ堪ヘ難ク隨ヒテ伐木造材ニ從事スルヲ得サルコトヲ知得セルヲ以テ本件伐木造材ノ時期ハ必ス毎年五月ヨリ十一月迄ノ間ニ在ルコトヲ特ニ知レルカ故ニ本件ノ盜伐時期ヲ五月以後ニ在リシモノト鑑定シタルモノニシテ其氣候ノ凜烈ト伐木ノ時期トハ畢竟該地方ニ於テ山林ノ業務又ハ職務ニ從事スルモノニシテ始メテ確實ニ知ルコトヲ得ヘキモノナレハ其ノ智識ハ同鑑定人カ職務上得タル特別ノ智識ト言ハサルヘカラス然ラハ即チ本件ノ鑑定ハ同鑑定人カ職務ニ因リテ得タル特別ノ智識ヲ以テ鑑定シタルモノナレハ其適法ノモノタルコト固ヨリ論ヲ俟タス因テ本論旨ハ理由ナキモノトス

詐欺取財事件

明治三十九年(九)第一〇八三號
明治三十九年十一月三十日宣告

(破毀)

判決要旨

一、刑事訴訟法第二百六十四條第一項ハ控訴院ニ於テ地方裁判所カ輕罪ナリト判決シタル被告ノ所爲自體ヲ重罪ニ該當ス

ルモノトシ又ハ檢事ヨリ同一旨趣ノ控訴若クハ附帶控訴ヲ爲シタルトキハ減刑ノ原因存スル爲メ事實上輕罪ノ罪ヲ科スヘキ場合ト雖モ常ニ同條ノ手續ヲ履踐セシムルノ法意ナリトス

(參照) 控訴院ニ於テ地方裁判所カ輕罪ナリト判決シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキ又ハ其事件ヲ重罪ナリトシテ主タル控訴又ハ附帶控訴アリタルトキハ其公判ヲ止メ更ニ重罪事件トシテ裁判ス可キ旨ノ判定ヲ爲シ受命判事ナシテ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシム可シ(刑事訴訟法第二百六十四條第一項)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院
被告人 長 連 正 辯護人 原 田 亮
外一名

右詐欺取財被告事件ニ付明治三十九年十月十九日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告兩名ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
被告兩名辯護人原田亮上告趣意擴張書ノ第四點ハ原判決ニハ「右詐欺取財被告事件ニ付(中略)原裁判所カ本件ニ付明治三十八年三月法律第六十六號第六條ヲ適用シタルハ不法且科刑輕キニ失ストノ理由ニ依リ當院檢事ノ爲シタル附帶控訴ニ付キ云々」トアリテ同法第六條ニハ「前數條ニ規定シタル輕罪ヲ犯サントシテ云々」トアルカ故ニ檢事カ本條ノ適用ヲ以テ不法ト爲シタルハ即チ重罪ナリトシテ附帶控訴ヲ爲シタルモノナルコト明ナリ果シテ然ラハ原院ニ於テハ刑事訴訟法第

二百六十四條ニ依リ其公判ヲ止メ重罪事件トシテ裁判スヘキ旨ノ決定ヲ爲シ受命判事ヲシテ其事
 件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシメサルヘカラス然ルニ原院ニ於テ其手續ヲ經ルコトナク直チニ裁判
 シタルハ不當ニ法則ヲ適用セサル違法アルモノト信スト云フニ在リ○依テ按スルニ刑事訴訟法第
 二百六十四條第一項ノ法意ハ控訴院ニ於テ地方裁判所カ輕罪ナリト判決シタル被告ノ所爲夫レ自
 體ヲ重罪ニ該當スルモノトスルカ若クハ檢事ニ於テ同一趣旨ノ控訴若クハ附帶控訴ヲ爲シタルト
 キハ減刑ノ原因存スル爲メ事實輕罪ノ刑ヲ科スヘキ場合ナルト否トニ拘ハラズ常ニ其公判ヲ止メ
 更ニ重罪事件トシテ裁判スヘキ旨ノ決定ヲ爲シ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシ
 ムヘキ趣旨ト解スヘキヲ至當トス故ニ減刑ノ原因存スル爲メ被告ニ對シテハ當然輕罪ノ刑ヲ科ス
 ヘキトキト雖モ被告ノ所爲自體ヲ重罪ナリトシ檢事ニ於テ附帶控訴ヲ申立テタル場合ニ於テハ控
 訴裁判所ハ刑事訴訟法第二百六十四條第一項ノ規定ニ依リ其手續ヲ爲サルヘカラス若シ其手續
 ヲ履踐セシテ判決ヲ爲サンカ其判決ハ破毀ヲ免レス何トナレハ重要ナル公判手續ニ關スル法則
 ノ適用ヲ爲サリシモノナレハナリ今原院公判始末書ヲ閱スルニ檢事ノ陳述ヲ錄取シタル部ニ云
 々原判決ハ明治三十八年法律第六六號第六條ヲ適用シタルモ同法第三條一項ニ該ル重罪ニシテ
 法第十二條(第十三條ノ誤ナラン)一項ヲ適用スヘキモノト思料ス云々附帶控訴ス云々トノ
 記載アリテ原院檢事カ被告ノ所爲自體ヲ重罪ナリトシテ附帶控訴ヲ爲シタルコト明ナリ然ルニ原
 院ニ於テ刑事訴訟法第二百六十四條第一項規定ノ手續ヲ爲サス其儘辯論ヲ終結シ被告ニ對シ有罪
 ノ判決ヲ言渡シタルハ不法ニシテ本趣意ハ理由アリ而シテ右不法ハ原判決ノ全部ニ影響シ其全部

七〇

ヲ破毀スルニ足ルヲ以テ他ノ上告趣意ニ對スル説明ヲ省略ス

一三九

詐欺取財未遂私印盜用私書偽造行使事件

明治三十九年(九)第一〇九七號 (破毀)
 明治三十九年十一月三十日宣告

判決要旨

一、公判ニ立會ハサル裁判所書記カ作製整頓シタル公判始末書
 ハ無効ナリ

第一審 高知地方裁判所 第二審 大阪控訴院
 被告人 棚野馬之丞 辯護人 高木益太郎

右詐欺取財未遂私印盜用私書偽造行使被告事件ニ付明治三十九年十月十五日大阪控訴院ニ於テ言
 渡シタル判決ヲ不法トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判
 決スルコト左ノ如シ

辯護人高木益太郎辯明書ノ第二ハ公判始末書ハ當該公判ニ立會ヒタル裁判所書記ニ於テ作成セサ
 ルヘカラサルモノナルコトハ素ヨリ論議ヲ要セサル所也然ルニ原院公判始末書ノ末尾(記録第二
 百三十丁)ヲ査スルニ其始末書上管テ公判ニ立會ヒタル事迹ナキ裁判所書記田中元次郎ノ署名捺
 印アリテ畢竟右始末書ハ權限ナキ者ノ作成シタル無効ノ書面ニ屬セリ然ラハ則チ原院ニ於テハ果
 シテ適法ナル審理ニ基キ適法ナル言渡ヲ爲シタルモノナルヤ否ヤヲ確認シ難ク原判決ハ破毀セラ

無効ノ公判始末書

七一

ルヘキ瑕瑾アルモノナリト云フニ在リ○依テ按スルニ刑事訴訟手續ニ於ケル公判始末書ハ之ニ署名捺印シタル裁判所書記ニ於テ作成整頓シタル者ト認メサルヘカラス何トナレハ其作成整頓ニ干與セザリシ書記ニ於テ之ヲ署名捺印スヘキ理由毫モ存セサルヲ以テ其署名捺印アル以上ハ其作成ニ係ルモノト推定スヘキハ理ノ當然ナレハナリ然リ而シテ公判始末書ハ其公判ニ立會ヒタル裁判所書記ニ限リ作成スヘキモノニシテ之ニ立會ハサル裁判所書記ハ之ヲ作成整頓スルノ權限ヲ有セサルコトハ刑事訴訟法第二百八條第一項第二項第十條第一項ノ規定ニ徴シ明カナルヲ以テ若シ公判ニ立會ハサル裁判所書記ニ於テ其始末書ヲ作成整頓スルコトアランカ其始末書ハ無効ニ屬スルモノト云ハサルヘカラス本件原審公判始末書ヲ閱スルニ其末尾ニ裁判所書記平田克己並ニ田中元次郎兩名ノ署名捺印アルニ因リ同始末書ハ兩名ニ於テ之ヲ作成整頓シタルモノト認メサルヘカラス然ルニ同始末書ノ冒頭ニハ云々裁判所書記平田克己立會云々ト記載シ同始末書中ノ判決言渡ニ關スル部ニハ云々前回ト同一ノ書記立合ヒタル旨ノ記載アリテ裁判所書記田中元次郎カ本件ノ審理又ハ判決ノ言渡ニ立會ヒタリト認ムヘキ事跡毫モ存セザレハ同人ハ本件審理ノ際ニモ亦判決言渡ノ際ニモ立會ヒタルモノニアラザルコト明カナリ故ニ同始末書ハ作成ノ權限ナキ裁判所書記田中元次郎ニ於テ本件ノ審理判決ノ言渡ニ立會ヒタル書記平田克己ト共ニ作成整頓シタルモノニシテ其作成ニ係ル部分カ無効ニ屬スヘキハ毫モ疑ナシ而シテ書記平田克己ノ作成ニ係ル部分ノ有效ナルヘキハ亦タ疑ナシト雖モ何レノ部分カ同人ノ作成ニ係ルモノナルヤ之ヲ知ルニ由ナク從テ其有效ナル部分モ亦判然セサルニ因リ前示不法ノ結果同始末書ノ全部ヲ無効ノモノト爲サレ得ス既

ニ同始末書ノ全部無効ニ屬スル以上ハ原院カ適法ノ手續ヲ履踐シ本件ノ審判ヲ爲シタル事跡モ亦之ヲ認ムルニ由ナキヲ以テ前示不法ハ原判決ノ全部ヲ破毀スルノ理由タルモノトス

詐欺取財事件

明治三十九年(第一二二七號) 棄却
明治四十年一月十五日宣告

判決要旨

一人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル以上ハ縱令其ノ給料ニ付キ相手方ニ不法ノ原因存シ之レカ返還ヲ求ムルコト能ハサル場合ト雖モ詐欺取財罪ノ成立ヲ妨ケス

第一審 千葉地方裁判所 第二審 東京控訴院
被告人 大塚金藏 辯護人 布施辰治

右詐欺取財被告事件ニ付明治三十九年十一月十日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ
辯護人布施辰治上告趣意ハ本件事實ハ假リニ原審控訴院ノ如クトスルモ嚴正ナル法律上ノ解釋トシテ犯罪ヲ構成スヘキモノニアラス何トナレハ法律刑罪ノ目的ハ一面正當ナル者ヲ保護スルノ反面ニ於テ不正者ヲ處罰スルニアリ然ルニ本件事案ハ被害者ナリト稱スル松澤廣治カ金員ヲ騙取セラル、ニ至リタル筋合ハ其目的國家ノ法禁ナル贋造紙幣ノ購入或ハ紙幣ノ贋造術ヲ被傳セントノ

詐欺取財罪ノ成立

趣意ニ出テタルモノナレハ其事斷シテ正常者タル法律ノ保護ヲ受ク可キモノニアラス從テ本件事案ノ夫レタルヤ法律問題トシテ有罪ヲ斷セラルヘキ筋合ノモノニアラサレハナリト云フニ在リ同辯護人上告趣意擴張書ハ第一點本件事案ハ假リニ原院判示認定ノ如クトスルモ其性質ニ於テ法律上ノ所謂犯罪ヲ構成スヘキモノニアラスト思料ス然ルニモ不拘原審控訴院カ漫然之ヲ採テ有罪ト斷定シタルハ不法ナリ抑モ刑法上ニ所謂犯罪トハ不正ナル者カ正當者ノ有スル法益ヲ侵害シタル事實ヲ指稱スルノ謂ニ係リ彼ノ宗教道德カ其起點ヲ人間絶對ノ正義觀念ニ置キ以テ良心ノ責苦而シテ反省ヲ求ムルカ如キニアラスシテ世ノ功利說所謂最大富者ノ最大利益ヲ保護ス可ク少數者ノ利益或ハ自由ヲ制限又ハ剝奪スルカ如キ相對ノ觀念ヲ根本基礎トスルニ於テ刑法ノ目的モ亦々正當ナル多數者ノ權利利益ヲ保護スルノ反面之レヲ侵害シタル不正者ヲ懲罪スルモノタルハ道德對法律ノ分界ニ於テ容易ニ會得ス可キノ主要點ナリ這般ノ理ハ我刑法ノ原則トシテ未遂犯ハ之レヲ處罰セサルト云フ(罰スルモノハ特別明文アリ)モ亦々刑法上ノ格言ニ法律ハ其意思ヲ罰セスト云フカ如キハ尤モ明白ニ前段所論ノ如キ犯罪ノ性質及刑罰ノ目的ヲ表示シタルモノト云フ可シ然リ而シテ本件事實ノ真相タルヤ原審控訴院ニ於テ判示シタルカ如ク被告大塚金藏等ハ第一審ノ相被告上田宰三郎及外數名ノ者ト共謀シテ松澤廣治ナルモノヨリ金圓ヲ騙取セント企テ明治三十七年九月二十日頃廣治ニ對シ紙幣ヲ偽造シ遣ハス可シト申シ詐リテ結局上田宰三郎ノ手ニ廣治ヨリ金六百五十圓ヲ交付セシメ騙取シタリ云々ト云フニ在リテ被害者ナル松澤廣治カ本件六百五十圓ノ金子ヲ上田等ノ爲メニ騙取セラレタルハ我國法ノ嚴禁シテ許ス所ナキ流通紙幣ヲ偽造行使

シ以テ不正ノ利得ヲ計ラントシタルニ原クモノニシテ其因由及事實ハ其ニ國法ノ禁シテ犯罪トスル所ナリ然レハ即チ被害者松澤廣治カ六百五十圓ヲ上田宰三郎ニ交付シテ騙取セラレタルノ事實ハ法律ノ保護ヲ受クヘキ正當ノ事由ヲ存セス之レヲ民法ノ規定ニ見ルモ不法ナル事由ニヨリテ金圓ヲ交付シタルモノハ之レカ返還ヲ求ムル能ハサルナリ事實既ニ如斯松澤廣治ノ被害ニシテ法律ノ保護ヲ受ク可キ正當事由ニアラストセハ之レニ相對セル被害金藏等ノ不正事實即チ騙取ノ行爲ハ法律上ニ所謂犯罪トシテ處罰セラル可キ正當ナル法益ノ侵害ニアラス然ルニモ拘ハラス原審控訴院ハ這般ノ主要點ニ注意スル所ナク被告等ノ所爲ヲ採テ以テ有罪ト斷シタルハ不法ナリト云フニ在リ○按スルニ詐欺取財罪ハ人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取スルニ因リテ成立スルモノニシテ被欺罔者カ財物ヲ交付シタルハ不法ノ原因ニ出テタル爲メ民法上其財物ノ返還ヲ請求スルコト能ハサルト否トハ毫モ犯罪ノ成否ニ關係ヲ及ホスヘキモノニ非ス何トナレハ苟モ他人ヲ欺罔シテ其財物ヲ騙取シタル以上ハ之レカ爲メ他人ノ財產權ヲ侵害シ國家ノ安寧秩序ヲ害スヘキハ當然ニシテ民法上被害者カ其受ケタル損害ニ對シ贓物ノ還給又ハ損害賠償ノ方法ヲ以テ之レカ救済ヲ求ムルコト能ハサルヲ理由トシテ刑事上ノ責任ヲ免脱スヘキモノニ非サルヤ明カナレハナリ左レハ原判決カ所論ノ如ク事實ヲ認定シ之レニ對シテ刑法第三百九十條ヲ適用シタルハ相當ニシテ本論旨ハ上告ノ理由トナラス(明治三十七年十月二十八日宣告第二〇四七號同三十八年五月十九日宣告第五九六號判決參照)

詐欺取財并附帶私訴事件

明治三十九年(レ)第一一〇八號
明治三十九年十二月十三日判決 (棄却)

詐欺取財罪ノ成立

判決要旨

一、人ヲ恐喝シテ損害賠償ノ證據タルヘキ訖書ヲ騙取シタル所
 爲ハ詐欺取財罪ヲ構成ス

一、取消ノ效果ハ法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサル以上ハ何人ニ對
 シテモ對抗シ得ルヲ元則トス「詐欺ニ依ル意思表示ノ取消ノ
 效果ニ付テハ之ヲ以テ第三者ニ對抗ス可ラサルノ制限ヲ設
 クルモ強迫ニ付テノ意思表示ノ取消ノ效果ハ法律ニ別段ノ
 規定ナキヲ以テ一般ニ之ヲ對抗スルコトヲ得

一、強迫ノ爲メ表意者カ全ク意思ノ自由ヲ奪ハレタル場合ニ於
 テハ其ノ意思表示ハ全然無効ナリ從テ之レニ對シ取消ノ問
 題ヲ生スルコトナシ

一、強迫ニ遭フモ表意者カ尙ホ多少其ノ意思ノ自由ヲ享有スル
 其ハ其ノ意思表示ハ瑕瑾アル意思表示トシテ有效ニ存在ス
 取消ニ因テ初メテ之ヲ無効ナラシムルコトヲ得

説明

詐欺取財ノ目的タル證據。詐欺取財ハ獨リ有形ナル財物ヲ騙取シタル場合ノミ
 ニ止マラス證據類ヲ騙取シタルモ亦タ本罪ヲ構成ス故ニ詐欺取財ヲ論スルニ
 當リテハ此ノ犯罪ノ目的タル財物證據類ノ何モノタルヤ明カニスルハ最モ必
 要ノコトニ屬ス本件ハ右二者中ノ一ナル證據類ニ關スルカ故ニ左ニ詐欺取財ノ
 目的タル證據類ノ何モノタルヤ論明スヘシ

刑罰カ詐欺取財ノ目的トシテ財物ノ外ニ證據類ヲ併記シ財物ト均シク之ヲ騙取
 シタル處ヲ爲ス處罰ノ所以ハハ證據ノ形骸即チ有形ナル證據カ爲ナリ故ニ證據
 カ爲ニアルヲ爲ス證據ニ附セラレタルハ無形ノ證據カ爲ナリ故ニ證據
 カ詐欺取財ノ目的タル證據類ノ何モノタルヤ明カニスルハ最モ必要

從テ證據力ナキ書類若クハ一旦之レアリタルモ爾後無効ニ屬シタル證據ハ之ヲ
 騙取スルモ本罪ノ構成セズ又タ其ノ事項カ民事事項ナルト刑法上ノ犯
 罪トナルト身ノ關係ニ屬スルトハ日夕騙取シタル證據ハ之レニ因リテ直接間接
 ニ被害者ヨリ財物ノ引渡ヲ求メ得ヘキ性質ノモノナラサル可ラス若シ財産上ノ
 請求ニ何等ノ關係ヲ有セサルモノナルトキハ之ヲ騙取スルモ他罪ヲ構成スルハ
 格別詐欺取財ヲ構成スヘキ者ニアラス其ノ故他ナシ凡ソ詐欺取財ナルモノハ則

詐欺取財罪ノ成立

主

例判事刑卷八拾第報彙例判

窃盗強盜打等ノ犯人ハ其ノ被
害者ニ對シテハ法律ノ規定ニ依
リ或ハ損害賠償ノ義務ヲ負フ
ルコトヲ得ルモノナリ然レモ
シテハ其ノ被害者ニ對シテハ
法律ノ規定ニ依リ或ハ損害賠
償ノ義務ヲ負フモノナリ然レ
モシテハ其ノ被害者ニ對シテ
ハ法律ノ規定ニ依リ或ハ損害
賠償ノ義務ヲ負フモノナリ
...

例判事刑卷八拾第報彙例判

價ノ交附セザルニテハ其ノ
結果トシテ求メシムルコト
得ルモノナリ然レモシテハ
其ノ被害者ニ對シテハ法律
ノ規定ニ依リ或ハ損害賠償
ノ義務ヲ負フモノナリ然レ
モシテハ其ノ被害者ニ對シ
テハ法律ノ規定ニ依リ或ハ
損害賠償ノ義務ヲ負フモノ
...

(参照) 詐欺又ハ強迫ニ因ル意思表示ハ之ヲ取消スコトヲ得(民法第九十
六條第一項)

第一審 福島地方裁判所 第二審 宮城控訴院

公訴上告人 秋元徳造

私訴上告人 菅野伊三郎 外一名

私訴被上告人 半澤半右衛門

辯護人 上原鹿造

右公訴被告人等ニ對スル詐欺取財被告事件並之ニ附帶スル私訴事件ニ付明治三十九年十月二十三
日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ公訴ニ付テハ被告徳造、徳次郎、九市ヨリ私訴ニ
付テハ徳造伊三郎ヨリ各上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百三十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル

詐欺取財罪ノ成立

コト左ノ如シ

德三伊三郎代理人鳩山和夫上原鹿造私訴上告理由擴張書ノ第一點ハ原判決ハ強迫ニ依ル意思表示ト詐欺ニ依ル意思表示トヲ區別シ強迫ノ場合ハ其行為カ取消シ得ヘキモノナルニモ拘ハラヌ善意ノ第三者ニ對抗シ得ヘキモノナリト判定シタリ然レトモ強迫カ全然意思ノ自由ヲ奪取シタル場合換言セハ行為能力ノ欠如シタル場合ト強迫カ甚シク強大ニ至ラスシテ意思ノ幾部ヲ牽束シタル場合トニ於テ第三者ニ對スル對抗力ニ差等アルコト勿論ナリ後者ハ取消シ得ヘキ契約ニシテ此場合ハ詐欺ニ依ル意思表示ト毫モ異ナルコトナク其取消ハ善意ノ第三者ニ對抗シ得ヘラサルモノトス然ルニ原判決カ反對ニ之ヲ解釋シタルハ法則ノ適用ヲ誤リタルモノトスト云フニ在レトモ○法律行為ノ取消ハ初メヨリ其行為ヲ無効ナラシムルノ效果ヲ生スルコトハ民法第百二十一條ニ規定スル所ナレハ法律行為取消ノ效果ハ法律ニ特別規定アレハ格別然ラサレハ何人ト雖モ之ヲ主張スルコトヲ得ヘク又何人ニ對シテ之ヲ主張シ得スルハアラス而シテ詐欺ニ依ル意思表示ノ取消ニ付キテ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルハ民法第九十六條第三項ニ規定スル所ナルモ強迫ニ因ル意思表示ノ取消ニ付キテハ斯ル特別規定ヲ存セサルヲ以テ其效果ハ一般ノ原則ニ從ヒ第三者ニ對抗シ得ヘキモノトナサレハ得ス而シテ意思ノ表示カ相手方又ハ第三者ノ強迫ニ出テタル場合ニ表意者カ全ク意思ノ自由ヲ奪ハレタル場合ニ於テハ其意思表示ハ全然表意者ノ意思ヲ欠如スルモノナレハ唯々形式的存在ヲ有スルニ止マリ實體上ニ於テハ全然無効ナルヲ以テ所謂取消ノ問題ヲ生スルコトナク表意者カ多少其意思ノ自由ヲ享有スル場合ニ於テ其意思表示ハ瑕瑾アル意

思表示トシテ取消ニ因リ初メテ之ヲ無効ナラシムルコトヲ得ルモノナリ民法第九十六條一項ニ「強迫ニ因ル意思表示ハ之ヲ取消スコトヲ得」トアルハ即チ此種ノ意思表示ヲ指シタルモノニシテ所論ノ如ク絶對的ニ意思ノ自由ヲ欠缺スル場合ニ適用スヘキ法條ニアラス故ニ原院カ本件契約取消ハ第三者タル伊三郎ノ意思如何ニ拘ハラヌ之ニ對抗シ得ヘキモノト判示シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ

證書偽造行使詐欺取財事件

明治三十九年(レ)第一二五號 明治三十九年十二月七日判決 (棄却)

判決要旨

一、文書偽造罪ハ偽造文書ノ行使ニ依リ實害ヲ生シ又ハ生シ能フ事實アルコトヲ要ス而シテ其ノ所謂實害ナルモノハ必スシモ偽造文書ニ署名者トシテ其ノ氏名ヲ記セラレタル者ニ對シ存スルコトヲ要セス偽造文書ノ交附ヲ受クル第三者ニ對シ此ノ事實ノ存スルトキハ本罪ヲ構成スルヲ妨ケス

第一審 福岡地方裁判所小倉支部 第二審 廣島控訴院

被告人 安田ユキ

偽造文書ノ行使ト實害トノ關係

右證書偽造行使詐欺取財事件ニ付明治三十九年十月十九日廣島控訴院カ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣旨書ハ原院カ爲シタル事實ノ認定及ヒ法律ノ適用ヲ掲ケタル上抑モ文書偽造罪ノ構成要件ハ文書偽造行使ニ依リ直接ニ害ヲ生シタル事實アルヲ要ス前記事實ノ認定ヲ見ルニ被告等カ行使シタル場合ハ行使自體ニ因リ何等ノ權利關係ノ情況ヲ生セス單ニ自己ノ信用ヲ維持スルノ手段ニ供シタルノミ假裝ノ權利關係モ發生セサル場合ニ於テ文書行使自體ニ依リ何等ノ害ヲ生スヘキ理由ナシ又被害者ハ該文書ニ依ツテ何等ノ權利關係ヲ生スルヲ豫想シタリトノ舉示ナキ以上ハ被害者ニ對シ害ヲ生シタリトノ認ムヘキ點ヲ發見スルヲ得ス然ルニ之ニ對シ刑法第二百十條ヲ適用シタルハ法律ノ錯誤タルヲ免カレヌ更ラニ詐欺取財ノ點ニ付テ之レヲ見ルニ元來本件ニ關シ「イエツチハンター」合名會社及ヒ美澤謙四郎ノ出金ハ共同事業ノ出資ナルヲ將タ消費貸借ニ依ル金錢ノ受授ナルヲ先決スルヲ要ス判示事實ニ於テハ被告ユキハ消費貸借ニ因ル金錢ノ受授トシテ之ヲ受ケ前記會社及ヒ謙四郎モ亦消費貸借關係ノ意思ヲ以テ之レヲ支出シタルモノト舉示セラレタリ之レ判示事實中ニ於テ一割ノ利息ヲ附スルトノ記載及ヒ被告ユキハ借入ノ周旋ヲ爲シタリトノ記載及ヒ被告ユキハ借入レタリトノ記載等ノ文字ニ於テ明カナリ然ラハ初メヨリ辨濟ノ意思ナクシテ之レカ交付ヲ受ケタリトノ事實ノ舉示ナキニ於テハ手段ニ於テ虛偽ノ辯ヲ弄スルモ是レ單ニ消費貸借ヲ爲サンカ爲メノ用ニ供シタリト認ムヘクシテ之レヲ以テ直チニ詐欺取財ノ構成要件ヲ充シタルモノト云フヲ得ス之レ法律ノ錯誤アル所以ナリト云フニ在レトモ○文書偽造罪ノ成立ニ

必要ナル實害ナルモノハ必スシモ偽造文書ニ署名者トシテ其氏名ヲ記載セラレタル者ノ方面ニ於テ生スルコトヲ要スルモノニアラスシテ其者ノ方面ニ於テハ何等ノ損害ヲ生シ又ハ生スルノ恐れナキ場合ト雖モ苟モ該文書ニ信ヲ措キ之レカ交付ヲ受クル第三者ノ方面ニ於テ損害ヲ生シ又ハ生スルノ恐れアルトキハ文書偽造罪ノ成立ニ要スル實害ノ要件ヲ具備スルモノト云ハサルヲ得ス何トナレハ偽造文書ニ署名者トシテ其氏名ヲ記載セラレタル者ニ對シ何等ノ損害ヲ生シ又ハ生スルノ恐れナシトスルモ偽造文書ニ信ヲ措キ之レカ交付ヲ受クル者ノ方面ニ於テ現ニ損害ヲ生シ又ハ生スルノ恐れアルモノナルニ於テハ刑罰ノ制裁ヲ付シテ之レカ行使ヲ禁止シ其損害ヲ未然ニ防クハ要アルハ論ヲ俟タサルヲ以テナリ原判決ノ認ムル所ニ依レハ本件木村利兵衛ノ通稱木村靜三名義ノ胴船二十隻ノ偽造賣渡證書ハ被告カ四枝靜ト共謀シ美澤謙四郎ニ對シ靜カ門司碇泊場司令部ヨリ胴船二十隻ノ納付方ヲ命セラレ其資金ニ入用ナル旨詐言ヲ構ヘ同人ヲ欺キ金圓ヲ騙取シタル後其犯跡ヲ蔽ハンカ爲メ之レヲ偽造シ金一万千圓ヲ以テ胴船二十隻買入レタルニ相違ナキコトヲ信セシムル爲メ同人ニ交付シ行使シタルモノナレハ其行使ニ依リ木村利兵衛ニ對シテハ何等ノ損害ヲ生セス又生スルノ恐れナシトスルモ美澤謙四郎ニ對シ損害ヲ生シタルモノト云ハサルヲ得サルヲ以テ文書偽造罪ノ成立ニ要スル實害ノ要件ハ具備シタルモノト云ハサルヘカラス故ニ前段ノ論旨ハ上告ノ理由ナシ又原判決ノ認ムル所ニ依レハ本件第一ノ事實ハ被告カ四枝靜ト共謀シ美澤謙四郎ニ對シテ靜カ門司碇泊場司令部ヨリ胴船ノ納付方ヲ命セラレ其資金ニ入用ナル旨詐言ヲ構ヘ同人ヲ欺キ金圓ヲ騙取シ第二ハ被告カ美澤謙四郎ニ對シ同上司令部ニ納入ノ解船買入ノ周旋料及

偽文書ノ行使ト實害トノ關係

ヒ其代金ニ入用ナル旨詐言ヲ構ヘ同人ヲ欺キ金圓ヲ騙取シタルモノニシテ被告ニ辨濟ノ意思ナキコトハ原判文上自ラ明ラカナルノミナラス不實ノ事ヲ虛構シ貸借ニ事寄セ金圓ヲ詐取シタルモノナレハ被告ニ詐欺取財ノ罪責アルヤ論ヲ俟タサルヲ以テ原院カ被告ヲ詐欺取財罪ニ問擬シタルハ擬律ノ錯誤ニアラス

●紙幣偽造器械豫備事件

明治三十九年(レ)第一二〇號
明治三十九年十二月十日宣告 (棄却)

判決要旨

一、犯罪ニ關スル物件ノ沒收ハ一ノ附加刑ナレハ其犯罪ニ付キ主刑ノ宣告ヲ受クル總テノ犯人ニ對シテ之ヲ言渡スヘキモノトス

第一審 福岡地方裁判所

第二審 長崎控訴院

被告人 石崎榮次

外一名

右紙幣偽造器械豫備被告事件ニ付明治三十九年十月十九日長崎控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告等ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告二點ハ原判決ハ同一物ニ付其相容レサル二箇ノ裁判ヲナシタル不法アリ抑モ本件ハ相被告坂

本忠太郎久保山百太郎坂本廣吉ト上告人トノ共犯ニシテ坂本忠太郎並ニ久保山百太郎ハ既ニ第一審判決ニ依リ服罪シ上告人ハ坂本廣吉ト共ニ控訴ヲ爲タリ而シテ其第一審裁判所カ爲タル判決主文ニハ押收物件ニ關シ既ニ沒收ノ宣告ヲ爲シ其判決ハ確定シタルモノナルニ拘ハラス原審カ其同一物件ニ對シ復タ爰ニ沒收ノ宣告ヲ爲シタルハ同一事物ノ既ニ確定シタルモノニ對シ再ヒ相容レサル同一ノ二箇ノ裁判ヲ爲シタルモノニシテ蓋シ失當ヲ免レサル判決ナリト信スト云フニ在リ○依テ按スルニ犯罪ニ關スル物件ノ沒收ハ一ノ附加刑ナレハ其ノ犯罪ニ付主刑ノ宣告ヲ受クル總テハ犯人ニ對シテ之ヲ言渡スヘキモノトス今本件ヲ見ルニ前相被告坂本忠太郎久保山百太郎ハ被告ト本件ノ犯罪ニ付第一審ニ於テ重禁錮監視及犯罪ニ關スル物件沒收ノ宣告ヲ受ケタル處忠太郎百太郎ハ右第一審判決ニ對シ控訴ヲ爲サ、リシ爲メ同人等ニ對シテハ其判決確定シタリト雖モ被告ハ該判決ニ對シ控訴ヲ爲シタルカ爲メ右沒收ノ判決ハ被告ニ對シテハ未確定ニ屬セシヲ以テ原院ニ於テ審理ノ末右第一審判決ヲ是認シ被告ノ控訴棄却ヲ言渡シタルモノナレハ原判決ハ結局前顯説明ノ趣旨ニ適合スルモノニシテ毫モ所論ノ如キ失當ノ廉ナキモノトス

●私印盜用私書偽造行使事件

明治三十九年(レ)第一二五號
明治三十九年十二月四日判決 (棄却)

判決要旨

一、公判判事ハ被告事件ノ審判中附帶犯アルコトヲ發見シタル

附帶犯ノ豫審○豫審ト公判トノ關係

トキハ職權ヲ以テ直チニ之ヲ審判スルコトヲ得然レトモ若シ其ノ附帶犯カ豫審ニ繫屬中ナルトキハ豫審終結決定ヲ以テ之ヲ公利ニ付スルニアラサレハ審判スルコトヲ得ス

一、然レハ豫審ニ繫屬スル附帶事件カ公判事件ト實質上ノ一罪タル關係ヲ有スルトキハ公判判事ハ豫審終結ヲ待タス之レニ對シ審判スルコトヲ得

被告人 北村彌五郎

辯護人 高木益太郎

右私印盗用私書偽造行使被告事件ニ付明治三十九年九月一日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

辯護人高木益太郎上告辯明書ニ、原院ハ起訴狀第三事實ノ金子たみノ代理資格ヲ僞署セル登記申請書ヲ偽造シ有合印ヲ押捺シテ之ヲ彦根區裁判所愛知川出張所ニ提出行使シタリトノ點ニ付テハ何等審理判決ヲ爲サス畢竟原判決ハ請求ヲ受タル事項ヲ裁判セサル不法アルモノナリ(三九(レ)四六九號本年六月一日言渡御院判旨引用)ト云フニ在レトモ○豫審ニ繫屬シ未タ終結決定ヲ經サル被告事件ハ縱令ヒ公判判事ニ於テ附帶犯ナリト認ムルモ之ヲ處分スルノ權ナキ事ハ本院カ明

治三十七年(レ)第二三七一號私印盗用私書偽造行使等被告事件ニ付既ニ判示シタルカ如クニシテ檢事カ豫審ヲ求メタル事件ニ付公判判事カ公訴ヲ受理スルハ豫審終結決定ヲ以テ事件ヲ公判ニ付スルハ言渡シタルニ因ルモノナル事ハ刑事訴訟法第二百三十五條第一項ノ規定ニ徴シ明確ナレハ實質上ノ一罪トシテ處分スヘキ犯罪行為ヲ除クノ外ハ縱令ヒ檢事カ同時ニ豫審ヲ求メタル事件ト雖モ豫審終結決定ヲ以テ公判ニ付セラレサル以上ハ公判判事ハ之レカ裁判ヲ爲スノ權限ナキモノト云ハサルヲ得ス本件起訴狀ヲ見ルニ右ハ檢事カ豫審判事ニ對シ豫審ヲ求メタル書面ニシテ其第三事實ニハ被告カ金子たみノ代理資格ヲ僞署セル登記申請書ヲ偽造行使シタル事ヲ記載シアル故ニ檢事カ此點ニ付豫審ヲ求メタル事ハ明瞭ナルモ豫審判事カ豫審終結決定ヲ以テ其事件ヲ公判ニ付シタル事ヲ見ルヘキ事跡ナケレハ同事件ハ依然豫審ニ繫屬スルモノニシテ公判判事ニ於テ之ヲ審判スル能ハサルコトハ論ナキヲ以テ第一二審裁判所カ之ヲ不問ニ付シタルハ相當ニシテ所論ノ如ク請求ヲ受ケタル事項ヲ裁判セサル不法アルモノニアラス但シ論旨ニ引用セル本院判例ヲ見ルニ右ハ豫審ヲ經タル事件ノ判例ニハアラサルヲ以テ豫審ヲ經タル本件ノ場合ニハ適合セサルモノトス故ニ本論旨ハ上告ノ理由ナシ

謀殺事件

明治三十九年(レ)第一〇六七號 (棄却)

判決要旨

實行正犯〇數人共犯ニ對スル沒收ノ言渡〇共犯者中一人ノ上訴

一、人ヲ殺害セシコトヲ共謀シ實行ノ現場ニ臨ミ下手者ニ助勢シ又ハ兇行ノ障礙ヲ排除スルニカメタル者ハ實行正犯ナリ

一、數人共謀ノ場合ニ於テ犯罪ノ用ニ供シタル物件ノ没收ハ其ノ物件カ共犯中ノ一人ノ所有ニ係ルキト雖モ没收ノ言渡ハ共犯全体ニ對シテ之ヲ爲スヘシ從テ右没收ノ附加刑ハ共犯人中物件ノ所有者ニ對シテノミ科セラル、ニアラスシテ共犯全体ニ對シテ科セラル、モノトス

一、前項ノ場合ニ於テ共犯者ノ一人カ原判決ノ全部ニ對シテ上訴シタルモ其ノ上訴者カ犯罪ノ用ニ供セラレタル物件ノ所有者ニアラサリシモ雖モ其ノ覆審ハ獨リ主刑ノ裁判ノミニ止マラス没收ノ言渡ニ對シテモ亦及フモノトス

說 明文揭示
人ヲ謀殺セントスルニ際シ其ノ目的ヲ達スルニハ犯人カ其ノ犯罪ノ遂行ニ必要

ナル積極的ノ行爲ヲナスコトト犯罪實行ノ當時ニ於テ消極的ノ作用タル障礙排除ノ行爲ヲナスコトトハ共ニ犯罪ノ遂行ニ缺クヘカラサル事項ニシテ何レカ其一ヲ缺クモ犯罪ハ實行セラレ得ヘカラサルモノナルカ故ニ其ノ何レニ干與スルモ犯罪ノ實行ニ加功シタルモノト云ハサルヲ得サルモノトス而シテ右積極的ノ行爲中ニハ被害者ノ手足ヲ捉ヘ又ハ其逃走ヲ妨ケ以テ殺害ヲ容易ナラシムルカ如キ所爲ヲ包含スルハ勿論現場ニ臨ミ下手者ヲ指揮シ又ハ之レニ助勢スルカ如キ行爲ヲモ包含スルモノト云ハサルヲ得ス何トナレハ現場ニ臨ミト手者ヲ指揮シ又ハ之レニ助勢スルカ如キコトハ直接其ノ實行ニ加ハリ實行行爲ノ一部ヲ分擔スルモノニ外ナラサルヲ以テナリ

第一審 水戸地方裁判所 第二審 東京控訴院
被告人 佐藤三之助 辯護人 横山勝太郎

右謀殺被告事件ニ付明治三十九年十月九日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

被告ノ上告趣意書ハ原判決ノ部ニ「……被告三之助ハ重夫宅前ニ於テ末吉ニ會シ共ニ重夫殺害ノ事ヲ謀リ更ニ兩人ニテ重夫宅ニ入り重夫ト對談中末吉カ懷ロニセシ小刀ニ手ヲ掛ケ重夫ニ肉迫スルノ機ヲ窺フヤ三之助ハ其座ニ在リ以テ末吉ニ兇行ノ氣勢ヲ與ヘ末吉ヲシテ該小刀ヲ以テ重夫ノ左眼部ヲ刺シ深サ四寸頭動脈ヲ切斷シ腦内ニ穿入スルノ創傷ヲ負ハシムルニ至ラシメ重夫ハ之レ

實行正犯〇數人共犯ニ對スル没收ノ言渡〇共犯者中一人ノ上訴

カ爲メ即時死亡シタリト判示セリ即チ三之助自身ハ被害者ニ對シ何等危害ノ所爲ヲ施サス換言スレハ殺害ノ行爲ニハ何等加擔セシテ單ニ傍側ニ在リ之レニ氣勢ヲ與ヘリト云フニ過キス然ルニ三之助ヲ實行ノ正犯ニ間擬シタルハ極メテ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○人ヲ殺害セシコトヲ共謀シ殺害實行ノ現場ニ臨ミ下手者ニ助勢シ又ハ兇行ノ障礙排除ニ力メタル者カ謀殺罪ノ實行正犯ナルコトハ本院カ明治三十七年(レ)第八三六號謀殺事件ニ付既ニ判示シタルカ如シ蓋シ人ヲ謀殺セントスルニ際シ其目的ヲ達スルニハ犯人カ其犯罪ノ遂行ニ必要ナル積極的行爲ヲナスコト、犯罪實行ノ當時ニ於テ消極的ノ作用タル障礙排除ノ行爲ヲナスコト、ハ共ニ犯罪ノ遂行ニ缺クヘカラサル事項ニシテ何レカ其一ヲ缺クモ犯罪ハ實行セラレ得ヘカラサルモノナルカ故ニ其何レニ干與スルモ犯罪ノ實行ニ加功シタルモノト云ハサルヲ得サルモノトス而シテ右積極的行爲中ニハ被害者ノ手足ヲ捉ヘ又ハ其逃走ヲ妨ケ以テ殺害ヲ容易ナラシムルカ如キ所爲ヲ包含スルハ勿論現場ニ臨ミ下手者ヲ指揮シ又ハ之レニ助勢スルカ如キ行爲ヲモ包含スルモノト云ハサルヲ得ス何トナレハ現場ニ臨ミ下手者ヲ指揮シ又ハ之レニ助勢スルカ如キコトハ直接其實行ニ加ハリ實行行爲ノ一部ヲ分擔スルモノニ外ナラサルヲ以テナリ原判決ノ認ムル所ニ依レハ被告ハ第一審相被告新島末吉ト長山重夫ヲ殺害センニト謀リ重夫宅ニ到リ重夫ト對談中末吉カ懷ロニセシ小刀ニ手ヲ掛ケ重夫ニ肉迫スルノ機ヲ窺フヤ被告ハ其座ニ在リ以テ末吉ニ兇行ノ氣勢ヲ與ヘ末吉ヲシテ該小刀ヲ以テ重夫ノ左眼部ヲ刺シ即死セシメタルモノニシテ被告ハ末吉ト共謀シテ現場ニ臨ミ末吉ニ助勢シ末吉ハ被告ノ助勢ニ依リ重夫ヲ刺殺シタル事實ナレハ被告ハ手自ラ重夫ヲ刺殺シ

タルニハアラスト雖モ直接其實行ニ加ハリ其行爲ノ一部ヲ分擔シタルモノナルヲ以テ謀メ謀テ重夫ヲ殺害シタル實行正犯タルノ責任ヲ免ルヲ得サルモノトス故ニ原院カ被告ヲ謀殺罪ノ實行正犯トシテ處分シタルハ相當ニシテ本論旨ハ上告ノ理由ナシ

第二點ハ原判文ニ曰ク「……押收物件中檢第二號ノ小刀一挺ハ原審共同被告新島末吉ノ所有ニシテ犯罪ノ用ニ供シタルモノナルヲ以テ刑法第四十三條第二號第四十四條後段ノ規定ニ從ヒ之レヲ沒收シ……」ト判示シタルモノ之レ原判決事實認定ノ部ニ示シタルカ如ク第一審共犯者新島末吉カ犯罪ノ用ニ供シタル物件ニシテ且ツ同人ノ所有ニ屬ス然ルニ本件上告人ニ對シ之レカ沒收ヲ宣告スルハ法律上不當ノ甚シキモノナリ元來上告人ハ第一審判決ニ對シ控訴ヲ提起シタリト雖モ之レハ上告人自身ニ對スル判決ノ全部ニ對シテ控訴シタルニ止リ他人ノ所有物ノ沒收宣告ニマテ上訴シタルモノニ非ス要スルニ原院カ共犯者ノ所有物タルコトヲ認メナカラ上告人ニ對シ沒收ヲ宣告スヘキモノト判示シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ依レハ本件小刀ハ共犯者タル新島末吉ノ所有ニシテ同カ之ヲ以テ長山重夫ヲ刺シタルモノナリト雖モ右ハ被告カ末吉ト共謀シテ本件犯罪ヲ實行スル爲メ使用セラレタルモノニシテ法律上所謂犯罪ノ用ニ供シタル物件ナリトス而シテ沒收ハ一ノ附加刑ナルヲ以テ本件ノ如キ場合ニ於テハ被告ニ對シテモ之ヲ沒收スルハ言渡ヲ爲サルヘカラサルモノナルニ依リ第一審裁判所ハ被告ニ對シテ之レカ沒收ノ言渡ヲ爲シタルモノニシテ第一審判決ハ不可分のモノナレハ被告ニ於テハ沒收ノ言渡ニ對シテハ控訴スルノ意思ナカリシモノトスルモ被告ノ控訴ハ該判決ノ全部ニ及ヒ沒收ノ言渡シニ對シテモ之レ

實行正犯○數人共犯ニ對スル沒收ノ言渡○共犯者中一人ノ上訴

か覆審ヲ爲サシムルノ效アルモノトス故ニ原院カ沒收ノ點ニ付審理ヲ爲シ被告ニ對シテモ本件小
刀ノ沒收ヲ宣告スヘキモノト判示シタルハ不法ノ裁判ニアラス

●官吏侮辱事件

明治三十九年(乙)第一一三號
明治三十九年十二月十二日判決 (棄却)

判決要旨

一、休職官吏ハ依然官吏タル身分ヲ保有スルモノナレハ休職以
前ニ取扱ヒタル事務ニ關シ侮辱ヲ加ヘタル所爲ハ官吏侮辱
罪ヲ構成ス

一、官廳ノ所管事項ニ係ル回答ノ旨趣ヲ證據トスルハ法律ノ禁
スル所ニアラス而シテ其ノ回答カ書面ニ依ルト將タ電話ニ
依ルトハ之ヲ區別スルノ要ナシ

第一審 横濱地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 夏井榮元

辯護人

中村六郎
安竹松
花井卓
高木益太郎

右官吏侮辱事件ニ付明治三十九年十月二十日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ハ

上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

辯護人中村六郎上告趣意擴張書第一點ハ原院ハ本案官吏侮辱事實ヲ神奈川縣技手今村房次郎同屬
青木茂同技手伊藤俊治三人ニ對シ三罪ヲ組成スルモノナリトセリ而シテ今村房次郎ハ三十七年五
月七日休職ヲ命セラレタル事實ヲ認メ來レリ今其レ休職者ニ對スル官吏侮辱ノ罪ヲ構成スヘキモ
ノニ非サルコトハ論ナキナリ即チ刑法第二編第三章第二節ハ官吏ノ職務ヲ妨害スル罪ト題シ同第
百四十一條第一項ハ其目前ノ侮辱第二項ハ其以外ニ依レル侮辱ヲ規定シタルモノナレトモ二者
何レモ職務ノ執行ニ障礙ヲ與ヘントスルモノヲ防止スル爲メノ制裁ニ外ナラス然ルニ休職官吏ハ
如何ナル方面ニ向テ職務ヲ執行セントスル乎蓋シ其職ニアラサルモノカ其職務ノ執行力不能ナル
ト同時ニ之ヲ妨害シ若クハ侮辱スルモ亦不能ナルハ自然ノ數ナリト信ス或ハ三十六年度ノ今村技
手ニ對スル侮辱罪ニシテ假令休職中ナレトモ既往ニ於ケル現職中ノ職務ニ對シ侮辱タル所爲ヲ制
裁セントスルノ謂ナランカ果シテ然ラハ其職ヲ免セラレテモ換言スレハ其職ヲ免セラレ一己人ノ
地位ニ居ルモ尙ホ既往ノ資格ヨリ生スル侮辱罪ヲ過去ノ今日論セサルヲ得サルカ如キ不當ニ陷ル
ニ立至ラン況ンヤ原判文前段ニ依レハ三十六年中縣屬今村某外二名云々ト認メタル事實ニ依レハ
其事項ハ既ニ舊惡ニ屬シ最早時効ニモ係リ居リテ如此經舊ノ事實ハ假令惡事ニシテ其官吏カ刑法
ニ觸ルト雖モ公訴ヲ起スヲ得サルト同時ニ此事項ヲ算シ以テ官吏ヲ侮辱スルモ亦罪トシ論スル
ヲ得サルヘシ若シ之レヲモ尙ホ罪トスルニ於テハ公訴ノ時効ヲ設ケラレタル趣旨ヲ沒却スルノミ
ナラス一面ニハ其三年ヲ經タル惡事醜行ハ社會ニ於テ罪ヲ審理セス遺忘シ去リタリト云ヒナカラ

休職官吏ニ對スル侮辱ノ官廳ノ回答ノ證據力

他ノ一面ニ於テハ遺忘セス其同一經舊事項ヲ摘發公布シタルヲ罪スルト云フカ如キ自家撞着背理ノ最モ甚タシキヲ執法上審理セラル、ニ至ルノ不當ヲ生スヘシ結局原判決ハ擬律ノ失當タルヲ免レサルナリト信スト云ヒ」辯護人安村竹松辯明書ハ第一點官吏侮辱罪ニ關スル刑法第四百一條ノ規定ニ依レハ官吏ノ職務ニ對シ云々侮辱シタルモノハ云々ト規定シ官吏タルコト職務ヲ有スル官吏タルコトノ二條件ヲ具備スル者ニアラサレハ同上犯罪ノ客體トナル能ハサルコト蓋シ明白ナリ何トナレハ同條官吏ノ職務ニ對シトノ規定ニ付キ其職務ノ二字ニ重キヲ置キ官吏侮辱罪ハ官吏ノ職務侮辱罪ナリトセンカ其極既ニ死亡シタル官吏ノ職務ヲ侮辱スルモ亦侮辱罪ナリト斷セサルヲ得サルニ至リ數百年前ノ官吏ノ職務ニ對スル侮辱罪ナルモノ生スルノ奇觀ヲ呈スルニ至ル如キハ決シテ同條所期ノ意ニアラス又同條官吏ノ職務ニ對シトノ規定ニ付キ其官吏ノ二字ニ重キヲ置キ現ニ職務ヲ有セサル官吏ニ對スルモ其官吏カ過去ニ有セシ職務ニ對シテ侮辱スルトキハ亦侮辱罪ヲ構成スト斷セサル可カラサルトナリテ或官吏カ轉々シテ數職ヲ經過セシ場合ノ如キ其數職前ノ職務ニ對スル侮辱罪ナルモノヲ見ルノ結果ヲ呈スルニ至ル之又決シテ同條所期ノ法意ニアラサルナリ抑モ官吏侮辱罪ヲ認メタル所以ノモノハ其侮辱者ヲ處罰シテ侮辱セラレタル官吏ノ職務執行ノ妨害ヲ除去セントスルニ在リ故ニ現職ニ在ル官吏ノ現職ニ對スル侮辱ニアラサレハ官吏侮辱罪ハ構成スヘキモノニアラス然ルニ原院判決ニ於テ既ニ明治三十七年五月七日休職トナリタル神奈川縣技師今村房次郎ニ對シ明治三十九年三月三日ヨリ同月十一日迄ノ間ニ爲シタル侮辱ヲ以テ尙ホ官吏侮辱罪ニ問擬シタルハ全ク罪トナラサル行爲ニ刑罰ヲ科シタル不法ノ判決ナリ

ト云ヒ」辯護人花井卓藏上告趣意擴張書ハ第一點官吏侮辱罪ノ構成ニハ官吏ノ職務ニ對シ侮辱スルコトヲ必要ノ條件ト爲ス而シテ休職官吏ハ官吏タルノ資格ヲ有スルコト勿論ナリト雖モ何等ノ職務ヲ帶フルモノニアラサルコト是レ又論ヲ俟タス本件被告カ侮辱シタリト認定シタル今村房次郎ハ休職官吏タルコト原判決事實認定中「神奈川縣休職技師今村房次郎」ト記載セル事跡ニ徴シテ明ラカナルノミナラス本件ノ起訴ハ明治三十九年三月二十日ニシテ今村技師ノ休職ヲ命セラレタルハ明治三十七年五月五日（橫濱地方裁判所書記吉野英俊ノ神奈川縣知事官房ニ照會シテ得タル回答ヲ錄取シタル書面）ナルコト記録ニ徴シテ明ラカナルハ今村房次郎ハ官吏侮辱罪ノ客體トナルヘキ資格ヲ有セサルコト寔ニ明白ナリト然ルニ同人ニ對スル官吏侮辱罪ヲ構成スルモノトシテ有罪ノ言渡シヲ爲シタル原判決ハ擬律錯誤ノ不法ニ在ルモノト信スト云フニ在レトモ○官吏ハ休職ニ因リテ直ニ其官職ヲ失フモノニ非スシテ只休職期間中職務ニ從事セサルニ過キス他日之レヲ行フコトアルヘキハ文官分限令第十一條乃至十三條ノ規定ニ依リテ自ラ明ラカナリ故ニ休職官吏ハ依然官吏タル身分ヲ有シ其官職上ノ待遇ヲ受クルモノニシテ侮辱罪ノ客體タルヲ得ルハ論ヲ俟タス隨テ休職官吏カ休職以前ニ取扱ヒタル事務ニ關シ刊行ノ文書ヲ以テ之ヲ侮辱スル所爲ハ官吏侮辱罪ヲ構成スルモノト謂ハサル可カラス原判決ハ即チ右ノ事實ヲ認定シ刑法第四百一條ヲ適用シタルモノナレハ所論ノ如キ不法アルコトナシ

辯護人高木益太郎上告辯明書ハ原判決ハ橫濱地方裁判所書記吉野英俊ノ神奈川縣知事官房ニ照會シテ得タル回答ヲ錄取シタル書面ヲ斷罪ノ資料ニ供シタリ右ハ思フニ記録第十九丁ノ書面ヲ指示

休職官吏ニ對スル侮辱○官廳ノ回答ノ證據力

スル者ナルヘキ乎然レトモ刑事訴訟法上公判ニ於テ第三者ノ供述ヲ以テ證據ト爲スヘキ場合ニハ一定ノ方式ニ依リテ蒐集シタルモノナルコトヲ必要トスルハ其第百十五條證人訊問ノ手續ヲ規定シアルニ徴シ明カナリトス左スレハ本件第一審裁判所ニ於テ電話ノ方法ヲ以テ第三者ノ供述ヲ錄取シタルハ法律ノ認メサル違法ノ措置ニシテ之ニ基ク書面ハ固ヨリ法律上ノ效力アルモノニ非ス然ラハ即チ原判決ハ其探證ニ違法アルモノナリト云フニ在レトモ○各官廳ノ所管事項ニ關スル回答ハ趣旨ヲ證據ニ供スルハ法律ノ禁スル所ニ非スシテ其回答ノ書面ニ依レルト電話ニ依レルトハ之ヲ區別スルノ理ナキヲ以テ原判決カ所論裁判所書記カ神奈川縣知事官房ノ回答ヲ錄取シタル書面ノ内容ヲ證據トシテ援用シタルハ不法ナリト謂フヲ得ス

●官吏抗拒事件

明治三十九年(レ)第一〇八二號
明治三十九年十一月二十六日官告 (破毀)

判決要旨

一、司法警察官カ現行犯事件ニ付キ假ニ豫審處分ヲ爲スニ際シ
醫士ヲシテ被害者ヲ診斷シ差出サシメタル診斷書ハ鑑定書
ナリ

一、司法警察官カ現行犯事件ニ付キ檢證調書ヲ作成シタルモ其

調書ニ作成者ノ契印ヲ缺キ無効トナルトキハ假處分ニ於ケル鑑定書モ亦無効ニ屬ス

第一審、横濱地方裁判所

第二審、東京控訴院

被告人

鈴木茂

外三名

辯護人 高木益太郎

右被告四名ニ對スル官吏抗拒被告事件ニ付明治三十年十月十一日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ各被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

被告四名辯護人高木益太郎上告辯明書ノ一ハ原判決ハ醫師岡信一ノ來栖均ニ對スル創傷診斷書ヲ採テ被告等ノ罪證ニ供用セラレタリ然ルニ今記録ヲ查スルニ其第七丁以下司法警察官ノ作リタル檢證調書ニ「明治三十九年三月三日正午巡查高橋喜六ハ官吏抗拒及ヒ毆打創傷事件ノ現行犯アリシコトヲ報告シタルニ依リ即時現場ニ出張シ云々檢證スルコト左ノ如シ」トアリテ則チ司法警察官カ現行犯ニ際シ豫審處分ヲ爲シタルモノナルコト明白ニシテ而シテ同調書ニ枚目裏ニ「來栖均ノ創傷箇數ハ醫師岡信一ニ診斷セシメタルニ別紙診斷書ノ通り」トアルニ徴スレハ原判決カ罪證トシテ引用シタル岡信一ノ創傷診斷書ナルモノハ司法警察官ノ豫審處分トシテ其鑑定ヲ命セラレタルニ基キ作成セラレタルモノナルコト疑ヲ容レサル所ナリ然ルニ右檢證調書ハ記録第八丁下第九丁トノ間ニ作成者ノ契印ヲ缺キ法律上無効ニ屬スルヲ以テ結局前示創傷診斷書ハ果シテ適法ノ

司法警察官ノ假豫審處分ニ於ケル診斷書ノ性質

手續ニ依リテ成立シタルモノナルヤ否ヤヲ確認シ難ク從テ其記載ハ適法ノ效力アルモノニアラス
即チ其探證ニ違法アルモノナリト云フニ在リ○依テ一件記録ヲ調査スルニ本件醫師岡信一ノ診斷
書ハ司法警察官カ搜查處分トシテ提出セシメタルモノニアラスシテ同官カ本件ニ付キ假ニ豫審處
分ヲ行フニ當リ其處分ノ一部トシテ岡醫師ニ被害者來栖均ノ創傷ノ鑑定ヲ命ジ提出セシメタルモ
ノナルコトハ警部代理巡查部長出窪國五郎ノ作成セル檢證調書ニ記載セル文詞ニ依リ明瞭ナリ然
ルニ右檢證調書ハ刑事訴訟法第二十條ノ規定ニ反シ其第三葉ト四葉トノ間(記録八下九丁ノ間)
ニ作成者ノ契印ヲ缺クヲ以テ無効ノ文書ニシテ從テ司法警察官ノ豫審處分ノ適法條件タル臨檢ノ
事實ヲ證スルモノナキニ歸スルカ故ニ其爲シタル豫審處分ハ不法ナルモノト云ハサル可カラズ右
ノ如ク司法警察官ノ豫審處分ノ不法ナル以上ハ其豫審手續ニ於テ成立セシ本件ノ診斷書ハ適法ノ
證據タルノ效力ナキモノトス然ルニ原院カ之ヲ採テ本件斷罪ノ資料ニ供シタルハ違法ナルヲ以テ
原判決ハ破毀ヲ免レサルモノトス

九

私印盜用私書偽造行使詐欺取財未遂事件

明治三十九年(レ)第一〇六九號
明治三十九年十一月二十七日宣告 (棄却)

判決要旨

一、兵役義務ヲ免ル、ノ目的ヲ以テナシタル假裝ノ縁組ハ縱令
之ヲ登録スルモ當事者間ニ縁組ヲ爲スノ眞意ナキヲ以テ無

效ナリトス

第一審 神戸地方裁判所姫路支部 第二審 大阪控訴院
被告人 村上 文吉 辯護人 高木益太郎
外三名

右私印盜用私書偽造行使詐欺取財未遂並ニ詐欺取財事件ニ付明治三十九年十月十二日大阪控訴院
カ言渡シタル判決ニ對シ被告共ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行
決スルコト左ノ如シ

辯護人高木益太郎上告辯明書第二ハ原判決理由ノ部ニ「宮田シカナルモノハ明治十六年中村上繁
太郎ヲ養子トシテ入籍シタルモ右ハ繁太郎カ兵役義務ヲ免カレントスル目的ニ出テタル雙方合意
ノ表面假裝ノ縁組ナリシニ由リ繁太郎ニ相續權ナク從テ宮田家ニハ事實上ノ相續人ハ未確定ナリ
シ處云々」ト判示セラル、モ縁組無効ノ事由ハ民法第八百五十一條ニ列記セラル、二箇ノ場合ニ
限ルモノナレハ假令兵役義務ヲ免ル、爲メノ縁組ナリシトスルモ其登録ヲ取消サ、ル以上ハ有效
ナル縁組トシテ存在シ從テ相續權ハ養子タルモノニ存スルハ疑ヒナキ所ナリ然ラハ則チ原判決カ
兵役義務ヲ免ル、爲メノ縁組ニシテ養子繁太郎ニ相續權ナシト判斷セルハ法律ニ違背シテ事實ヲ
認定シタル不法アルモノナリト云フニ在レトモ○原判決認定ノ如ク兵役義務ヲ免ル、ノ目的ニ出
テタル雙方合意ノ表面假裝ノ縁組ノ如キハ假令縁組ノ登録アルモ其目的ハ「ニ兵役義務ヲ免ル、
ニ在リテ當事者間ニ縁組ヲ爲スノ意思ナキコト分明ナレハ其縁組ハ民法第八百五十一條ノ一ニ依

縁組ノ無効

九

ハ無効ノモノナリトス故ニ原判決カ兵役義務ヲ免ル、爲メノ縁組ニシテ養子繁太郎ニ相續權ナシト判示シタルハ法律ニ違背シテ事實ヲ認定シタルモノニアラサルヲ以テ本論旨ハ上告ノ理由ナシ

●毆打創傷並附帶私訴事件

明治三十九年(九)第一一〇〇號
明治三十九年十二月三日宣告 (棄却)

判決要旨

一、毆打ノ所爲ヲ教唆シタル者ハ被教唆者ノ爲シタル毆打ノ結果ニ付キ一切ノ責ヲ負ハサルヘカラス從テ被教唆者カ人ヲ毆打シテ死ニ致シタルトキハ教唆者モ亦毆打致死ノ罪責ヲ負ハサル可ラス

第一審 大阪地方裁判所 第二審 大阪控訴院
公訴私訴上告人 中谷吉松 辯護人 高木益太郎
私訴被上告人 松田チヨ
右法定代理人 西田兼太郎

右毆打創傷被告事件及之ニ附帶スル私訴事件ニ付明治卅九年十月六日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタル依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決ス

ルコト左ノ如シ

上告第二點ハ原判決ノ認定シタル事實ニ依レハ被告吉松ハ原審相被告津田忠春外數名ヲ教唆シ同人等ヲシテ西田清太郎兄弟ヲ毆打スヘキ意思ヲ決セシメ遂ニ同人等ハ右清太郎實弟邦治郎ヲ毆打シテ即時ニ死ニ至ラシメタリト云フニ在リ之ニ依テ見レハ被告吉松ノ教唆ハ唯單純ナル毆打ヲ教唆シタルニ過キサレモノナルニ被教唆者タル忠春等數名ハ其範圍ヲ超越シテ被害者ヲ即死ニ致ス可キ毆打ヲ爲シタル事實ナレハ教唆者タル被告吉松ハ之カ爲メニ致死ノ結果ニ對シテマテ其責任ヲ負擔スヘキ謂アルコトナシ殊ニ判決認定ノ事實ノ如ク被告ハ本件毆打ヲ教唆スルニ至レルハ西田清太郎等ノ爲メニ膝下ニ擦過ノ微傷ヲ負ハセラレタルヲ憤リタルニ出テタルモノニシテ之ニ依テモ被告吉松ノ認識セル毆打教唆ノ程度ハ寔ニ之ヲ想見スルニ難カラス原判決カ被告ノ所爲ヲ以テ刑法第二百九十九條ニ問擬シタルハ法則違背ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○縱シ單純ニ人ヲ毆打スルコトヲ教唆シタルニ止マリ特ニ之ヲ死ニ致ヘキコトヲ教唆シタル事實ナシトスルモ毆打ハ以テ人ヲ死ニ致スノ結果ヲ生シ得ヘキ行爲ナレハ毆打ノ所爲ヲ教唆スルモノハ被教唆者ノ行フヘキ毆打ニ因リテ生シタル結果ニ付一切ノ責ヲ負フヘキモノナルニ依リ被教唆者ニシテ其毆打ノ爲メ被害者ヲ死ニ致シタルニ於テハ教唆者モ亦其ニ毆打致死ノ罪責ヲ免レサルヤ多辯ヲ要セサルヲ以テ原院カ本件被告ノ所爲ニ對シ刑法第二百九十九條ヲ適用處斷シタルハ相當ニシテ本論旨ハ其理由ナシ

毆打ヲ教唆シタル者ノ責任

監守盜私印盜用私書偽造行使委託金費消事件

明治三十九年(九)第一二五九號
明治四十年一月二十二日宣告

(棄却)

判決要旨

一、受託者ニアラサル者カ受託者ト共謀シテ委託ニ係ル金品ヲ費消シ又ハ騙取シタルハ委託金費消若クハ騙取ノ罪ヲ構成ス

一、官吏公吏カ詐欺ノ手段ヲ以テ其職務上監守スル金品ヲ騙取シタル所爲ハ監守盜罪ヲ構成ス

第一審

大阪地方裁判所

第二審

大阪控訴院

被告人

井上正陽

外二名

辯護人

高木益太郎
大島恒二郎
阿松正也
平松市藏

右監守盜私印盜用私書偽造行使委託金費消被告事件ニ付明治三十九年十一月十二日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告三名ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

被告季雄上告趣旨書ハ一、原判決ニ於テ本件ノ召集諸費前渡ノ現金ハ被告井上正陽監視ノ下ニ於

判例彙報第八卷刑事判例

テ被告飯田熊藏カ保管スルノ事實ヲ認メ置キナカラ一日一刻タリトモ其金ヲ取扱ヒタル事實ナキ被告季雄ニ委託ノ金ヲ騙取シタリト認メラレタルハ事實誤認ノ判決ナリト云ヒ二、假リニ原院判決ノ如ク被告季雄ニ於テ被告井上正陽飯田熊藏ト共謀シテ井上正陽監視ノ下ニ於テ會計課長タル飯田熊藏カ保管スル金員ヲ騙取シタリトスルモ被告季雄ニ於テハ保管及委託ノ事實ナキモノナレハ失當ナリト云フニ在レトモ○委託物ノ費消若クハ騙取罪ハ委託ニ係ル金品ヲ費消若クハ騙取スルニ因テ成立スル犯罪ナルヲ以テ受託者以外ノ者ト雖モ苟モ受託者ト共謀シテ右費消若クハ騙取ノ行為ヲ遂ケタルトキハ委託物費消若クハ騙取ノ犯罪アリト謂ハサル可カラス原判決ノ認定ニ依レハ季雄ハ相被告井上正陽飯田熊藏ト共謀シテ正陽監視ノ下ニ熊藏ノ保管セル本件金員ヲ騙取シタルモノナレハ原判決カ被告季雄ノ所爲ヲ刑法第三百九十五條後段ニ問擬シタルハ相當ニシテ本論旨ハ理由ナシ

被告正陽辯護人岡崎正也上告理由第三點ハ假リニ右ノ瑕瑾ナシトスルモ素ト監守盜罪ハ其實質ニ於テ竊盜若クハ委託物費消ノ行為ナルコトハ從來御院判例ノ示サル、所ニシテ從テ詐欺取財ノ行為ヲ包含セサルモノナルニ原判決カ前示ノ如ク被告等カ本件ノ金員ヲ騙取シ其手ニ收受シタル事實ヲ認メナカラ刑法第二百八十九條第一項ノ監守盜罪ニ問擬セルハ即チ擬律ノ錯誤ニ陥リタル違法アルモノト思考スト云フニ在レトモ○監守盜罪ハ官吏公吏カ其職務上監守スル金品ヲ竊取若クハ横領スルニ因リテ成立スルモノニシテ官吏公吏カ詐欺手段ヲ以テ職務上監守スル金品ヲ騙取

委託物費消罪ノ共犯

スルハ私擅ニ之ヲ横領スル所爲ニ加フルニ詐欺ノ所爲ヲ以テスルモノナレハ其監守盜罪ニ屬スルハ勿論ナリ

● 贓物收受事件

明治三十九年(レ)第一〇六三號
明治三十九年十一月二十日宣告

(棄却)

判決要旨

一、寄託者カ寄託物ノ返還ヲ受ケタル後其包装中ニ贓金ノ存在スルコトヲ發見シテ之ヲ自己ノ有ト爲シタル所爲ハ贓物收受罪ヲ構成ス

第一審 甲府地方裁判所

第二審 東京控訴院

被告人・中橋佐忠

辯護人 船曳濱治郎

右贓物收受被告事件ニ付明治三十九年十月二日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
被告ノ上告趣旨書ハ原判決ハ擬律錯誤ノ不法アリ贓物收受罪ヲ構成スルニハ贓物タルノ情ヲ知リテ是レヲ收取セサルヘカラス故ニ收受ニ當リテ贓物タルヲ知ラサルトキハ本罪ヲ構成セス然ルニ本件被告事實ハ和田茶店ヨリ贓物ヲ收受シタルトキハ單ニ自己カ買受ケタル茶ノ在中セルヲ知ルノミニシテ毫モ贓物ノアルコトヲ知ラサルモノナレハ之ヲ受領シタリトテ何等犯罪ヲ構成セサル

判例彙報第八卷刑事判例

ニ係ラス贓物收受罪ニ問擬セラレタルハ擬律ニ錯誤アリト云ハサルヘカラスト云フニ在リ辯護人船曳濱治郎上告趣旨擴張書ノ第一點ハ贓物收受罪ヲ構成スルニハ贓物タルノ情ヲ知リテ之レヲ收受セサルヘカラス而シテ情ヲ知ルハ收受ノ際ナルカ又ハ其以前ナラサルヘカラス故ニ收受ノ以後ニ於テ贓物タルノ情ヲ知ルコトアルモ本罪ヲ構成セス又收受トハ有形的所持ノ移轉アルコトニシテ單ニ意思ノ轉換アルノミニテハ收受ノ所爲アリト云フコトヲ得ス依テ本件被告ノ所爲ヲ按スルニ原判決事實摘示ニヨレハ前略「同夜同店ニ至リ該風呂敷ヲ受取り翌日其寓所同市櫻町豊田屋方ニ於テ風呂敷包中ニ右ノ贓金アルコトヲ發見シ」云々トアリテ和田茶店ニ於テ受領シタルトキハ單ニ風呂敷包中ニ茶ノ存在スルコトヲ知ルノミニシテ毫モ贓物ノ存在スルコトノ認識ナキハ其翌日ニ至リ住宅ニ於テ發見シトアリ並ニ第一審公判始末書中被告佐忠ノ供述トシテ翌日辨當ヲ入レルノテ開イテ始メテ百圓這入ツテアツタコトカ分ツタノテ云々トアルニ徴シテ明瞭ナリ果シテ然ラハ本件ニ於テ有形的所持ノ移轉アリシハ和田茶店ニ於テ行ハレ併モ其際ハ贓物タルノ認識ナク自宅ニ於テ發見シタル際ハ既ニ收受ノアリシノ後ニシテ毫モ贓物タルノ情ヲ知リテ之レヲ收受シタルモノニアラサレハ他ノ犯罪ヲ構成スルコトアルハ格別贓物收受罪ニ問擬セラレタル原判決ハ擬律錯誤ノ不法アルモノナリト云フニ在リ○按スルニ原判決ニハ「竹内一郎カ(中略)逃亡ノ途中豫テ被告ノ依頼ニヨリ同市柳町四丁目和田茶店ニ於テ買置キタル茶ヲ其儘同店ニ預置キタル後同店ニ立テヨリ右贓金ノ中百圓ヲ茶ヲ入レタル風呂敷包中ニ差入レ被告ニ渡スヘキコトヲ託シ置キタリ被告ハ同夜同店ニ至リ該風呂敷包ヲ受取り翌日其寓所(中略)ニ於テ風呂敷包中ニ右ノ贓金

委託物費消罪ノ共犯

アルコトヲ發見シ一郎カ約ヲ踐ミ拐帶セル賍金ヲ貸與スルノ情ヲ知リテ之レヲ收受シタリトアリテ被告カ八月十五日夜和田茶店ヨリ風呂敷包ヲ受取リタルハ豫テ同店ニ預ケ置キタル茶ノ入り居ルモノト信シ持チ歸リタルモノニシテ本件賍金ノ其包中ニ存在スル事實ハ毫モ之レヲ知ラザリシモノナレハ被告ハ未タ之レヲ收受シタルモノニアラサルヲ以テ賍物收受罪ノ未タ成立セサルヤ言ヲ俟タス然レトモ被告ハ翌日其寓所ニ於テ右包中ニ賍金ノ存在スルコトヲ發見シテ之レヲ自己ノ有ト爲シタルモノナレハ收受ノ事實ハ其瞬間ニ發生スルヲ以テ賍物收受罪ハ此ニ完成スルモノト論セサルヲ得ス故ニ原判決ハ相當ニシテ本論旨ハ上告ノ理由ト爲ラス

公私印公文書約束手形偽造行使詐欺取財事件 明治三十九年(レ)第一二四〇號 (棄却)

判決要旨

一、町村長ハ一般ノ慣例上印鑑證明書ヲ付與スルノ權限ヲ有ス
從テ該證明書ハ公吏ノ公證シタル文書ナリ

第一審 廣島地方裁判所 第二審 大阪控訴院
被告人 小川幸治

右公私印公文書約束手形偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治三十九年十月十九日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ

履行判決スルコト左ノ如シ

上告第二點ハ原院ハ印鑑證明書ヲ以テ公文書ナリト判決セラレタルモ印鑑證明ナルモノハ法律上村長カ職務トシテ作成スヘキ性質ノモノニアラサルコトハ町村制ハ勿論其他何等ノ規定ナシ故ニ證明書偽造ノ點ヲ公文書トナシ偽造罪ニ問擬セラレタルハ所謂擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ町村長カ本件ノ如キ印鑑證明書ヲ付與スルコトハ其職務ナリトシテ規定セル法律ノ明文ナシト雖モ一般ノ慣例トシテ其職務ニ屬スルモノト認メラレタルモノナレハ本件ノ證明書ハ公吏ノ公證シタル文書ノ性質ヲ有スルモノナルヲ以テ右被告ノ所爲ニ原院カ明治二十三年法律第百號刑法第二百四條ヲ適用セシハ正當ニシテ擬律ノ錯誤ニアラス

私書偽造行使事件 明治三十九年(レ)第一〇五七號 (棄却)

判決要旨

一、戶籍法第二百十五條ハ戶籍ニ付キ届出若クハ申請ヲ爲スノ權義アル者カ自己ノ名義ヲ以テ虚偽ノ事實ヲ構へ届出若クハ申請ヲ爲シタル所爲ニ對シ特ニ刑罰ノ制裁ヲ付スルノ旨趣ニ出テタルモノトス從テ同條ノ規定ハ刑法第二百十條ノ

戶籍法第二百十五條ノ旨趣○町村長ノ印鑑證明

除外例ニ非ス

(參照)

自己又ハ他人ノ利ヲ圖リ若クハ他人ヲ害スル目的ヲ以テ身分又ハ戶籍ニ關シ詐偽ノ届出若クハ申請ヲ爲シタル者ハ十一日以上四年以下ノ重禁錮又ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處セラル(戶籍法第二百十五條)

實質貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑法第二百一十條第二項)

第一審 福岡地方裁判所久留米支部 第二審 廣島控訴院

被告人 山口 敬介 外一名

右私書偽造行使被告事件ニ付明治三十九年十月十日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告等ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ被告兩名上告趣意書ハ自己又ハ他人ノ利ヲ圖ル目的ヲ以テ身分又ハ戶籍ニ關シ詐欺ノ届出ヲ爲シタルモノハ凡テ戶籍法第二百十五條ヲ適用處罰スヘキモノニシテ其届書ノ内容(無形)ノ偽造ナルト外形(有形)ノ偽造ナルトヲ區別セサルコトハ法文自體ニ徴シテ明ラカナリ學者或ハ詐欺ノ文書トハ唯タ内容ヲ偽造シタル文書ノミヲ指稱スルモノナリト論スルモ是レ詐欺文字ヲ曲解セリヨリ生スル謬說ニシテ採ルニ足ラス何トナレハ詐欺トハ虛偽ノ事實ヲ表白シテ他人ノ錯誤ヲ誘起シ又ハ之ヲ持續セシムルモノナルヲ以テ苟モ文書ニシテ眞實ニ反スル表示アルトキハ其名義ノ詐欺ナルト内容ノ詐欺ナルト敢テ問フ所ニ非サルヲ以テナリ而シテ本件ニ付原判決ノ認定シタル所ニ依レハ被告兩名ハ柴田文三郎跡ノ財産處分相續人選定ノ事件ニ干與スヘキ手段ニ供シテ不正

ニ利スル所アラシコトヲ相謀リ云々中村ツクヨリ鳥飼村戶籍吏ニ宛テタル入籍届一通ノ云々偽造ヲ完成シ云々ヲ鳥飼村戶籍役場ニ提出行使シタルモノナリトノ事實ナルヲ以テ之ニ對シテ戶籍法第二百十五條ヲ適用處罰スヘキモノナリ然ルニ原判決カ事茲ニ出テサリシハ擬律錯誤ノ不法アルモノナリト云フニ在リ○依テ按スルニ人ノ身分又ハ戶籍ニ關スル届出並ニ申請ハ公法上ノ權利義務ニ重大ナル關係ヲ有スルハ勿論私法上ノ權利義務ニモ亦重大ナル關係ヲ有スルモノナルヲ以テ其届出書又ハ申請書ナルモノハ刑法第二百一十條第一項ニ謂フ權利義務ニ關スル證書ナルコト勿論ナレハ刑法發布當時ニ於テハ該證書ヲ偽造スルノ所爲ハ同條ノ規定ニ基キ之ヲ處斷スヘキモノナリシコトハ毫モ疑ナキ所トス故ニ其後ノ發布ニ係ル戶籍法第二百十五條ニ基キ該證書偽造ノ所爲ヲ處斷スヘキモノトスルニハ制法者ニ於テ刑法第二百一十條ノ規定ヲ戶籍法第二百十五條ノ規定ニ因リ變更シ該證書偽造ノ所爲ヲ刑法第二百一十條中ヨリ割キ之ヲ戶籍法第二百十五條ノ支配ニ移シタルモノト爲サハルヘカラス然ルニ之ヲ刑法第二百一十條ノ規定ヨリ除外スルノ必要毫モ存セサルノミナラス若シ戶籍法制定ノ當時制法者ニ於テ其意思ヲ有シタルモノトセハ戶籍法第二百十五條ニ明ラカニ其意思ヲ表彰スルノ文詞ヲ存セシムヘキモノナルニ同條ニハ身分又ハ戶籍ニ關シ詐欺ノ届出若クハ申請ヲ爲シタル者云々トアリテ單ニ其届出若クハ申請事項ニ關シ虛偽ノ事實ヲ構ヘタル場合ノミヲ限定シ其届出書若クハ申請書ヲ偽造シタル場合ヲ包含セシメサル如キ文詞アルニ止マルヨリ考フルモ同條ヲ以テ刑法第二百一十條ニ一ノ除外例ヲ設ケタルモノト爲スヲ得ス且戶籍法第二百十五條ノ規定ヲ設ケタル所以ノモノハ本院明治卅七年(レ)第一三三四號私印盜用私書偽

戶籍法第二百十五條ノ旨趣

造行使及恐喝取財事件ノ判決ニ於テ説示セシ如ク身分又ハ戸籍ニ關スル届出若ハ申請ヲ爲ス權利義務アル者ニ於テ自己ノ名義ヲ以テ虚偽ノ事實ヲ構ヘ届出若クハ申請ヲ爲シタル所爲ニ對シテ刑法上刑罰ノ制裁ヲ設ケアラサルヲ以テ同條ニ於テ之ヲ補足シ其所爲ニ對シテ特ニ刑罰ノ制裁ヲ付シ以テ各人ノ權利義務ニ重大ノ關係ヲ有スル身分等ニ關スル登記ノ正眞ヲ確保トスルニ在ルモノナレハ同條ニ因リ刑法第二百十條ノ規定ヲ變更セントスルハ趣意ニアラサリシコト益以テ明ナリトス然ラハ即チ原院カ上告人等ハ擅ニ中村ツクヨリ鳥飼村戸籍吏ニ宛タル入籍届一通ヲ認メ中村政太郎柴田文三等ニ於テ之ニ同意シタル旨及ヒ其氏名ヲ記入シ右兩名及ヒツク名下ニハ孰レモ有合印ヲ押捺シ之ヲ鳥飼村戸籍役場ニ提出シタル事實ヲ認メ刑法第二百十條第一項同法第二百十二條ヲ適用處斷シタルハ相當ニシテ本上告趣意書ハ理由ナシ

●私印盜用私書偽造行使事件

明治三十九年(レ)第一〇四九號
明治三十九年十一月二十日宣告

(棄却)

判決要旨

一、犯人カ金圓借用證書ノ紙面ト之ニ貼用セル印紙トニ懸ケテ擅ニ債務者ノ實印ヲ押捺シ之ヲ行使シタル爲所ハ私印盜用罪ヲ構成ス

第一審

横濱地方裁判所

第二審

東京控訴院

被告人

杉澤達藏
外一名

辯護人

岡村輝彦
八郎

右兩名ニ對スル私印盜用私書偽造行使被告事件ニ付明治三十九年十月九日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告兩名ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

辯護人岡村輝彦鈴木八郎上告趣旨辯明書ノ第三點ハ原院ノ認ムル所ニ依レハ百圓ノ證書中一金百圓也トアル文字ヲ削リ更ニ被告勝藏ニ於テ一金七百五十圓也ト文字ヲ之ニ記入シ且ツ之ニ印紙ヲ捺シ以テ被告兩名カ私印盜用罪ヲ犯シタリトアリ而シテ該證書中原田林太郎名下ノ印影ハ署名人ニ於テ自ラ之ヲ押捺シタルコトモ亦原院ノ認ムル所ナリ(原判決事實摘示林太郎ハ證書ノ冒頭ニ一金百圓也ノ五字及ヒ其末尾ニ自己ノ氏名ヲ筆記シ實印ヲ押捺シタル上之ヲ被告達藏ニ交付シ置キタリトノ記載)然ラハ該犯罪ト認ムヘキハ單ニ五十錢印紙ノ上ニ押捺シタル原田林太郎ノ印影ニ過キス抑モ私印盜用罪ノ要素トスヘキハ捺捺印影ノ有無カ偽造證書ノ效用ヲ左右スヘキ時ニ始メテ犯罪ハ成スヘキモノニシテ其印影ノ有無カ偽造證書ノ效用ニ對シテ些ノ影響ナキ場合ニ於テハ私印盜用罪ハ決シテ成立セサルモノナリト信ス故ニ署名人名下ニ印影ヲ押捺シタル場合ハ或ハ該犯罪成立スヘキモノナリトスルモ單ニ印紙ノ上ニ押捺シタルノミニテハ該犯罪ハ成立スヘカラス何トナレハ印紙上ノ印影ノ有無ハ證書ニ些ノ影響ヲ與ヘス從テ原院ニ於テハ被告兩名ノ印影盜用罪ニ對シテ免訴ノ判決ヲ爲スヘキニ事茲ニ出テス刑法第二百八條一項二項ヲ適用シタルハ不當ノ判決ナリト思料スト云フニ在リ○依テ按スルニ金圓借用證ニハ記載ノ金高ニ應シ法定ノ印紙

私印盜罪ノ構成

ラ貼用シ債務者ニ於テ證書ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケ消印ヲ爲シ又ハ署名ヲ以テ之ヲ消スヘキモノナルコトハ明治三十二年法律第五十四號印紙税法ノ命スル手續ナレハ金圓借用證書ハ如上ノ手續ヲ完了シ始メテ法律上完備スルモノト云フヘシ而シテ原判決ニ依リハ上告人カ豫第八號證ノ紙面ト之ニ貼用セル五十錢ノ印紙トニカケ原田林太郎ノ承諾ヲ經ス其實印ヲ押捺シタルハ全ク同證ヲ完備セシメンカ爲メナリシモノナレハ右印影ノ有無ハ證書ノ效用ニ些ノ影響ナキモノト云フヲ得ス從テ其押捺後同證書ヲ行使シタル以上ハ其所爲カ私印盗用罪ヲ構成スヘキコト勿論ナルヲ以テ本上告趣旨ハ理由ナシ

詐欺取財事件

明治三十九年(レ)第一〇七八號
明治三十九年十一月二十六日宣告

(棄却)

判決要旨

一、裁判所カ他ノ證據ヨリ得タル心證ニ依リ證人供述ノ誤謬ヲ認メ其供述ノ旨趣ヲ訂正シタル結果ニ付キ心證ヲ作爲スルハ不法ニ非ス

第一審 東京地方裁判所

第二審 宮城控訴院

被告人 渡邊覺太郎

辯護人 宮崎三之助
鹽澤總明

右詐欺取財被告事件ニ付明治三十九年十月十三日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
辯護人宮崎三之助上告趣意辯明書第一點ハ原判決ハ被告カ森本恒次郎豆生田初五郎ト共謀ノ上名ヲ賣買ニ籍リ手附金トシテ金一百五十圓ヲ騙取シタリトノ事實ヲ認メ之カ證據トシテ笹原文七豫審第一回調書中「恒次郎ヨリ自分ハ三百圓出スニ付キ二百圓出金シ吳レトノ依頼ニ因リ其後十七日森本ト共ニ調布村ニ至リ自分ハ森本ヨリ取受リタル三百圓ノ小切手ト現金二百圓トヲ覺太郎ニ渡シテ約定ヲ爲シタル旨」ノ供述ヲ援用スルニ方リ右三百圓ナル文字ノ下ニ括弧ヲ付シ「三百五十圓ノ誤ト認ム以下同シ」トノ文詞ヲ記入シ又二百圓ナル文字ノ下ニモ同様括弧ヲ付シ「百五十圓ノ誤ト認ム以下同シ」トノ文詞ヲ挿入シ以テ文七ヨリ現金百五十圓ヲ騙取シタル事實ヲ認定セラレタリ蓋シ此「誤」トハ所謂調書ノ誤記ヲ意味セラレタルモノナルヘシト雖モ其然ラサルコト即チ同人ハ徹頭徹尾小切手ノ三百圓ナルコト及現金ノ二百圓ナルコトヲ主張セシ事實ハ同人代人大澤真吉ノ告訴狀ノ第三項第四項同人豫審第一回ノ第二十回問答ニ於テ明カニ之ヲ陳述スルノミナラス記録第五百八十六丁以下同第五百九十二丁ノ示スカ如ク同人カ更ニ第一審ニ於テ證人トシテ訊問ヲ受クルニ方リ數回其事實ヲ供述シ殊ニ五百九十二丁ニ左ノ問答アルニ依リ一層明白ナリトス問其手金ノ五百圓ト云フノハ森本ノ芝銀行ノ三百五十圓ト云フ小切手ト其方ノ現金百五十圓トヲ渡シタカ答私ハ二百圓出シタノテス問其方ノ二百圓ハ如何云フ札ヲ渡シタカ答十圓札テス問其方ハ現金百五十圓ト小切手トヲ渡シタテナイカ答違ヒマス然ルニ原院ハ右豫審第一回ノ申立ヲ誤記

證人供述ノ誤謬訂正

ト妄斷シ被告ヲ金百五十圓ヲ驅取シタル事實アリト認定シタルハ乃チ證據ニ違反シテ事實ヲ確定シタル不法アルモノト云フニ在レトモ○原判文ニ(二百五十圓ノ誤ト認ム)百五十圓ノ誤ト認ムトアルハ記載ノ誤謬ヲ謂フニアラスシテ供述ノ誤謬ヲ意味シ供述者ハ三百圓ノ手形ト二百圓ノ現金ナル旨供述スルモ原院ハ其供述ハ誤謬ニシテ實際ハ三百五十圓ノ手形ト百五十圓ノ現金ナリト認ムル旨ヲ特ニ附記シタルモノナリ而シテ原院カ他ノ證據ヨリ得タル心證ニ基キ證人供述ノ誤謬ヲ認メ其供述趣旨ヲ訂正シタル結果ニ付キ心證ヲ作為スルハ毫モ妨ケナキヲ以テ上告論旨ハ理由ナシ

●委託金費消事件

明治四十年(才)第六三號
明治四十年二月十九日判決

(破毀)

判決要旨

一、豫審終結決定ハ抗告ノ期間内又タ抗告アリタルトキハ其ノ場合ノ如何ヲ不問之レニ對シ決定アルマテ其ノ執行ヲ停止ス

說明

豫審決定ノ確定時期 豫審決定ニ對シテハ法律ハ不服ヲ中立ルコトヲ得ル場合ト然ラサル場合トヲ認ムルカ故ニ從テ此ノ決定ノ確定時期モ亦タ同一ナラス
不服ノ中立(即チ)抗告ヲ許サル場合ハ豫審決定ハ言渡ト同時ニ確定ス
不服ノ申立ヲ許ス場合ハ自然抗告期間チルモノ存スルカ故ニ假令抗告ノ申立ヲ爲サルモ此ノ期間内ハ確定スルコトナシ期間ヲ經過スルニ及ンテ直チニ確定ス
若シ期間内不服ヲ申立テタル時ハ之レニ對シ決定アルマテ確定セス決定ノ言渡

豫審終結決定ノ確定時期

ニ依リ始メテ確定スルモノトス

豫審決定ノ確定時期ハ法文ノ解釋上以上ノ如クナラサル可ラサルニ反シ大審院ハ之レト異ナリタル見解ヲ包持セラレ遂ニ本判決ヲ見ルニ至リタルハ吾人ノ遺憾トスル所ナリ大審院判決ノ要旨ニ曰ク

被告事件ヲ輕罪公判ニ付スル豫審終結決定ニ對シテハ絶對ニ抗告ヲ評サハルハ刑事訴訟法ノ規定ニ依リテ毫モ疑ナク隨テ右決定ノ即時ニ確定スルハ亦タ論ヲ待タスト雖モ同法第二百九十九條ノ規定ニ依レハ抗告裁判所ハ法律上許スヘカラサル抗告又ハ期日經過後ノ抗告ヲ受ケタル場合ニ於テモ尙ホ之ヲ形式上抗告トシテ取扱ヒ相當ノ裁判ヲ爲サハルヘカラス蓋シ抗告ノ適法ナルヤ否ヤハ一ニ抗告裁判所ノ判斷ニ待ツヘキモノナルヲ以テ苟モ抗告タル形式ヲ具備シテ提起セラレタルモノニ付テハ抗告裁判所ハ其ノ實質上不適法ナルノ故ヲ以テ全然之ヲ無視スルヲ得スシテ必ス之レニ對スル相當ノ裁判ヲ爲サハルヲ得サルナリ然ラハ則チ法律上許ス可ラサル抗告モ亦一ノ抗告タルヲ失ハサルモノト論結セサルヲ得ス而シテ民法第七十四條ハ況ク豫審終結ノ決定ハ抗告ノ期間又ハ抗告アリタルトキハ其ノ決定アルマテ執行ヲ停止スト規定

スルカ故ニ該法文ノ解釋上許スヘカラサル抗告又ハ期間經過後ノ抗告ヲ除外スルヲ得ス豫審決定ニ對シテ抗告ヲ許ス場合ニ於テハ其ノ期間内其ノ他一般ニ抗告アリタルトキハ其ノ適法ナルト否トヲ問ハス之レニ對スル裁判アルマテ執行ヲ停止セシムルノ律意ト解スルヲ相當トスト云フニ在リ

然レトモ此ノ議論ハ到底我カ刑事訴訟法上ノ正論トナスニ足ラサルモノト信ス乞フ左ニ其ノ然ル所以ヲ論明スヘシ

豫審決定中被告事件ヲ輕罪公判ニ付スルノ決定ニ對シテハ絶對ニ不服ヲ申立ル餘地存スルナク即チ此ノ決定ハ論理上決定ノ言渡ト同時ニ確定スヘキハ獨リ明文ノ解釋上然ルノミナラス大審院モ亦之ヲ認ム已ニ決定ノ言渡ト同時ニ確定カヲ生スルモノトセハ爾後之レニ對シテ抗告ノ提起アリタリトスルモ已ニ確定シタル裁判ノ效力ハ之レカ爲メニ破壊セラル、モノニアラス然ルニ大審院ハ以上ノ豫審決定ニ付キ決定言渡ト同時ニ確定スルモノナリトノ前提ヲ置キナカラ抗告ノ申立アルトキハ其ノ決定アルマテハ確定セストノ論旨ヲ探レルニ至テハ沒理ノ尤モ甚シキモノニシテ吾人ノ服スル能ハサル第一點ナリ

豫審終結決定ノ確定時期

止スルニ在リ一旦確定シタル裁判ノ確定力ヲ破壊スルモノニアラサルハ是レ上
訴ニ關スル一般ノ效力トシテ我カ刑事訴訟法上動ス可ラサル理論ナリトス然ル
ニ若シ大審院ノ説ノ如ク一旦確定シタル豫審決定カ抗告ノ申立ニ依リテ其ノ確
定以前ノ状態ニ復スルモノトセハ上訴ノ效力ハ裁判ノ確定ヲ停止スルニアラス
シテ已ニ確定シタル裁判ノ確定力ヲ破壊スルモノナリト論結セサルヲ得サルニ
至ルヘシ是レ吾人ノ服スル能ハサル第二點ナリ

力ヲ無視スル事ヲ得ス裁判ノ確定力問題ト抗告ニ對スル裁判所ノ處分問題トハ
全ク別個ノ關係ヲ有スルモノタルヲ知ラサル可ラス矣若シ大審院所説ノ如ク
抗告ノ申立カ形式上其要件ヲ具備スル時ハ抗告裁判所ハ之ニ對シ相當ノ裁判ヲ
爲サ、ル可ラサルノ故ヲ以テ一旦確定シタル裁判ヲ更ニ未確定ノ地位ニ置カサ
ル可ラサルモノトセシカ夫レノ控訴又ハ上告期間ヲ經過シ已ニ確定シタル事件
ニ對シテモ亦相當ノ裁判ヲ爲サ、ル可ラサルノ結果已ニ確定シタル裁判ノ確
定力ハ此ノ期間經過後ノ形式的上訴ノ爲メニ輒ク破壊セラル、ニ至ラン是レ豈
我カ刑事訴訟法上ノ法理ナランヤ大審院ノ説明ハ茲ニ至テ益々其ノ誤謬ヲ暴露
セルモノニシテ其ノ立論ノ幼稚ナル實ニ驚クニ堪ヘタリ

豫審終結決定ノ確定時期

止スルニ在リ一旦確定シタル裁判ノ確定力ヲ破壊スルモノニアラサルハ是レ上
訴ニ關スル一般ノ效力トシテ我カ刑事訴訟法上動ス可ラサル理論ナリトス然ル
ニ若シ大審院ノ説ノ如ク一旦確定シタル豫審決定カ抗告ノ申立ニ依リテ其ノ確
定以前ノ状態ニ復スルモノトセハ上訴ノ效力ハ裁判ノ確定ヲ停止スルニアラ
シテ已ニ確定シタル裁判ノ確定力ヲ破壊スルモノナリト論結セサルヲ得サルニ
至ルヘシ是レ吾人ノ服スル能ハサル第二點ナリ

大審院ハ又々法律上許ス可ラサル抗告又ハ期間經過後ノ抗告ヲ受ケタルトキモ
尙之ヲ抗告トシテ取扱ヒ相當ノ裁判ヲ爲サ、ル可ラサル旨ヲ主張シ更ニ進ンテ
抗告ノ適法ナルヤ否ヤハ一ニ抗告裁判所ノ判斷ニ待ツヘキモノナルヲ以テ苟モ
適法ナルノ故ヲ以テ全然之ヲ無視スルヲ得スシテ必スヤ之ニ對スル相當ノ裁判
ヲ爲サ、ル可ラサルヲ言明シ之ヲ以テ自説ヲ維持セントカムレトモ此ノ論旨ハ
畢竟抗告ニ對スル抗告裁判所ノ職務ト裁判ノ確定力トヲ混同セル曲説ニ外ナラ
ス勿論大審院説明ノ如ク一旦抗告アリタルトキハ其ノ適不適ヲ不論抗告裁判所
ハ必スヤ之レニ對シ相當ノ裁判ヲ下サ、ルヲ得ス然レトモ斯ハ是レ抗告ニ對ス
ル裁判所ノ職務ニ對シ相當ノ裁判ヲ下サ、ルヲ得ス然レトモ斯ハ是レ抗告ニ對ス

力ヲ無視スル事ヲ得ス裁判ノ確定力問題ト抗告ニ對スル裁判所ノ處分問題トハ
全ク別個ノ關係ヲ有スルモノタルヲ知ラサル可ラス矣、若シ大審院所説ノ如ク
抗告ノ申立カ形式上其要件ヲ具備スル時ハ抗告裁判所ハ之ニ對シ相當ノ裁判ヲ
爲サ、ル可ラサルモノトセシカ夫レノ控訴又ハ上告期間ヲ經過シ已ニ確定シタル事件
ル可ラサルモノトセシカ夫レノ控訴又ハ上告期間ヲ經過シ已ニ確定シタル事件
ニ對シテモ亦タ當事者カ上訴ヲ申立テ而シテ其ノ上訴カ形式上ノ要件ヲ具フル
トキハ之ニ對シ相當ノ裁判ヲ爲サ、ル可ラサルノ結果已ニ確定シタル裁判ノ確
定力ハ此ノ期間經過後ノ形式的上訴ノ爲メニ輒ク破壊セラル、ニ至ラン是レ豈
我カ刑事訴訟法上ノ法理ナランヤ大審院ノ説明ハ茲ニ至テ益々其ノ誤謬ヲ暴露
セルモノニシテ其ノ立論ノ幼稚ナル實ニ驚クニ堪ヘタリ

大審院ハ最後ニ説明シテ曰ク刑事訴訟法第七十四條ハ汎ク豫審終結ノ決定ハ
抗告ノ期間又ハ抗告アリタルトキハ其ノ決定マテ執行ヲ停止スト規定スルカ故
ニ該法文ノ解釋上許ス可ラサル抗告又ハ期間經過後ノ抗告ヲ除外スルヲ得スト
云ヘリ

然レトモ法律ハ第七十四條ヲ規定スルニ先キ立テ先ッ第七十二條第七十
三條ノ規定ヲ以テ豫審決定ニ付キ抗告ヲ許ス場合ト其ノ之ヲ許サ、ル場合トヲ
明定スルカ故ニ法律ノ意ハ第七十四條ニ規定スル抗告ナル意義中ニハ其ノ之

豫審終結決定ノ確定時期

フ許ス場合ニ於ケル抗告ノミヲ包含シテ除外セラルモノト解スルヲ以テ最モ正當ニ法律ノ意ヲ得タルモノタルヲ確信ス然レトモ余輩ハ茲ニ一歩ヲ譲リ此ノ解釋ヲ以テ縱シ大審院所説ノ如クナリトスルモ抗告申立ノ效力カ已ニ裁判ノ確定力ヲ破壊スルノ力ナキ以上ハ本件ニ對スル大審院ノ説明ハ到底其ノ誤謬タルヲ不免也矣

(參照) 豫審終結ノ決定ハ抗告ノ期間内又抗告アリタルトキハ其決定アルマテ執行ヲ停止ス但保釋資付ノ言渡ヲ取消ス決定ハ其執行ヲ停止セス(刑事訴訟法第百七十四條)

第一審 松江地方裁判所 第二審 廣島控訴院
被告人 三浦三吉

右委託金消費被告事件ニ付明治二十九年十二月二十四日廣島控訴院カ言渡シタル判決中原院檢察長川淵龍起ハ第二事實ニ關スル部分ニ對シ被告三吉ハ其有罪ノ全部ニ對シ各上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

原院檢察長川淵龍起上告趣意書ハ本件ニ於テ解決スヘキ問題ハ豫審終結決定ノ確定時期如何ニ在リ原判決ハ刑事訴訟法第七十四條ニ「抗告アリタルトキ」トアル文詞ヲ解釋シテ法律上許シタル抗告ノミニ限り法律上許サ、ル抗告ハ之レヲ除外シタルモノトシ輕罪公判ニ付スル豫審ノ決定ハ即時確定スルモノト爲セリ然レトモ右法條ニハ管ニ法律上許シタル抗告ノミニ限ルノ文詞ナキノミナラス唯ダ「抗告アリタルトキハ」トアリテ其ノ間ニ何等ノ區別ヲ設ケサレハ廣ク抗告ノ申

立アリタル場合ヲ包含スルノ法意ナリト解釋セサルヘカラス殊ニ又タ刑事訴訟法第二百九十九條ニハ抗告裁判所ニ於テ抗告ヲ許スヘキヤ否ヤ抗告ノ期間内ナルヤ否ヤヲ調査シ若シ要件ノ一ヲ缺クトキハ抗告ヲ棄却スヘキノ規定アリ之レニ依レハ法律上許スヘカラサル抗告ハ勿論期間外ノ抗告ト雖モ抗告裁判所ニ繫屬シ棄却ノ決定ヲ待タサルヘカラス若シ原判決ノ解釋ノ如クセハ假令ヒ法律上許スヘカラサル抗告又タハ期限外ノ抗告アルモ決定ハ即時確定スルモノト決セサルヘカラスルカ故ニ抗告裁判所カ刑事訴訟法第二百九十九條ノ適用ヲ爲ス可キ場合ハ遂ニ之レナキニ歸セシト否ナ徒法タラシムルニ至ラン然ラハ即チ該條ノ所謂抗告トハ法律上許サ、ル抗告ヲモ包含セルモノナルコト復タ絮説ノ要ナシ本件被告ニ對スル四箇ノ公訴事實ニ付キ豫審終結決定ハ第一第二ヲ第一審裁判所ノ重罪公判ニ付シ第三第四ヲ同裁判所ノ輕罪公判ニ付スト云フニ在リ而テ被告ハ第四ヲ除キ餘ノ三公訴事實ニ對シ抗告ヲ爲シタル處抗告裁判所タル廣島控訴院刑事第二部ハ其第一第二ヲ取消シ輕罪公判ニ付シタルモ第三ニ對シテハ何等ノ決定ヲ與ヘサリシモノニシテ即チ前段論述セル趣旨ニ依リ第三ノ公訴ハ依然裁判所ニ繫屬中ト認メサル可カラサルニ拘ハラズ第一審裁判所ニ於テ該件ニ付キ公訴不受理ノ判決ヲ爲サス直チニ本案ノ判決ヲ爲シ而テ又當院刑事部カ之ヲ是認シ檢事ノ控訴ヲ棄却シタルハ失當ノ甚タシキモノト思料スト云フニ在リ○依テ按スルニ被告事件ヲ輕罪公判ニ付スル豫審終結決定ニ對シテハ絕對ニ抗告ヲ許サ、ルハ刑事訴訟法ノ規定ニ於テ毫無疑ナク隨テ右決定ノ即時ニ確定スルハ亦論ヲ俟タスト雖モ同法第二百九十九條ノ規定ニ依レハ抗告裁判所ハ法律上許スヘカラサル抗告又ハ期間經過後ノ抗告ヲ受ケタル場合ニ於テモ

豫審終結決定ノ確定時期

尙ホ之ヲ形式上抗告トシテ取扱ヒ相當ノ裁判ヲ爲サルヘガラス蓋シ抗告ノ適法ナルヤ否ヤハ一ニ抗告裁判所ノ判斷ニ待ツヘキモノナルヲ以テ苟モ抗告タル形式ヲ具備シテ提起セラレタルモノニ付テハ抗告裁判所ハ其實質上不適法ナルノ故ヲ以テ全然之ヲ無視スルヲ得スシテ必ス之ニ對スル相當ノ裁判ヲ爲ササルヲ得サルナリ然ラハ則チ法律上許スヘカラサル抗告モ亦一ノ抗告タルヲ失ハサルモノト論結セサルヲ得テ而テ同法第七十四條ハ汎ク豫審終結ノ決定ハ抗告ノ期間又ハ抗告アリタルトキハ其決定アルマテ執行ヲ停止スト規定シ該法文ノ解釋上許スヘカラサル抗告又ハ期間經過後ノ抗告ヲ除外スルヲ得ス即チ豫審終結決定ニ對シ抗告ヲ許ス場合ニ於テハ其期間内其他一般ニ抗告アリタルトキハ其適法ナルト否トヲ問ハス之ニ對スル裁判アルマテ執行ヲ停止セシムルノ律意ト解スルヲ相當トス但原院ノ見解ハ抗告ヲ許サル豫審終結決定ニ對シ抗告アリタル場合ニ於テモ尙ホ執行ヲ停止スヘシトセハ再三再四抗告ヲ爲シテ永久ニ執行ノ期ナカラシムルノ不都合ヲ生スヘシト云フニ在レトモ法文ハ明カニ執行停止ノ期ヲ抗告裁判所ノ決定アルマテニ限定セリ故ニ抗告ニ對スル決定アリタル以後再ヒ抗告申立人ヨリ抗告ヲ爲スモ固ヨリ執行ヲ停止スヘキニ非サルヲ以テ右ノ如キ不都合ヲ生スルコトアルヘカラス本件記録ヲ閱スルニ原判決第二ノ事實即チ豫審終結決定第三ノ事實ヲ松江地方裁判所ノ輕罪公判ニ付スル決定ノ部分ニ對シテハ他ノ重罪公判ニ付スル部分ト共ニ被告ヨリ原院ニ抗告ヲ爲シ其事件ハ抗告事件トシテ原院ニ繫屬スルニ至リタルモノナルヲ以テ抗告裁判所タル原院ハ右輕罪公判ニ付スル旨ノ決定ノ部分ニ付テモ亦相當ノ裁判ヲ爲サル可ラスシテ其裁判アルマテハ右決定ノ執行ハ當然停止セラルヘキモ

ノトス然ルニ抗告裁判所タル原院ハ其部分ノ裁判ヲ爲サ、リシカ故ニ原判決所掲第二ノ事件ハ未タ豫審手續中ニ在ル状態ヲ脱セスシテ第一審裁判所ハ之ヲ受理裁判スルコト能ハサルニ拘ハラズ有罪ノ判決ヲ爲シタルモノナレハ第二審裁判所タル原院ハ此點ニ於テ第一審判決ヲ取消シ更ニ公訴不受理ノ言渡ヲ爲サル可ラサルニ反テ第一審判決ヲ相當トシ被告及檢事ノ控訴ヲ棄却シタルハ同シク法律ニ背キ公訴ヲ受理シタル不法ニ陥リタルモノニシテ原院檢事ノ上告ハ理由アリ而シテ原判決ハ第二事實ヲ合シテ數罪俱發トシ處斷シタルモノナルヲ以テ全部ノ破毀ヲ免レサルモノトス

●私書偽造事件

明治四十年(レ)第二十四號
明治四十年二月十八日判決

(破毀)

判決要旨

一、親族ノ所有ニ屬スル財産ト雖モ權利ノ目的物トナリ他人ノ占有ニ係ルトキ其ノ占有者ヲ欺罔シテ之ヲ騙取シタル時ハ詐欺取財罪ヲ構成ス

一、然レトモ右物件ノ占有者カ之レニ對シ何等實體上ノ權利ナク單ニ所有者ノ爲メニ之ヲ保管スルニ過キサルトキ之ヲ欺

親族間ノ詐欺取財

罔騙取スルモ犯罪ヲ構成セス

說明

同居スル親族ノ物件ハ之ヲ竊取又ハ詐取スルモ其ノ罪ヲ不問ニ附スルハ刑法ノ明言スル所ニシテ亦タ説明ヲ待ス然レトモ其物件カ或ル權利ノ目的トナリテ他人ノ占有ニ係ル時ハ其ノ物件ハ他人ノ財產ヲ詐取スルニ該當シ此點ニ於テ詐欺取財ヲ構成スルハ論ヲ待タズ然レトモ今少ク問題ヲ異ニシ親族ノ物件ヲ他人カ之ヲ占有スルモ斯ハ全ク所有者タル親族ノ爲メニ其ノ物ヲ保管スルノ目的ニ止マリ別ニ占有者カ之レニ對シ何等實體上ノ權利ヲ有セザルトキハ之ヲ騙取スルモ財產ヲ奪ハル者ハ所有者タル親族其ノ人ニシテ占有者ハ之レニ由テ何等ノ損害ヲ被ルコトナシ故ニ此場合ニ於テハ被告ノ所爲ハ結局親族ノ財物ヲ騙取シタルモノニ該當シ刑法第三百九十八條ノ適用ニ依リ無罪ヲ宣告セサル可ラサルニ至ルヘシ

(參照) 祖父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姊妹互ニ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論スルノ限ニ在ラス(刑法第三百七十七條第一項)

第一審 神戸地方裁判所 第二審 大阪控訴院
被告人 松島松治郎

右私書偽造行使被告事件ニ付明治三十九年十二月十一日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
上告趣意書前段ノ論旨ハ原判決ニ於テ詐欺取財罪ハ財物若クハ證書類ノ占有者ニ對シテモ成立スルモノナルヲ以テ本件ノ馬ハ福田恒太郎カ現ニ之ヲ預リ占有中ニ在テ同人ヲ欺罔シ之ヲ騙取セントセシモノナルヲ以テ假令被告ト所有者タル與三松トノ間ニ於テ同居ノ兄弟タル關係アリトスルモ刑法第三百九十八條ニ依リ不問ニ措クヲ得スト爲シ更ニ被告ヲ詐欺取財未遂罪ヲモ犯シタルモノト認メ刑法第三百九十九條同第三百九十四條同第三百九十七條同第三百九十二條同第三百九十九條第二項等ヲ適用處斷シタルハ法律ノ解釋ヲ誤リタルモノト信ス蓋シ刑法第三百九十八條ノ法意タル一家ノ財產ハ共通ナリトノ觀念及ヒ一家ノ陰私ハ摘發セストノ主義ニ出テタルモノナルヤ更ニ啖々ヲ要セス苟モ其物件ニシテ同居ノ兄ノ所有ナルコトヲ明定セラレタル以上ハ第三者ノ占有ニ在リトノ一事カ此ノ如キ深長ノ法意ヲ變更シ得ルノ理由アルコトナシ勿論詐欺取財罪ノハ獨財物ノ所有者ニ對シテ成立スルノミナラス其占有者ニ對シテモ又成立スルハ爭ハサル所ナリト雖モ是レ唯タ通常ノ場合即チ所有者カ他人ナル場合ニ於テノミ論スヘキモノニシテ特異ノ場合即チ親族ナル場合ニマテ及フヲ得サルヤ固ヨリナリ或ハ云ハン反對ノ解釋ヲ爲サルニ於テハ占有者ノ權利ヲ害スルヲ如何セント然レモ其物件ニシテ公法上根底的ニ犯罪ヲ構成セサルモノナル以上ハ他人ニ對シ占有權ヲ害スルカ如キ固ヨリ輕微ノ事ニ屬スルヲ以テ全然私法上ノ範圍ニ歸セシムルヲ正當

親族間ノ詐欺取財

ト信スルナリ故ニ此點ニ付テハ刑事訴訟法第二百六十九條第十號ニ適當スル理由アルモノトスト云フニ在リ○依テ按スルニ刑法第三百七十七條ニ掲ケタル親族ノ所有ニ屬スル財産ト雖モ或ル權利ノ目的物トナリテ他人ノ占有ニ係ルトキ其占有者ヲ欺罔シテ之ヲ驅取シタル場合等ニ在リテハ其犯人ニ對シテ同法第三百九十八條ニ規定セル刑罰免除ノ寬典ヲ與フヘキ理由モ存スルコトナク從ツテ之ニ對シテハ同法第三百九十九條第三百九十四條等ヲ適用處斷スヘキコト亦辯ヲ要セスト雖モ若シ夫レ他人ノ物件ヲ占有スルモ其占有ハ單ニ所有主ノ爲メニ之レカ保管ヲ爲スノ目的ニ出テタルニ過キスシテ其物件ニ對シ何等ノ權利ヲ有スルニアラサル場合等ニ於テハ該占有者カ其占有物ヲ驅取セラルハコトアルモ毫モ自己ニ損害ヲ受クヘキ謂ハレナク其ノ之レカ爲メニ損害ヲ被ル者ハ結局該物件ノ所有主ニ止マルヲ以テ例ヘハ其物件ノ所有主ト同居セル兄弟等即チ刑法第三百七十七條ニ掲ケタル該所有主ノ親族ニ於テ右等占有者ヲ欺罔シ其占有物ヲ驅取シタル場合ノ如キハ直接ニ親族其者ヲ欺罔シテ其所有物ヲ驅取シタル場合ト同シク刑法第三百九十八條ノ規定ニ從ヒ其罪ヲ問フヘカラサルモノト論定スルヲ相當トス今原判決ヲ查閱スルニ被告ハ藤井五一郎ト共謀シ被告ノ實兄松島與三松所有ノ馬ヲ預リ居ル福田恒太郎ヨリ右ノ馬ヲ驅取セントシテ其目的トテ遂ケサリシモノナリト云フニ在レハ即チ福田恒太郎カ右ノ馬ヲ占有セシハ松島與三松ヨリ之ヲ預リタルニ因ルモノニシテ畢竟其所有主與三松ノ爲メニ之ヲ保管スルニ過キサレハ右恒太郎ハ該馬ニ對シ何等ノ權利ヲ有スルモノニアラサルヲ疑ナキ事實ナルヲ以テ原判決ノ如ク右被告ノ所爲ヲ以テ詐欺取財未遂ノ罪ニ問フヘキ者ト爲スニハ被告ト其實兄與三松トハ同居ノ關係ナキモ

ノタルヲ要シ若シ此兩名間同居ノ關係アルニ於テハ前顯説示ノ理由ノ如ク右被告ノ所爲ハ罪トシ論スヘカラサルモノト爲サ、ルヲ得ス故ニ本件被告ノ所爲ハ詐欺取財未遂ノ罪ニ問擬スヘキモノナルヤ否ヤヲ定ムルニハ原判決ニ掲ケタル事實ヲ認定シタルノミヲ以テ足レリトセス仍ホ進テ被告ハ其實兄與三松ト同居ノ關係ナキモノナルヤ否ヤヲ確定セサルヘカラス何トナレハ本件ノ如ク其驅取物件ノ所有主ト騙取者トノ間ニ兄弟ノ關係アリトスル場合ニハ其兄弟タル身分ノ外仍ホ同居ノ關係アリヤ否ヤヲ確定セサルニ於テハ刑法第三百九十八條ヲ適用シテ其罪ヲ不問ニ付スヘキモノニ該當スルヤ否ヤヲ定ムルコトヲ得サレハナリ然ルニ原判決ニ於テ右與三松ト被告トハ兄弟ノ間柄ナルコトヲ認メナカラ同居ノ關係アリヤ否ヤノ事實ニ至リテハ別ニ之ヲ確定シタル廉ナキヲ以テ右兩名ハ果シテ同法第三百七十七條ノ親族ニ該當スルモノナリヤ否ヤヲ明認スルコト能ハス從テ被告ノ所爲ニ對シテハ原判決ノ如ク同法第三百九十九條第一項第三百九十四條等ヲ適用シテ之ヲ處罰スルヲ相當トスヘキヤ將タ同法第三百九十八條ニ依リテ之ヲ不問ニ付スルヲ相當トスヘキヤヲ判別スルニ由ナク即チ原判決ハ理由不備ノ不法アルコトヲ免カレサルモノニシテ破毀ノ原由アルモノトス既ニ此點ヲ以テ原判決ヲ破毀スヘキモノトスル以上ハ其他ノ論旨ニ對シ説明ヲ與フルノ要ナシ

私書偽造行使詐欺取財事件

明治三十九年(レ)第一一九九號
明治三十九年十二月二十五日宣告

(破毀)

判決要旨

親族間ノ詐欺取財

一、公裁判所ハ鑑定ヲ他ノ裁判所ニ囑託スルコトヲ得ス

第一審 名古屋地方裁判所岡崎支部 第二審 名古屋控訴院
被告人 島居雄四郎 辯護人 後藤文一 山口憲
右私書偽造行詐欺取財被告事件ニ付明治三十九年十月二十六日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

辯護人後藤文一郎山口憲ノ上告趣意擴張書ノ一部ハ原院ニ於テ開カレタル第一回公判ニ於テ被告利益ノ爲メ辯護人ヨリ證據第六號證中野村浩一代人ト言渡シタル六文字ノ筆跡鑑定ヲ申請シ原院ハ「辯護人ノ鑑定申請ハ必要ト認メ許容ス」トノ決定ヲ渡シ閉廷セラレタリ然ルニ右第一回公判ニ關與セラレサル判事元木直一氏ニ於テ明治三十九年九月十九日右辯護人申請ノ筆跡鑑定ヲ京都區裁判所ヘ囑託シテ鑑定セシメラレタルハ不法ニシテ原判決ハ即チ審理手續ニ違背シテ爲シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ○依テ刑事訴訟法ノ規定ヲ按ズルニ公判ノ鑑定人ニハ豫審ニ於ケル鑑定ハ規定即チ第三百三十五條以下ヲ準用スヘキハ第九十條ノ明定スル所ニシテ而シテ第三百三十六條ニ於テ鑑定人ニ準用スヘキ證人ノ規定中證人訊問ノ囑託ニ關スル第三百三十二條ヲ除外シタルニ由リテ之ヲ觀レハ豫審ハ勿論公判ニ於テモ鑑定ハ之ヲ他ノ裁判所ニ囑託シテ爲サシムルコトヲ得サルモノト謂ハサル可カラズ何トナレハ斯ノ如キ裁判所ノ間法律上ノ共助ハ法律ノ規定ヲ俟テ始メテ行ハルヘキモノナルハ裁判所構成法第三百三十一號第一項ニ依リテ明カナレハナリ然ルニ原審公

判始末書其他本件記録ニ依レハ原院ハ被告ノ利益ノ爲メ辯護人ノ爲シタル鑑定ノ申請ヲ許容スル旨ノ決定ヲ爲シナカラ其鑑定ヲ京都區裁判所ニ囑託シテ爲サシメタルモノナレハ該證據調ノ手續ハ違法ニシテ全然無効ニ歸シ結局判決ハ被告ノ利益ノ爲メニ許可シタル證據調ヲ施行セスシテ爲シタルト同一ノ不法アリト謂フヘク本論旨ハ理由アリ原判決ハ此點ニ於テ全部ノ破毀ヲ免レサルヲ以テ他ノ上告ノ論旨ニ付テ逐一説明ヲ與フルノ要ナシ

●謀殺及謀殺未遂事件

明治三十九年(レ)第一三三二號 (棄却)
明治四十年二月五日宣告

判決要旨

一、被告人疾病ノ爲メニ停止シタル辯論ノ再開ニ付テハ法律上何等手續ノ規定ナケレハ疾病快復シ停止ノ原因消滅シタル以上ハ裁判所ハ何時ニテモ訴訟關係人ニ對シ呼出狀ヲ發シテ其裁判ニ取掛ルコトヲ得

一、刑事訴訟法第二百二十三條ニ所謂同居人トハ民事原告人又ハ被告人ノ家ニ住居シ其主宰ノ下ニ在ル者ハ其ノ何レヲ凡テ

之ニ包含ス

第一審 水戸地方裁判所 第二審 東京控訴院
被告人 鈴木猪之助 辯護人 高木益太郎

右謀殺及謀殺未遂被告事件ニ付明治三十九年十二月十一日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ノ辯護人高木益太郎同大久保端造ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

辯護人高木益太郎上告辯明書ノ第一ハ原審公判始末書ヲ通閱スルニ其明治三十九年七月三十一日開廷ノ公判ニ於テ立會檢事ハ本被告人ハ多少疾病ノ兆候アリト認ムルニ付辯論ヲ停止セラレタシト陳述シ裁判長ハ合議ノ上辯論停止ノ決定ヲ言渡シタルコトノ記載アリ(記録第三四丁)然ルニ其後ノ公判始末書ヲ查スルニ原審ニ於テハ右辯論停止ノ決定ヲ解除クコトナクシテ辯論ヲ開始シ審理ヲ終結シタル事跡アリ而シテ裁判所ノ決定ハ之ヲ取消スニ非サル限リハ其裁判所ヲ羈束スヘキモノナルコト素ヨリ論ナキ所ナレハ原判決ハ法則違背ノ審理ニ基キ成立シタル不法アルモノナリト云フニ在レトモ○辯論停止ノ決定ヲ以テ辯論ヲ停止シタル事件ニ付裁判所カ公判ヲ開クニ付テハ法律上何等手續ノ規定ナキヲ以テ辯論停止ノ原因消滅シタルトキハ裁判所ハ何時ニテモ訴訟關係人ニ對シ呼出狀ヲ發シ其裁判ニ取掛カルコトヲ得ルモノニシテ前ニ爲シタル辯論停止ノ決定ヲ取消シ又ハ停止ヲ解除クノ決定ヲ爲スニアラサレハ其裁判ニ取掛カルコトヲ得サルモノニアラス而シテ原院公判始末書ニハ「裁判長合議ノ上辯論ヲ停止スルコトノ決定ヲ言渡シ追テ期日ハ指定スヘ

キ旨ヲ告ケ閉廷シタリトアルヲ以テ原院裁判長ハ其決定ノ趣旨ニ從ヒ公判期日ヲ指定シ其裁判ニ取掛リタルモノニシテ毫モ法則ニ違背シタル廉ナキヲ以テ本論旨ハ上告ノ理由ナシ
第二ハ原判決ハ證人坂本久次郎ノ豫審調書ヲ判斷ノ資料ニ供セラレタリ然レトモ同人ハ本件被告ノ資格ヲ具有セルモノナルニ豫審調書カ同人ニ宣誓ヲ爲サシメ訊問ヲ爲シタルハ違法ニシテ其供述ハ素ヨリ適法ナル證言證據ノ效アルモノニ非ス原判決ハ其採證ニ違法アルモノナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第二百三條ニ所謂同居人トハ民事原告人又ハ被告人ノ家ニ住居シ其主宰ノ下ニ在ル者ニシテ親屬又ハ雇人ニ非サルモノヲ云フコトハ本院判例ノ夙ニ認ムル所タリ(明治三十四年(レ)第八五五號毆打創傷事件及ヒ同三十五年(レ)第一七五四號放火事件判例)而シテ訴訟記録ニ依レハ被告猪之助カ坂本久次郎方ニ同居スルモノニシテ坂本久次郎ニ於テ被告方ニ住居シ其主宰ノ下ニ在ルモノニ非サルヲ以テ坂本久次郎ハ前記法條ニ所謂被告人ノ同居人ト云フヘキモノニ非ス故ニ豫審調書カ同人ヲ證人トシテ訊問シタルハ違法ニ非サルヲ以テ原院カ其豫審調書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ採證ノ法則ニ違背シタル不法アルモノニアラス

●移民保護法違反事件 明治三十九年(レ)第一一五九號 明治三十九年十二月二十一日判決 (棄却)

判決要旨

一、刑事裁判ニ於ケル被告ノ代理人ハ辯護士ヲ以テシタル時ト

刑事裁判ニ於ケル訴訟代理人ノ權限○渡航ノ周旋

前論ニ從ヒ之ヲ考フルニ刑事裁判ニ於ケル訴訟代理人ハ其ノ委任セラレタル被
告事件ニ付キ公判ニ出頭シ判事ノ訊問ニ應ジ且ツ證人鑑定人ヲ申請スルコトモ亦
又タ被告ノ爲メニ諸般ノ證據ヲ提出シ且ツ證人鑑定人ヲ申請スルコトモ亦
其ノ權限ニ屬ス又タ代理人カ自白タルトキハ其ノ自白ハ本人ノ爲シタルト
一ノ効力ヲ有スヘク即チ判事ハ其ノ自白ニ付キ刑事訴訟法第二百十九條第二項
ノ規定ニ從ヒ所理スルコトヲ得ヘシ
以上論スルカ如ク訴訟代理人ハ其ノ呼出ニ應ジタル公判審理ニ付テハ全ク被告
タル地位ヲ代表スルカ故ニ裁判所ハ代理人ヲ審理シタル外更ラニ本人ノ訊問ヲ
爲スノ權限ナシ又タ前段ニ說明スル範圍ニ於テ被告本人カ代理人ヲ任スルコト
ハ被告ノ權利ニ屬スルカ故ニ裁判所ハ本人ヲ訊問スルカ爲メ代理人ノ選任ヲ禁
スルノ權限亦タ之レアルコトナシ民事訴訟ニ在テハ代理訴訟ノ場合ニ於テ或ル
一定ノ條件ノ本ニ當事者本人ノ訊問ヲ許ス(民事訴訟法第三百六)ト雖モ斯ハ是
レ法文在定ノ結果ニシテ之レニ付キ何等ノ明文ヲ認メサル刑事訴訟ニ於テハ決
シテ之ヲ許スコトヲ得ス何トナレハ代理人カ其ノ權限内ニ於テ爲シタル行爲ハ
即チ是レ本人ノ行爲ニシテ何トナレハ代理人ノ外ニ本人ヲ訊問スト云ハ取リ直サ本
人ノ外ニ更ラニ本人ノ行爲ニシテ何トナレハ代理人ノ外ニ本人ヲ訊問スト云ハ取リ直サ本
訴訟代理人ノ資格 民事訴訟ニ在テハ訴訟代理人タルノ資格ハ辯護士ヲ以テ原則

トシ或ル特別ノ場合ニ限リ常人ヲ以テ之レニ當ラシム刑事訴訟ニ在テハ訴訟代
理ノ資格ニ付テハ何等ノ規定ナキカ故ニ何人ヲ以テスルモ妨クナシ即チ辯
護士タルト否ト未成年者タルト否ト將タ又タ男子ナルト女子ナルト其ノ關係スル所
ソ刑事上ニ於テ未成年者タルト否ト刑責ヲ受クルニ付テハ其ノ關係スル所
カラサルモ訴訟代理ハ代理人自ラ刑責ヲ受クルニ付テハ其ノ關係スル所
ニ當ル所ナレハ未成年者タルト一事ハ被告ノ代理ヲ爲スニ付キ何等
ナク被告本人カ未成年者ノ識見ニ信賴スル所アリ之ヲ任スルニ於テハ法律ハ決
シテ之ヲ拒ムノ餘地ナキナリ
又タ辯護士ヲ以テ刑事訴訟代人トシタル片ハ恰モ一人ニテ辯護人タル地位
ト代理人タル地位トヲ兼有スルカ如キ觀アルモ元來辯護人タル資格ト訴訟代理
人タル資格ハ至ク別個ノ獨立ノ關係ヲ有スルモノナルカ故ニ一旦被告ノ代理人
タル資格ヲ以テ被告ヲ代表スル以上ハ自己ニ辯護士タルノ資格アルノ故ヲ以テ
辯護人タルノ行動ヲ爲スコトヲ許サ、ルヤ論ヲ待タサルナリ

第一審 和歌山地方裁判所 第二審 大阪控訴院
被告人 森 外一名 馬 辯護人 高本益太郎

右移民保護法違反被告事件ニ付明治三十九年十月二十九日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不
法トシ被告兩名並被告官吾代理人大久保健太郎ハ上告ヲ爲シタリ依テ先ツ被告石井官吾代理人大

刑事裁判ニ於ケル訴訟代理人ノ權限○渡航ノ周旋

久保健太郎ノ申立テタル上告ノ適法ナルヤ否ヤヲ審按スルニ凡ソ上訴權ハ被告本人ニ屬スルヲ以テ原則トナスモノニシテ前審ニ干與シタル辯護人ハ刑事訴訟法第二百四十三條ニ依リ被告ニ代リ上訴ヲ爲スコトヲ得レトモ前審ニ於テ單ニ被告ノ代理人ト爲リタルモノハ被告ニ代リ上訴ヲ爲スノ權限ナキモノトス何トナレハ代理人ハ辯護人ト異ナリ刑事訴訟法第七十九條第二項ノ如キ制限ヲ受クルコトナク被告ハ何人タリトモ自由ニ代理人ニ選定スルコトヲ得ヘク而シテ又裁判所ハ之ニ對シテ許否ノ權能ヲ有スルモノニ非サルカ故ニ若シ代理人ニ於テ辯護人ト等シク被告ニ代リ上告ヲ爲シ且趣意書ヲ提出スルコトヲ得ルモノトセンカ前記第七十九條第二項及第二百四十三條ヲ設ケタルノ趣旨全ク滅却セラル、ニ至ラン是レ從來當院判例ニ於テ代理人ハ被告ニ代リ上訴ヲ爲スノ權限ナキモノト做シタル所以ナリ竊テ本件記録ヲ調査スルニ前記大久保健太郎ハ原審ニ於テ被告石井官吾ノ代理人トシテ出頭シタルモノニシテ辯護人トシテ出廷シタルモノニ非サルコトハ石井官吾ノ委任狀其他一件記録ニ徴シ極メテ明瞭ナリ但右大久保健太郎ハ辯護士ノ登錄ヲ受ケタル人ナレトモ代理人其人カ辯護士タルト否トニ依リ一ハ辯護人タリ他ハ辯護人タラサルノ差別ヲ生スヘキ理由之ナキヲ以テ結局原審ニ於ケル被告ノ代理人タル大久保健太郎ハ被告官吾ニ代リ上告ヲ爲スノ權限ナキモノトス隨テ右健太郎ノ申立テタル本件上告ハ不適法ニシテ當然棄却スヘキモノトス尙石井官吾本人ヨリ明治三十九年十一月十五日ヲ以テ上告申立書ヲ提出シタレトモ右ハ上告期間經過後ニ係ルヲ以テ此レ又不適法ニシテ棄却スヘキモノトス
上告第四點ハ轉籍ハ渡航免狀下付ノ準備行爲トスルモ免狀出願ハ一馬ノ干與セサル所記録ノ内豫

審終結書ニスラ石口庄五郎カ數十名ノ代理トシテ新潟ニ出張石井官吾等ト直接處置スルコト明確ナシ居ルニ於テ一馬ハ渡航周旋ノ行爲ナキモノトス然ルニ轉籍盡力ト免狀願方問合セノミヲ以テ他ノ明白ノ事實ヲ顧ミス直チニ渡航周旋ト認定斷罪シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在リ然レトモ移民保護法ニ渡航ノ周旋トアルハ渡航ニ關シ必要ナル一切ノ事項ヲ指稱シタルモノナルヲ以テ苟モ右必要ナル事項ノ幾分ヲ行ヒタル以上ハ同法第二十三條ノ制裁ヲ免レサルモノトス而シテ原院ノ認メタル事實ニ依レハ轉籍ハ本件渡航免狀下付申請ノタメ爲シタルモノニシテ即チ渡航ニ關スル必要ナル事項ナルコト勿論ナルカ故ニ本件ニ對シ移民保護法違犯ヲ以テ處斷シタルハ相當ニシテ所論ノ如キ不法ナシ

●監守盜事件

明治三十九年(レ)第一三三六號
明治四十年二月七日判決

(棄却)

判決要旨

- 一、刑事訴訟法第二百二條ノ所謂所有者トハ差押物ニ對シ所有權又ハ占有權ヲ有スル者ヲ指示セルモノトス
- 一、郵便局ヨリ差出サシメタル差押物件中發信人受信人等不明ナル郵便物アル時ハ之ヲ郵便局ニ還附スヘシ然レモ之ヲ還

刑事訴訟法第二百二十二條ノ適用○差押物件ノ還附○公判ノ豫備訊問○辯論ノ準備期間

附スルニ付テハ必スシモ郵便局ニ還附スヘキ旨ヲ明言スル
 コトヲ要セス之ヲ所有者ニ還附スト言渡シタル時ハ結局郵
 便局ニ還附シタルト同一ノ效ヲ有ス

一、豫審ニ於テ被告事件ヲ重罪公判ニ付スル旨ノ言渡ヲナシタ
 ルキハ其ノ終結決定ノ抗告期間内ニ於テ公判ノ豫備訊問ヲ
 爲スモ違法ニアラス

一、公判ニ付キ被告ノ爲メニ設ケタル辯論ノ準備期間即チ呼出
 狀ノ送達ト出頭トノ間ニ存スル二日ノ猶豫期間ハ頭初ノ呼
 出ニ付キ一回之ヲ與フルヲ以テ足り爾後ノ呼出ニ付キ之ヲ
 與フル要ナシ

(參照) 被告人有罪ト爲リタルト否トチ問ハス没收ニ係ラサル差押物ハ所有者ノ請
 求ナシト雖モ之ヲ還付スル言渡ヲ爲ス可シ(刑事訴訟法
 (參照) 呼出狀ノ送達ト出頭トノ間少クモ二日ノ猶豫アル可シ(刑事訴訟法第
 二百十五條)
 第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 山口定次郎 辯護人 磯部四郎

右監守盜被告事件ニ付明治三十九年十二月一日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告
 ハ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣旨第六ハ本件證據物件トシテ提供ノ郵便物中差出人及受取人不明ノモノアリ又信書斷片數
 多アリテ何レモ所有者不詳ナルニ依リ差出人即チ郵便局ヘ還付スヘキカ正當ナルヘキニ尙ホ所有
 者ヘ還付ノ判決ハ手續ヲ誤リタルモノトスト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第二百二條ニ所謂所有
 者トハ所有權ヲ有スル者及ヒ占有者ヲ指示スルモノニシテ原院ハ同條ニ從ヒ右物件ヲ所有者ニ還
 付スト判決シタルモノナレハ原判文ハ同條ノ意義ニ於ケル所有者即チ所有權者及ヒ占有者ニ還付
 スルノ意義ナルコト明瞭ナリ從ツテ發信人受取人等不明ナル郵便物信書等ハ郵便局ニ還付スルノ
 趣旨ナルコト疑ナキヲ以テ本論旨ハ適法ノ上告理由トナラス

第二擴張辯明書第三ハ本件豫審ハ重罪ノ決定ナリシヲ以テ法律ニ依リ抗告期間ヲ付セラレタルモ
 該決定書ノ送達ヲ受ケタルハ客年五月六日ニシテ(決定書正本作成ハ五月五日)被告カ第一審ニ
 於ケル豫審訊問ヲ受ケタルハ同月八日ナリ即チ抗告期間中ナルニモ拘ハラヌ豫審訊問ヲ執行セラ
 レシハ刑事訴訟法第一七四條ヲ無視シタル不法アルモノトスト云フニ在レトモ○重罪公判ニ移ス
 豫審終結決定ニ對スル抗告期間内ニ公判ノ豫備訊問ヲ爲スハ被告ノ有スル抗告ノ權利ニ何等ノ影
 響ヲ及ホスモノニアラサルノミナラス抗告期間内ニ右ノ如キ手續ヲ爲ストキハ終結決定ノ確定ス
 ルヤ直チニ公判ヲ開始スルノ便宜アリテ寧ロ被告ノ爲メニ未決拘留日數ヲ短カラシムルノ利益ア

刑事訴訟法第二百二十二條ノ適用○差押物件ノ還附○公判ノ豫備訊問○辯論ノ準備
 一四三

ル、モ、ナ、レ、ハ、右ノ如キ手續ハ法律ノ禁スル所ニアラス故ニ原院ノ豫備訊問手續ハ相當ナリトス
 辯護人磯部四郎上告趣意擴張書第四點ハ第一審ニ於テ其第三回公判ニ辯護人小菅寅吉ヲ呼出サス
 從テ其出廷キキニ拘ハラヌ結審シタルハ不法ナリ尤モ記録三五九丁ニ之ニ關スル呼出狀アルモ之
 ニ記載セル右公判即チ明治三十九年十月三日ノ開廷ハ午前八時ナルヘキ旨掲ケアリ然ルニ該呼出
 狀ノ送達ハ同年十月一日午前八時三十分ナルヲ以テ呼出狀ノ送達ト出廷時トノ間ニ二日ノ猶豫
 時間ヲ存セス故ニ該呼出狀ハ不法ニシテ從テ呼出ノ效ナク又同辯護人カ同公判ニ出廷セザリシコ
 トハ公判始末書ノ記載ニ依テ之ヲ知ルヘシ右ノ如ク第一審判決ハ不法ノ手續ニ基クモノナルニ拘
 ハラス之ヲ取消サ、リシ原判決ハ違法ノモノト信スト云フニ在リ○依テ按スルニ公判期日呼出狀
 ノ送達ト公判期日トノ間ニ二日ノ猶豫ヲ存セシムルハ辯論準備ノ爲メニ必要ノ時間ヲ有セシメン
 トスルノ法意ナレハ刑事訴訟法第二百十五條ノ規定ハ辯護人ニモ適用スヘキモノナルコトハ所論
 ノ如シ然レトモ辯論ノ準備ハ之ヲ爲スノ機會ヲ一回與フルヲ以テ足レリトスルモノナルカ故ニ同
 條ノ規定ハ第二ノ公判及其以後ノ公判ニハ適用ナキモノナリ一件記録ヲ調査スルニ明治三十九年
 十月三日ノ公判呼出狀ノ送達ト右公判期日トノ間ニ法定ノ期間ヲ存セザリシコトハ所論ノ如クナ
 レトモ右十月三日ノ公判ハ第三回ノ公判ナルカ故ニ右公判ノ呼出ニ付テハ刑事訴訟法第二百十五
 條ノ猶豫期間ヲ與フヘキモノニアラサルカ故ニ第一審ノ訴訟手續ハ違法ニアラス故ニ本論旨ハ理
 由ナシ

銃砲火藥類取締法違反事件

(明治三十九年(レ)第一一六五號)

(棄却)

判決要旨

一、公判ニ於ケル鑑定ノ供述ハ公判始末書ニ記載スレハ足ル別
 ニ鑑定書ヲ作成スルノ必要ナシ

第一審 仙臺地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 龜山 藤吉 外一名

右銃砲火藥類取締法違反被告事件ニ付明治三十九年十一月六日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決
 ヲ不法トシ被告兩名ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト
 左ノ如シ

被告兩名上告趣意書ハ原判決ハ第二審廷ニシタル鑑定人ノ供述ヲ採用シテ有罪ノ證據ニ供セリ
 然ルニ刑事訴訟法第九十條第九十條第四十條ニ依レハ鑑定人ハ鑑定書ヲ作ルヘキモノニシテ口頭ヲ
 以テ供述セシムヘカラス(本年六月二十二日大審院第一刑事部判決)故ニ原判決カ口頭供述ニ成
 レル鑑定人佐野喜代作ノ意見ヲ採用シタルハ前記法條ニ違背シタル不法アルモノナリト云フニ存
 レトモ○公判ニ於ケル鑑定人ノ供述ハ公判始末書ニ之ヲ記載スルモノニシテ常ニ鑑定書ノ作成ヲ
 必要トセサルコトハ刑事訴訟法第二百八條第三號第九十五條第二項ノ規定ニ徴シ分明ナリトス

○公判ニ於ケル鑑定人ノ供述

而シテ同法第九十條ニハ第三十五條以下ノ規定ハ公判ノ鑑定ニモ亦之ヲ準用ストアリテ適用ス
トハ之レナキヲ以テ前示規定ト異ナル第四百十條ノ規定ノ如キハ公判ノ鑑定人ニ之ヲ適用セサル
モ違法ナリト云フヲ得ス故ニ原院カ第二審公廷ニ於ケル鑑定人佐野喜代作ノ供述ヲ斷罪ノ資料ニ
供シタルハ不法ニアラス但論旨ニ援用スル本院ノ判決ハ豫審ニ於ケル鑑定ニ關スル判例ニシテ本
件ノ如キ公判ノ鑑定ノ場合ニハ適合セサルモノトス

●新聞紙條例違反事件

明治四十年(九)第一一號
明治四十年二月五日判決

(破毀)

判決要旨

一、公判雜誌號外ノ紙上ニ於テ貧富ノ戰爭ト題シ今ノ世ハ金持
ノ世ナリ政府モ金持ノ味方ナリ警察モ金持ノ味方ナリ軍隊
モ金持ノ味方ナリトノ趣旨ヲ叙述シ政府軍隊警察等現時我
國ノ統治機關ハ富者ノ爲メニ籠絡セラレ其ノ使役スル所ト
ナリ貧者タル多數ノ人民ハ常ニ富者ノ爲メニ壓抑迫害セラ
レテ其ノ富ヲ致スノ器械ニ使用セラレ、ノ究境ニ在ルモ此
等統治機關ハ何等ノ保護ヲ與フルモノニアラサレハ貧者ハ

自ラ起テ富者ニ對シ不穩ノ反抗ヲ爲スヘキコトヲ慫慂煽動
シタルノ所爲ハ現時ノ制度ヲ無視シ社會ノ秩序ヲ壞亂スル
者ニシテ新聞條例第三十三條ノ犯罪ヲ構成ス

說明

本件ハ昨年九月ニ起リタル有名ナル市内電車賃値上反對運動ノ激文ニ係ル市
民ニ最モ利害ノ關係深キ電車賃値上ニ關シ當時我カ東都二百萬民衆ノ聲ハ如
何ニ叫ケハレ而メ又々如何ニ響キシカハ已ニ天下公論ノ認ムル所而モ已ニ過去
ノ歴史ニ葬ラレ今ニ於テ之ヲ言議スルノ要ナシ然レモ吾人ハ今此ノ判決ニ遭遇
スルニ當リ想ヲ當時ノ壯觀ニ馳スルモハ感慨更ラニ新ナルヲ覺也若シ夫レ本件
ニ對スル法律問題ノ解決ニ至テハ判文ノ説ク所明晰ニシテ又々遺憾アルナシ唯
事ノ重大ニシテ且ツ有名ナルカ故ニ一言所感ヲ附シテ之ヲ後世ニ傳フル所以ナリ

(參照) 會社ノ秩序又ハ風俗ヲ擾亂スル事項ヲ記載シタルトキハ發行人編輯人チ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十回以上三

百圓以下ノ罰金ニ處ス(明治二十年勅令第七十五號新聞條例第二十三條)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 山口 義三

右新聞條例違反被告事件ニ付キ明治三十九年十二月十八日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對

新聞條例第三十三條ノ適用

シ原院檢察長富倉勇三郎ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決
スルコト左ノ如シ

上告趣意書ハ原判決ハ被告人カ編輯發行スル光ナル雜誌ノ號外紙上ニ掲載シタル貧富ノ戰爭ト題
スル文章ハ其主眼トスル所貧者ヲ喚起シテ富者ニ對シ生存競争ヲ爲スコトヲ勸告スルニ過キサ
ル趣旨ナリト説明シ此記事ハ社會ノ秩序ヲ擾亂スル程度ニ至ラサルヲ以テ罪ヲ構成セスト認メタリ
然レトモ原判決ノ摘示スル記事ノ趣旨ヲ擲ムトキハ決シテ原判決ノ説明スル所ニ止マラサルヲ知
ルヲ得ヘシ其記載事項中今ノ世ハ金持ノ世ナリ政府モ金持ノ味方ナリ警察モ軍隊モ金持ノ味方ナ
リト叙述スル文詞ハ現時ノ社會ハ金持ナル階級ニ屬スル者ノ支配ノ下ニ置カレ統治ノ機關ハ其實
力ヲ施スニ由ナク富者ノ使役スル所トナルトノ趣旨ヲ包含シ又貧乏ナル多數ノ人民ハ政府ト警察
ト軍隊トノ下ニ在リテ常ニ此金持ノ爲メニ金儲ノ道具ニ使ハレ居レリ心アル人民ハ一日モ早ク其
眠レル目ヲ醒シテ此ノ大敵ト戰フノ覺悟ヲ爲サ、ルヘカヘスト論定スル中ニ於テ貧者ナル社會ノ
階級ニハ統治機關ノ保護ナク富者ノ爲メニ壓伏セラレ富者ノ道具タルニ過キササルヲ以テ貧者ノ階
級ニアル者ハ富者ノ階級ニアル者ニ對シ抗敵ス、シト挑發スルノ意ヲ有ス以上ノ前後兩段ニ於ケ
ル文詞中ノ趣意ヲ綜合スレハ統治機關ノ作用普及セス其行動ハ富者ノ羈束スル所トナルカ如キ狀
況ノ下ニ於テ貧者ノ階級ニアル多數人ハ富者ニ對シ反抗スヘシト云フニアルヲ以テ法律ノ支
配スル下ニ於テ整然動カスヘカラサル社會ノ階級ヲ貧富ニ二分シ貧者ヲシテ法律ノ支配ヲ
無視シ富者ヲ攻撃セシムルノ方法ヲ以テ社會ノ秩序ヲ擾亂セシムルモノト謂ハサルヘカラス故

ニ原判決カ新聞紙條例第三十三條ヲ適用セサルハ擬律ノ錯誤ナリト思料スト云フニ在リ○依テ審
按スルニ本件ニ付キ原判決ノ認メタル事實ニ依レハ被告ハ定時刊行雜誌光ノ發行兼編輯人トシテ
明治三十九年九月二十四日發行光號外紙上ニ於テ貧富ノ戰爭ト題シ電車値上反對運動ハ遂ニ市民
ノ敗北トナレリト説キ起シ次ニ今ノ世ハ金持ノ世ナリ政府モ金持ノ味方ナリ警察モ軍隊モ金持ノ
味方ナリトノ趣旨ヲ叙述シタル後貧乏ナル多數ノ人民ハ政府ト警察ト軍隊トノ下ニアリテ常ニ此
金持ノ爲メニ金儲ノ道具ニ使ハレ居レリ心アル人民ハ一日モ早ク其眠レル目ヲ醒シテ此ノ大敵ト
戰フ覺悟ヲ爲サ、ル可カラスト論述シ尙終ニ臨ミ此貧富ノ戰爭ニ就テ更ニ知ル所アラント欲スル
人々ハ速ニ我社會主義ニ來レト附言シタル一編ノ文章ヲ掲載シテ之ヲ發行シタルモノニシテ右論
文中ニ大敵ト戰フノ覺悟又ハ貧富ノ戰爭云々トアルハ武力ニ訴ヘテ勝敗ヲ爭フノ意ニ非サルヤ固
ヨリ明カナリト雖モ全編ノ趣旨ヲ綜合スレハ政府軍隊警察等現時我國ノ統治機關ハ富者ノ爲メニ
籠絡セラレテ其使役スル所トナリ貧者ナル多數ノ人民ハ常ニ富者ノ爲メニ壓迫害セラレテ徒ラ
ニ其富ヲ致スノ器械ニ使用セラレ、ノ究境ニ在ルモ此等統治機關ハ貧者ノ爲メ何等ノ保護ヲ與フ
ルモノニ非サレハ到底頼ムニ足ラサルヲ以テ貧者ハ須ク自ラ起テ富者ニ對シ不穩ノ反抗ヲ爲スヘ
キコトヲ德源煽動シタルモノニシテ原判決ノ説明スルカ如ク單ニ貧者ヲ喚起シ富者ニ對シテ生存
競争ヲ爲スヘキコトヲ勸告シタルモノト解スヘカラス如上ノ論文タル即チ現時ノ制度ヲ無視シ社
會ノ秩序ヲ擾亂スルモノナルヲ以テ被告ニ對シテハ明治二十年勅令第七十五號新聞紙條例第三十
三條ニ依リ處斷スヘキモノトス然ルニ原判決ハ爰ニ出テス無罪ヲ言渡シタルハ失當ニシテ原院檢

新聞條例第三十三條ノ適用

事長ノ上告ハ其ノ理由アルモノトス

●往來妨害事件

明治四十年(レ)第八一號
明治四十年二月十九日宣告

(棄却)

判決要旨

一、刑法第六十二條ニ所謂道路トハ必スシモ國縣村ノ道路ノ
ミニ限ラス苟クモ公衆ノ往來ニ供シタルモノハ總テ之ニ包
含ス

(參照) 道路橋梁河溝溝埠ヲ損壞シテ往來ヲ妨害シタル者ハ二年以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附
加ス(刑法第百
六十二條)

第一審 富山地方裁判所 第二審 名古屋控訴院
被告人 岩城彌三郎

右往來妨害被告事件ニ付明治三十九年十二月二十六日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法
トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如
シ

上告趣意書ハ原院ハ刑法第六十二條ヲ以テ耕作ニ便スル道路ヲモ包含スルモノトシテ被告ヲ有
罪ト判決シタルハ擬律ノ錯誤ナリ何者同條ニ道路トハ國縣村道ノ如キ公然往來ニ供シタル道路ヲ

指シタルモノニシテ本件ノ如キ耕作道マテ包含スルモノニ非スト云フニ在レトモ○刑法第百六十
二條ニ所謂道路トハ必スシモ國縣村道ノミニ限ラス苟クモ公衆ノ往來ニ供シタルモノハ總テ之ニ包
含スルモノトス而シテ本件道路ハ耕作ニ便スルモノナリトハ原判決ノ認メサル所ニシテ其認定事
實ニ依レハ被告ハ富山縣中新川郡西加積村大字上島村ヨリ同村大字有金村ニ通スル道路ニ架設シ
アリタル數ヶ所ノ橋板ヲ取外シ以テ公衆ノ往來ヲ妨害シタルモノナレハ刑法第六十二條ノ犯罪
ヲ構成スルヤ論ヲ俟タス故ニ本論旨ハ上告ノ理由ナシ

●私書偽造行使詐欺取財事件

明治三十九年(レ)第一二六二號
明治四十年二月二十一日宣告

(棄却)

判決要旨

一、受託者カ受寄物ヲ費消シタル後詐術ヲ施シタル場合ニ於テ
ハ詐欺ノ意思カ費消前ニ發シタルト否トヲ問ハス詐欺ノ所
爲アル受寄物費消罪ヲ構成ス而シテ其犯罪ハ費消ノ時ニ於
テ成立スルモノトス

一、後見人カ被後見人ノ財産ヲ費消シ親族會ニ虛偽ノ報告ヲ爲

詐欺ノ所爲アル受寄物費消罪ノ構成

事長ノ上告ハ其ノ理由アルモノトス

●往來妨害事件

明治四十年(レ)第八一號
明治四十年二月十九日宣告

(棄却)

判決要旨

一、刑法第六十二條ニ所謂道路トハ必スシモ國縣村ノ道路ノ
ミニ限ラス苟クモ公衆ノ往來ニ供シタルモノハ總テ之ニ包
含ス

(參照) 道路橋梁河溝港埠ヲ損壞シテ往來ヲ妨害シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附
加ス(刑法第百六十二條)

第一審 富山地方裁判所

第二審

名古屋控訴院

被告人 岩城彌三郎

右往來妨害被告事件ニ付明治三十九年十二月二十六日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法
トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如
シ

上告趣意書ハ原院ハ刑法第六十二條ヲ以テ耕作ニ便スル道路ヲモ包含スルモノトシテ被告ヲ有
罪ト判決シタルハ擬律ノ錯誤ナリ何者同條ニ道路トハ國縣村道ノ如キ公然往來ニ供シタル道路ヲ

指シタルモノニシテ本件ノ如キ耕作道マテ包含スルモノニ非スト云フニ在リトモ○刑法第百六十
二條ニ所謂道路トハ必スシモ國縣村道ノミニ限ラス苟クモ公衆ノ往來ニ供シタルモノハ總テ之ニ包
含スルモノトス而シテ本件道路ハ耕作ニ便スルモノナリトハ原判決ノ認メサル所ニシテ其認定事
實ニ依レハ被告ハ富山縣中新川郡西加積村大字上島村ヨリ同村大字有金村ニ通スル道路ニ架設シ
アリタル數ヶ所ノ橋板ヲ取外シ以テ公衆ノ往來ヲ妨害シタルモノナレハ刑法第六十二條ノ犯罪
ヲ構成スルヤ論ヲ俟タス故ニ本論旨ハ上告ノ理由ナシ

●私書偽造行使詐欺取財事件

明治三十九年(レ)第一二六二號
明治四十年二月二十一日宣告

(棄却)

判決要旨

一、受託者カ受寄物ヲ費消シタル後詐術ヲ施シタル場合ニ於テ
ハ詐欺ノ意思カ費消前ニ發シタルト否トヲ問ハス詐欺ノ所
爲アル受寄物費消罪ヲ構成ス而シテ其犯罪ハ費消ノ時ニ於
テ成立スルモノトス

一、後見人カ被後見人ノ財産ヲ費消シ親族會ニ虛偽ノ報告ヲ爲

詐欺ノ所爲アル受寄物費消罪ノ構成

シタル所爲ハ詐欺ノ所爲アル受寄物費消罪ヲ構成ス

第一審 長野地方裁判所松本支部 第二審 東京控訴院
被告人 百瀬榮助 辯護人 播磨辰治郎

右私書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治三十九年十一月二十二日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ判決スルコト左ノ如シ

辯護人播磨辰治郎上告趣意書ノ一ハ原院ハ被告榮助カ酒井宗一ノ後見人トシテ同人所有ノ金銭其他一初ノ財産ヲ保管シ居ル事實ヲ認メナカラ親族會員ヲ欺罔シテ其保管中ノ金銭ヲ騙取シタリト判定セラレタルモ被後見人ノ財産ハ法令ノ規定上後見人ノ管理ニ屬スヘキモノナルヲ以テ後見人カ其權限ニ依リ管理ノ爲メ受取り其保管中ニ在ル金銭ノ所有權ハ金銭ノ性質上ヨリスルモ其就職中ハ後見人ノ所有ニ歸屬シ被後見人ハ單ニ債權ヲ有スルニ過キサレモノトス既ニ被告榮助ハ其金銭ノ所有權ヲ取得シ居ルモノトセンカ之ヲ騙取シタリトハ其事既ニ矛盾ナリ金銭ノ騙取トハ欺罔ヲ手段トシタル他人占有ノ金銭ヲ不法ニ領有スルコトヲ意味スルモノナルヲ以テ被告ノ領有ヲ以テ騙取ナリト斷スルニハ其金錢カ他人ノ占有ニ在ル事實即チ金錢カ法令ノ規定ニ依リ後見人ニ引渡サレタルモ所有權ハ依然被後見人ニ存スル事實ヲ認メサルヘカラス然ルニ原院ハ被告カ法令上正當ニ保管シ居ル事實ヲ認メナカラ之ヲ騙取シタリト判示シタルハ不法ノ裁判ナリト云ヒ一ニハ原院ノ判示スル所ニ依レハ被告榮助ハ其保管ニ係ル被後見人酒井宗一ノ金圓ヲ騙取センコトヲ企

テ同人及被告自身カ藤森清市ヨリ借用シタル金員ノ利子合計四十一圓二十一錢七厘ノ内ヘ右宗一ノ爲メニ保管スル金圓ノ中ヨリ四十圓ヲ債權者清市ニ支拂ヒタル事實ナルニ拘ハラズ宗一ニ係ル經費ヲ記載スヘキ帳簿ヘ「四十圓藤森渡」シト記載シ恰モ四十圓全部ヲ宗一ノ爲メニ支拂ヒタルモノ、如ク虚偽ノ記載ヲ爲シ自己ノ債務ニ對スル利子合計十四圓八十錢分ノ付ケ書ヲ爲シ其虚偽ノ帳簿ヲ宗一ノ親族會員ニ示シ同會員ヲ欺罔シ其保管中ニ在ル右金圓ヲ騙取シタリト云フニ在ルモ此レ丈ケノ判示ニテハ被告カ何時ニ於テ騙取シタル者ナルヤ不明ナリ即チ騙取ノ所爲ハ被告カ其保管金銭ヲ自己ノ債務ノ辨濟ニ供シタル時ニ行ハレタリト云フニ在ルカ或ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿ヲ親族會員ニ示シテ之欺罔シタル時ニ行ハレタリト云フニ在ルヤ分明ナラス若シ前者ナリトセンカ夫レ以前未タ欺罔ノ事實ナケレハ之ヲ騙取シト云フコトヲ得サルヘク若シ後者ナリトセハ親族會員ヲ欺罔シタル後ニ於ケル取財ノ事實ナシ若シ假リニ後者ナリトセンカ親族會員ヲ欺罔シタル結果金銭ヲ取得シタル事實ヲ明示セサル可ラサルニ原院判示茲ニ出テサルハ理由ニ齟齬又ハ不備アル不法ノ裁判ナリトスト云フニ在リ○依テ原判決ヲ閱スルニ其事實理由ハ要スルニ被告カ酒井宗一ノ後見人トシテ其財産ヲ保管中其金圓ヲ騙取センコトヲ企テ藤森清市ニ對スル宗一ノ借用金ノ利子及清市ニ對スル被告自身ノ借用金ノ利子ニ充テ其宗一ニ對スル後見人ノ資格ヲ以テ保管スル金圓中ヨリ金四十圓十錢五厘ヲ明治三十七年十二月十七日清市ニ辨濟シ宗一ニ關スル經費ヲ記入スル爲メ調製シタル帳簿中仕拂ノ部ニ「金四十圓藤森渡」ト記載シ自己ノ債務ノ利子トシテ支拂ヒタル十四圓八十錢ヲ宗一ノ債務ノ利子トシテ支拂ヒタル如ク虚偽ノ記載ヲ爲シ明治三

詐欺ノ所爲アル受寄物費消罪ノ構成

十八年四月中宗一宅ニ開キタル親族會ニ右帳簿ヲ提出シテ親族會員ニ示シ宗一ノ財産ニ關スル虛偽ノ收支計算ヲ報告シテ以テ親族會員ヲ欺罔シ明治三十七年十二月十七日右拾四圓八十錢ヲ騙取シタリト云フニ在リテ右金圓ハ被告ノ保管スルモノタルニ過キスシテ其所有ニ歸シタルモノナルコトハ原院ノ認定セサル所ナリ而シテ後見人カ管理行為トシテ占有スル被後見人ノ財産ハ其管理行為ノ結果トシテ後見人ノ所有ニ歸スヘキ理由ナケレハ擅ニ之ヲ費消スルトキハ刑法第三百九十五條ノ罪ヲ構成スヘキヤ明カナレハ論旨第一點ハ其理由ナシ次ニ論旨第二點ニ付キ審按スルニ原院ハ被告カ本件ノ受寄物費消前詐欺ノ手段ヲ施スノ意思ヲ生シ其費消後右手段ヲ施シタルコト及ヒ本件ノ犯罪ハ費消ノ時ニ於テ成立シタリト爲シタルコトハ原判文上明瞭ナリ而シテ刑法第三百九十五條ハ新律綱領雜犯律費用受寄財産ノ條ヲ繼受シタルモノニシテ同法ニ在リテハ他人ヨリ財物蓄産ノ寄託ヲ受ケ輕ク費用スル者ハ坐贓ヲ以テ論シ死失ト詐言スル者ハ竊盜ニ二等ヲ減シ處斷スルモノニシテ其詐言ヲ發スルハ費用ノ前ナルト後ナルトヲ問ハス又費用後詐言ヲ發シタル場合ニ於テハ其意思ノ費用ノ前ニ發シタルト後ニ發シタルトヲ問ハス等シク同條後段ノ罪ヲ構成スルモノニシテ其罪ハ費用ノ時ニ於テ成立スルモノタリシナリ而シテ刑法第三百九十五條ハ前顯新律綱領ノ規定ト法意ヲ異ニスルモノニアラスシテ唯受寄物費消前詐欺ノ手段ヲ用ヒテ之ヲ橫領シタル場合ヲ騙取ト爲シ且ツ拐帶ノ場合ヲ加ヘタルニ過キス故ニ本件被告ノ所爲ハ親族會員ニ虛偽ノ帳簿ヲ提出シタルトキニ既遂ノ程度ニ達シタルニ非スシテ被告カ其保管スル金圓ヲ費消シタル明治三十七年十二月十七日ニ於テ既遂トナリタルモノニシテ其既遂後ニ施シタル詐欺ノ所爲ハ單

純ノ受寄物費消罪ヲ詐欺ノ所爲アル受寄物費消罪ニ變セシムル條件的事實ニ過キス故ニ本件ノ犯罪ヲ以テ明治三十七年十二月十七日ノ成立トナシタル原判決ハ相當ナリトス而シテ本件ノ所爲ハ詐欺ノ所爲アル受寄物費消罪ニシテ受寄物騙取罪ニアラサルモノナルニ原院カ之ヲ騙取ナリトセラルハ穩當ナラサレトモ適用スヘキ法條ヲ異ニセサルヲ以テ原判決ニハ擬律錯誤アリト云フ能ハス

持兇器竊盜及囚徒逃走事件

明治四十年(九)第三四號
明治四十年二月二十一日宣告

(棄却)

判決要旨

一數罪俱ニ發シ一ノ重キニ從テ處斷シタル場合ニ於テ其ノ輕キ罪ニ對スル刑ノ期滿免除ハ之ヲ吸收シタル重キ罪ニ對スル刑ノ期滿免除ノ完成時期ニ至ラサレハ完成セス

第一審 佐賀地方裁判所 第二審 長崎控訴院
被告人 井上惣三郎 辯護人 米村發吉

右持兇器竊盜及囚徒逃走被告事件ニ付明治三十九年十二月十四日長崎控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ辯護人ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

辯護人米村發吉上告趣旨書ニ、本件第一審ノ缺席判決ニ基キ發シタル逮捕狀ハ明治三十年一月

數罪俱發例ノ場合ニ於ケル輕キ刑ノ期滿免除

十九日執行不能ノ理由ヲ以テ返還セラレ爾後滿七年以上經過シテ本犯就捕右缺席判決ニ對シ故障ヲ爲シタル事記録ニ徴シ明白ナリ去レハ盜罪ノ刑ハ未タ期滿免除ヲ得サルモ逃走罪ノ刑ハ既ニ期滿免除ヲ得タルモノナレハ被告ハ逃走罪ノ判決ニ對シ故障ヲ爲スヘキ餘地ヲ存セス從テ第一審裁判所ハ逃走罪ノ缺席判決ニ對スル故障ハ之ヲ却下スヘキカ當然ナルニ之ヲ受理シ更ニ審判ヲ與ヘシハ一事再理ノ不法アルモノトス因テ上告人ハ此點ニ付キテモ第一審判決ノ不當ナルヲ主張セシニ原院ハ之ヲ排斥シ全然第一審ノ判決ヲ認可セリ其理由ニ曰逃走罪ノ刑ハ盜罪ノ刑ニ吸收セラレ獨立シテ執行ヲ受クヘキノ刑存在セス故ニ逃走罪ノ刑ハ其執行ヲ遁レタル事實ナキモノニ付期滿免除ノ完成スヘキ謂レナシト箇ハ第一自家撞着タルヲ免レス抑累犯處分ニ付テハ吸罪主義アリ吸刑主義アリ我刑法ニハ吸刑主義ヲ採用セシコト學說判例共ニ一定シテ疑ナキ所ナリ故ニ原院カ一部吸刑主義ノ說明ヲ與ヘシハ滿足ナルモ此主義ニ從ヘハ數罪中重キニ從ヒ處斷スルモ輕キヲ不問ニ付スルニアラス重キニ併セテ執行シ輕キヲ別ニ執行セサルニ在リ果シテ然ラハ假シ獨立シテ執行スルノ刑ナキニセヨ其内容ニ於テハ執行スヘキ刑ナキニアラス從テ刑ノ執行ヲ遁レタル事實ナシト云フヲ得サルヤ勿論ナルニ原院ノ說明前述ノ如クナルハ蓋シ吸刑吸罪ノ二主義ヲ混同セルモノナルヘシ是レ自家撞着ナリト云フ所以ナリ若シ其本件ノ如キ事實アリテ盜罪ハ犯證十分ナラサル爲メ無罪ヲ言渡サル、ルヲ得サル場合逃走罪ニ付テハ未タ期滿免除ヲ得スト爲シ刑ノ言渡ラ爲シ得ヘキヤ否ヤニ想到スルニ原院カ見解ヲ誤レル事明白ナルヘシ故ニ判決ハ累犯處分ノ法則ヲ不當ニ適用シ其結果一事再理ノ不法ニ陷リタルモノトスト云ヒ且附言トシテ此第二上告點ニ付

テハ結局利益ナキ上訴ナリト論スルモノナキニアラスト雖モ上告人ノ見解ニシテ誤リナカラシカ原院ニ於テ被告ノ控訴ハ理由アルコト、爲ルニ付假令盜罪ニ付刑ヲ受クルモ拘留日數ヲ其刑期ニ加算セラル、ノ利益アルノミナラス刑吸主義ニ從ヘハ滿期免除ヲ得タル刑ノ分量丈ケハ重キ刑ヨリ輕減セラルヘキカ當然ナリト信ス故ニ利益ナキ上訴ニアラスト云フニ在リ○依テ按スルニ數罪俱ニ發シ一ノ重キニ從テ處斷シタル場合ニ於テ其刑ハ唯リ最モ重キ一罪ニ對シテノミ之ヲ科スルニアラス即チ罪ノ重キモノト輕キモノトヲ問ハス俱發シタル數罪ノ全體ニ對シ其最モ重キ罪ニ當行スヘキ刑ト同一ノ刑ヲ科スルモノタルニ外ナラスシテ畢竟之ニ依リ輕キ罪ノ刑ハ重キ罪ノ刑ニ吸收セラル、者ナレハ其所謂輕キ罪ノ刑ハ獨立シテ執行ノ目的ト爲ルヘキモノニアラス其刑ニシテ獨立シテ執行ノ目的ト爲ルヘキ者ニアラストセハ獨立シテ之レカ執行ヲ遁レ得ヘキ謂レナク從テ其刑ノ滿期免除カ獨立シテ完成スヘキ理由モ亦之レナキコト辯ヲ俟タス之ヲ要スルニ數罪俱ニ發シ一ノ重キニ從テ處斷シタル場合ニ在リテ輕キ罪ニ對スル刑ノ期滿免除ハ其之ヲ吸收シタル最モ重キ罪ニ對スル刑ノ期滿免除ノ完成スル時期ニ於テ完成スルモノトス今本件ノ記錄ニ依レハ佐賀地方裁判所ニ於テ被告ニ對スル持兇器竊盜及囚徒逃走被告事件ニ付明治二十九年十一月十四日被告關席ノ儘審理ノ上被告ハ外一名ノ者ト共謀シ一乃至四ノ持兇器竊盜罪ヲ犯シタル外仍ホ未決囚徒逃走罪ヲモ犯シタル者ト認メラレ數罪俱發ノ例ニ依リ一ノ重キ第四ノ持兇器竊盜罪ニ從ヒ輕懲役八年ニ處スルノ判決言渡ヲ受ケ爾來輕罪ノ刑ノ期滿免除ヲ得ルニ必要ナル法定年數タル七年以上刑ノ執行ヲ遁レ來リタル事跡アリト雖モ右關席判決ノ認メタル數罪中輕キ罪ノ刑即チ囚徒逃

數罪俱發例ノ場合ニ於ケル輕キ刑ノ期滿免除

カ爲メ也從テ之ヲ蒐集スルノ手續如何ニ違法ヲ極ムルモ物ニ固着セル證據力ハ爲メニ何等ノ影響ヲ受クヘキモノニアラス之レ本判決ノ存スル所以ナリ矣
我カ刑事訴訟法上斷罪ノ資料タル證據ニ付キ人爲的證據ト物件的證據トヲ認メ而シテ二者ノ間ニ以上ノ相違ヲ認ムルハ刑事訴訟法ノ應用ニ付キ最モ必要ノ觀念ナレハ茲ニ一言ヲ附加シテ讀者ノ注意ヲ促ス所以ナリ

第一審 秋田地方裁判所 第二審 宮城控訴院
公訴私訴上告人 大川 作治 辯護人 普賢寺 敏吉

私訴被上告人 杉原丈太郎

右森林法違犯事件竝ニ附帶私訴ニ付明治四十年一月十八日宮城控訴院カ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
辯護人普賢寺敏吉公訴上告趣意擴張書第一點ハ原判決ハ法律ニ背キ事實ヲ確定シタル不法アルモノナリ原判決ハ其證據說明第四ニ「右木材ニ被告カ常用セル極印ノ打入レアルモノ存スルコトハ被告カ當法廷ニ於テ自己常用ノ者ナルコトヲ認メタル押収ノ極印ノ印面ト黑澤川筋ヨリ領置シタル木材ノ一部ニ打入レアル印影トハ相一致スルモノナルコトヲ認メ得ルニ依リ明白ナルヲ以テ云々」ト判示シ公判ニ號證即チ原院ノ證據決定ニ依リ受託判事佐久間惟喜カ黑澤川筋ニ於テ檢證ヲ行ヒ因テ蒐集シタル木材ノ一部ニ打入レアル印影ヲ罪證ニ供シタリ然レトモ判事佐久間惟喜ハ本件豫審終結決定書ニ顯ハシタルカ如ク本件豫審ニ干與シタルコトアルヲ以テ刑事訴訟法第四十條ニ依

リ公判ニ於テ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキモノナレハ該判事ノ檢證ハ無効ナルニ原判決該證據ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シ前顯ノ如ク之ヲ認定シタルハ法律ニ背キ不當ニ事實ヲ確定シタルモノト謂ハサルヲ得ス或ハ謂ハン該判事ノ檢證手續ハ無効ナルモ因テ領置シタル極印アル木材ノ一部ハ證據タルノ效ヲ失ハスト然レトモ該判事ノ行爲ハ明治三十九年十二月十五日ノ原院ノ囑託ニ基クモノニシテ其職務ハ黑澤川ニ臨ミ其地ニ散在スル木材十六本ニ付⑤號ノ極印ノ打入レアルヤヲ點檢シ打入レアル極印ハ皆同一ナルヤヲ檢定シ同一ナレハ其内文字ノ明白ナルモノ一箇ヲ撰ミ極印ノ部分ヲ截切スルニアリテ本件ニ於テハ判事ノ檢證カ證據ノ基礎ヲ爲スモノナレハ其原由タル檢證手續ニシテ無効ナルニ其結果タル證據ノ有效ナルヘキ理アラサルナリト云フニ在リ○依テ審按スルニ刑事訴訟法第四十條ノ規定ニ依レハ豫審終結ノ決定ヲ爲シタル判事ハ其事件ノ公判手續ニ於テハ全然職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキモノニシテ審理及ヒ判決ハ勿論其他一切ノ手續ニ干與スルコトヲ得サルモノトス然ルニ本件ノ豫審終結決定ヲ爲シタルハ判事佐久間惟喜ニシテ原院ノ公判手續中受託判事トシテ檢證ヲ爲シ證據物件タル杉丸太ニ極印ノ打入シアルヤ否ヤ又其極印ハ總テ同一ナルヤ否ヤヲ審査シ其極印打入シアル部分ヲ切取り領置シテ之ヲ原院ニ送付シタルモ亦同判事ナルコト記録上明白ニシテ同判事ハ公判手續中受託判事トシテモ斯ノ如キ證據蒐集ノ處分ヲ爲スコトヲ得サルモノナレハ其處分ハ法律上無効ニ歸シ之ニ依リテ得タル證據ハ其自體ニ於テ獨立ノ證據力ヲ具有スル證據物件タラサル限リハ法律上證據タルノ效ナキモノト謂ハサルヘカラス而シテ原院カ所論ノ如ク本件ノ罪證ニ供シタル右受託判事ノ送致ニ係ル證據物件ハ獨立シテ證

刑事訴訟法第四十條ノ適用○豫審判事ノ公判干與

據力ヲ有スルモノニ非スシテ受託判事ノ檢證處分ト其判斷トヲ俟テ始メテ證據タルヲ得ヘキモノ
ナレハ該判事ノ處分ニシテ不法ナル以上ハ右物件ノミヲ以テ有效ノ證據ト爲スコトヲ得ス左レハ
原公訴判決ハ採證ノ點ニ於テ不法アリ全部ノ破毀ヲ免レサルモノニシテ本論旨ハ理由アリ依テ他
ノ公訴判決ニ對スル上告論旨ニ付テハ説明ヲ與フルノ要ナシ

●詐欺取財事件

明治四十年(レ)第八二號
明治四十年二月二十一日判決 (棄却)

判決要旨

一、詐欺取財ノ爲メニ施ス欺罔ノ手段ニ付テハ法律ニ何等限定
スル所ナケレハ必スシモ特ニ詭計詐術ヲ用ユルコトヲ要セ
ス單ニ言語又ハ舉動ヲ以テシタルトキト雖モ苟モ人ヲシテ
錯誤ニ陷ラシムルニ足ルヘキ手段ヲ用ユルニ於テハ之ヲ以
テ欺罔ノ所爲ト爲スヲ妨ケス
一、相手方カ自ラ錯誤ニ陷ル地位ニ在ルニ乘シ欺罔ヲ施スハ勿
論自ラ陷リタル錯誤ノ覺醒ヲ妨ケンカ爲メニ欺罔手段ヲ施

シ以テ財物ヲ交附セシメタル者モ亦タ詐欺取財罪ヲ構成ス
一、代金引換小包郵便物ノ受取方ノ通知書ニ記載スル金額カ八
拾壹圓八十五錢ナルモ「八拾」ノ二字カ恰モ「金」ノ字ニ誤讀セラ
ルルノ書體ナルヲ奇貨トシ右通知書ニ單ニ一圓八十五錢ヲ
添へ受取方ヲ申出テ局員ヲシテ八拾壹圓八十五錢ヲ金壹圓
八十五錢ト誤讀セシメ其ノ郵便物ヲ交附セシメタル所爲ハ
詐欺取財罪ヲ構成ス

第一審 長崎地方裁判所

第二審 長崎控訴院

被告人 陳 天贈

右詐欺取財被告事件ニ付明治三十九年十二月二十六日長崎控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法ト
シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
上告趣意ハ第一刑法第三百九十條第一項ニハ人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若ハ證書類ヲ騙取シタ
ル者云々トアリ故ニ詐欺取財罪構成ノ要素トシテ欺罔ノ手段即チ一定ノ詭計ヲ施ス事ヲ要シ其詭
計即チ不正ノ策略ハ相當ノ注意ヲ用ルモ其虛偽タルコトヲ發見スルヲ得サル詐謀タラサル可ラサル
事竝ニ人ヲ錯誤ニ陷ラシムル爲ニ虛偽ノ事實ヲ表示スル働作ナカル可ラサル事又タ其欺罔ノ結果

欺罔ノ手段

被害者ニ錯誤ヲ生セシムル事即チ欺罔ト錯誤トハ因果ノ關係アルヲ要スル事ハ多數刑法學者ノ議論之ニ一致シ殆ント反對ノ意見ヲ懷ク者ナキノミナラス御院從來ノ判例モ亦タ之ヲ是認セラル、所ナレハ其然ル所以ニ就テ更ニ多辯ヲ弄スル要ナシト信ス然ルニ本件ニ對スル原院ノ認定事實ヲ閱スルニ上告人ハ長崎郵便局ヨリ送達シタル代金引換小包郵便物受取方ノ通知書中金額八十一圓八十五錢ノ上部ノ八拾ノ文字ヲ金ノ字ニ誤讀セラル、疑アルニ因リ雇人余春林ヲシテ該通知書ニ金一圓八十五錢ヲ添ヘテ同郵便局ニ提出セシメタルニ同局員ハ上告人豫想ノ如ク其金額ヲ一圓八十五錢ト誤讀シ且上告人代理者ノ提供シタル金額一圓八十五錢ナルヲ視テ相當ナル受取方申出ナリト誤認シ云々トアリ此事實ニ據ル時ハ原院ノ認定シタル欺罔手段即チ上告人カ實行セシメタル一定ノ詭計ハ郵便局ノ通知書ニ金一圓八十五錢ヲ添ヘテ同局ニ提供シタルノ一事ニ在リ夫此事實ヲ以テ刑法ノ所謂欺罔ノ手段ト爲スヲ得ルヤ否ヤハ專ラ解法上ノ問題ニ屬シ事實判斷ノ範圍ニ入ルヘキモノニ非ス按スルニ上告人カ虛偽ノ事實ヲ表示シタル働作ハ單ニ郵便局ノ通知書ニ金一圓八十五錢ヲ添ヘテ之ヲ提供シタルノミ之ヲ以テ一定ノ詭計即チ不正ノ策略ニシテ相當ノ注意ヲ用ルモ發見シ得サルヘキ詐謀ノ實行ト爲スヘキカ何人モ之ニ首肯シ能ハサルヘシ殊ニ被害者郵便局カ錯誤ニ陥リタル原因ハ原院カ明ニ說示シタル如ク上告人カ供提シタル金一圓八十五錢ノ數額ニ因ルニ非スシテ同局發送ノ通知書中八拾ノ文字ヲ金字ト誤讀シタルニ基クコト前摘載ノ認定事實ニ依リ明白ナルノミナラス原院カ援用セシ大坪三津男ノ聽取書ニ代金引換郵便物到着通知書ニ金一圓八十五錢ヲ添ヘ清國人カ差出シタリ其通知書ノ代金欄八十一圓八十五錢トアル上ノ八拾ヲ金

字ト誤讀シ清國人カ差出シタル一圓八十五錢ヲ領收シ云々トアルニ據ルモ郵便局員ハ先ツ通知書ヲ誤讀シタル後ニ於テ提出金額ノ相當ナルヲ認メ小包郵便物交付ノ手續ヲ爲シタルコト毫末モ疑ヲ容ルヘキ餘地ナシ然ラハ郵便局員カ錯誤ニ陥リタル原因ハ同局自ラ發送セシ通知書ヲ躬ラ誤讀セシニ職由スルモノニシテ一モ上告人ノ働作ニ關係ナケレハ假ニ上告人カ金一圓八十五錢ヲ通知書ト共ニ提供シタルヲ以テ欺罔ノ手段ト爲スモ其欺罔ト錯誤トニ就テ因果ノ關連ヲ有セサルコト亦タ明瞭ナリトス或ハ云ハン上告人ハ其價格八十一圓八十五錢ナルコトヲ知悉シナカラ其眞實ヲ告ケサリシハ即チ被害者ヲシテ錯誤ニ陥ラシメタル消極的ノ欺罔手段ナリト夫然リ知テ告ケサルハ道徳上嘉賞スヘキニ非サルモ上告人ハ法律上其眞實ヲ告白スヘキ義務ヲ負ヒシモノニアラス該代金引換小包郵便物ヲ交付スヘキ郵便局員タルモノ宜シク其金額ヲ調査シテ誤リナキヲ期スヘキナリ何ソソ受取人ノ提供セシ金額ニ因テ調査ヲ爲スヘキモノナランヤ之ヲ要スルニ原院ノ判決ハ詐欺取財罪構成ノ要素タル欺罔ノ手段ヲ缺如スル事實若クハ欺罔ト錯誤トノ因果ノ關係ナキコトヲ認メナカラ刑法第三百九十條第一項等ヲ適用シタルモノニシテ罪トナラサル事實ニ對シ刑罰ヲ科シタル不法アリト云ヒ」第二點若シ原院ハ上告人ノ代理者タル余春林カ郵便局員正木フクノ納付金高ノ尋問ニ對シ金一圓八十五錢ト答辯シタルヲ欺罔ノ手段ナリト認メタルモノトセンカ先ツ現金出納係大坪三津男ニ於テ通知書ノ金額ヲ一圓八十五錢ト誤讀シ同金高ノ假預リ證ヲ作り之ヲ檢査係リタル右正木フクニ交付シ正木フクモ亦タ其通知書ノ金額ヲ一圓八十五錢ニ誤讀シタル後ノ問答ニ係ル事ハ原院ノ認定事實竝ニ之ニ援用セシ大坪三津男正木フク等ニ對スル各聽取書ニ徵シ

明瞭ナルノミナラス余春林ハ現貨納付シタル金高ヲ以テ答辯シタルモノナレハ敢テ不實ヲ構ヘテ正木ヲクテ錯誤ニ陥ラシメタルニ非サルハ勿論却テ眞實ヲ告白シタルモノナルニ依リ之ヲ以テ詐欺ノ手段ト爲スハ最モ正鵠ヲ失シタル判決ナルハ第一點ト同一ノ不法アルヲ免レスト云フニ在レトモ○刑法第三百九十條ニハ人ヲ欺罔シ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者トアリテ欺罔ノ手段ニ關シ何等限定スル所ナケレハ或ル詭計詐術ヲ用ユルト單ニ言語又ハ行動ヲ以テシタルトニ論ナク苟モ他人ヲシテ錯誤ニ陥ラシムルニ足ルヘキ手段ヲ用ユルニ於テハ欺罔ノ所爲アルモノトス故ニ被告カ長崎郵便局員ニ對スル行働若クハ言語カ果シテ局員ノ錯誤ヲ惹起スルニ足ルモノナリトスル以上ハ前記法條ノ所謂欺罔ノ行爲アルモノトセサルヲ得ス而シテ原判決ニ認定シタル事實ニ依リ郵便局員カ通知書記載ノ金額八十一圓八十五錢ヲ一圓八十五錢ナリト誤リ郵便物ヲ被告ニ交付シタルハ果シテ被告ノ行爲ト因果ノ關係アルヤ否ヤヲ審按スルニ凡ソ相手方カ欺罔ノ手段ニ依リ全然錯誤ニ陥リタル場合ハ勿論欺罔ノ手段以外ノ理由ニ依リ相手方カ錯誤ニ陥ルヘキ地位ニ在ルニ乘テ相手方ノ錯誤ノ覺醒ヲ妨止シ遂ニ其錯誤ノ結果財物ヲ交付スルニ至ラシムルニ於テハ其財物ノ交付ト欺罔トノ因果ノ關係茲ニ完成スルヲ以テ詐欺取財ヲ成スモノトス本件ノ事實ハ長崎郵便局ヨリ被告ニ發送シタル通知書ニ正確ヲ缺ク所アリテ現金出納掛検査掛ラシテ八拾一圓八十五錢ノ「八拾」ヲ「金」ノ字ニ誤讀スルニ至ラシメタルモノニシテ其誤讀ハ被告ノ欺罔行爲ノミニ原因スルモノニアラスト雖モ原判決ニ然ルニ其通知書記載ノ金額八拾一圓八十五錢中上部ノ八拾ノ文

字ヲ諦視スレハ前記ノ金額ニ讀解セラル、モ瞥見スレハ「金」ノ字ト誤讀セルラ、疑アリ於是被告入天贈ハ郵便局員ノ誤讀ス可キコトヲ豫想シ即チ預額ノ金ヲ以テ多額ノ物品ヲ騙取センコトヲ企圖シ其翌日雇人余春林ヲ代人トシテ該通知書ニ金一圓八十五錢ヲ添ヘ右郵便局ニ提出セシメシニ現金出納掛大坪三津男ハ果シテ該通知書ヲ被告入豫想ノ如ク金一圓八十五錢ト誤讀シ且被告入ノ提供シタル金額一圓八十五錢ナリシヲ視テ相當ナル受取方申出テナリト誤認シ番號札ヲ被告代人ニ渡シ其手續ヲ了シ之ヲ検査掛正木「フク」ニ回付シ同掛員モ亦右通知書ヲ現金出納掛ト同一ノ誤讀ヲ爲シ尙式ニ從ヒ其金額ヲ被告代人ニ問ヒシニ金一圓八十五錢ナリト答ヘタルヲ以テ同掛員モ亦相當ナル受取方申出テナリト誤認シ通知書ニ代金引換濟ノ日附印ヲ押シテ被告代人ニ還付シタリ云々トアリテ郵便局員カ通知書ノ金額記載ヲ誤讀スルヲ豫想シ故ラニ金一圓八十五錢ヲ提出シテ局員ノ誤讀ト相俟テ錯誤ニ陥ラシメ且被告代人カ局員ノ問ニ對スル一圓八十五錢ナリトノ答ヲ以テ局員ノ錯誤ノ覺醒ヲ妨ケ遂ニ豫想ノ如ク錯誤ノ結果本件郵便物ヲ被告ニ交付シタルモノナリ而シテ代人ノ局員ニ對スル答ハ特ニ被告ノ命シタルモノニアラスト雖モ既ニ金一圓八十五錢ヲ以テ郵便物ヲ受取ルコトヲ命シタル以上ハ其受取ノ手續上當然爲スヘキ答ナルヲ以テ被告ハ固ヨリ此答アルコトヲ豫想シタルモノナレハ其答ニシテ欺罔ノ手段ナル以上ハ被告ハ其結果ノ責ヲ辭スルヲ得ス要スルニ本件郵便物ノ交付ト欺罔トハ因果ノ關係アルモノニシテ詐欺取財ノ罪ヲ成スモノトス故ニ原院カ本件ヲ詐欺取財ニ問擬シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ其理由ナシ

●出版法違犯事件 明治四十年(レ)第一二一號 (破毀)

判決要旨

一、第二審裁判所カ第一審裁判所ト事實ノ認定法律ノ適用ヲ異ニスル以上ハ判決主文ニ何等ノ變更ナキ場合ト雖モ尙ホ第一審判決ヲ取り消シ更ニ裁判スル所ナカル可カラズ

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院
被告人 松本幸吉 辯護人 宮崎三之助

右出版法違犯被告事件ニ付明治四十年一月二十二日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
辯護人宮崎三之助辯明書ノ第一點ハ原判決ハ法律ノ適用ニ付被告ノ行爲ハ被告ノ前科中最終ノモノニ對シテハ餘罪後發ニ係ルモ出版法第三十二條ニ依リ刑法ノ再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒサル旨ヲ判示シタルモ第一審判決ハ右餘罪後發ノ點ニ關シテハ何等法條ノ適用ヲ爲サ、リシ依テ原判決ハ第一審判決ヲ更正シ即チ法律ノ適用ヲ異ニスルニ拘ハラズ第一審判決ヲ取消サ、リシハ不法ナリト云フニ在リ○因テ按スルニ第一審判決ニ於テ被告カ明治三十九年九月二十一日東京區裁判所ニ於テ春書販賣罪ニ依リ罰金三十圓ニ處セラレタルハ本件犯罪ノ前科ナルモ出版法第三十二條ニ依リ再犯加重ヲ以テ論セサルモノト爲シタルヲ原判決ニ於テハ前示東京區裁判所ノ判決ハ明治

●私印盜用私書偽造行使詐欺取財未遂事件

明治四十年(レ)第八六號 (棄却)
明治四十年二月二十一日判決

判決要旨

一、辦濟ニ依リ已ニ消滅シタル抵當權ヲ依然存スルモノ、如クニ裝ヒ競賣ノ申立ヲ爲シタル所爲ハ裁判所カ之レニ對シ決定ヲ爲スト否トテ不問詐欺取財ノ未遂犯ヲ構成ス

說明

未遂犯ノ成立並ニ詐欺取財罪ノ未遂犯。凡ソ未遂犯ハ犯罪ノ客觀的構成要素ニ着手シタルトキヲ以テ之レカ構成時期トナス客觀的構成要素ノ如何ハ刑法第二編以下各種ノ犯罪ニ付キ之ヲ論定スルニアラスンハ之ヲ知ルコトヲ得ス
詐欺取財罪ノ構成ニ必要ナル客觀的要件ハ欺罔若クハ恐喝ノ所爲ト財物ヲ騙取

未遂犯ノ成立○詐欺取財ノ未遂犯

欺◎陳◎手◎之◎片◎隔◎ト◎ニ◎對◎者◎第◎ト◎ス
罔◎述◎方◎ラ◎ハ◎地◎ナ◎ス
ノ◎シ◎カ◎被◎者◎一◎欺◎罔◎
手◎若◎之◎見◎其◎者◎對◎
段◎ク◎ヲ◎ス◎ノ◎文◎問◎シ◎
ニ◎ハ◎開◎ル◎書◎テ◎行◎
付◎テ◎見◎ト◎カ◎ハ◎ハ◎
ハ◎他◎セ◎否◎相◎ハ◎
法◎ノ◎ル◎ト◎手◎方◎
律◎詐◎モ◎不◎到◎
ニ◎術◎其◎問◎也◎
於◎ヲ◎ノ◎欺◎何◎
何◎施◎罔◎的◎行◎
等◎タ◎ル◎ト◎ハ◎
限◎同◎一◎程◎
ス◎ノ◎程◎ハ◎
所◎ナ◎キ◎ニ◎
以◎テ◎達◎相◎手◎
テ◎レ◎ハ◎ナ◎
偽◎計◎詐◎術◎
用◎ヒ◎

欺◎罔◎手◎之◎片◎隔◎ト◎ニ◎對◎者◎第◎ト◎ス
罔◎述◎方◎ラ◎ハ◎地◎ナ◎ス
ノ◎シ◎カ◎被◎者◎一◎欺◎罔◎
手◎若◎之◎見◎其◎者◎對◎
段◎ク◎ヲ◎ス◎ノ◎文◎問◎シ◎
ニ◎ハ◎開◎ル◎書◎テ◎行◎
付◎テ◎見◎ト◎カ◎ハ◎ハ◎
ハ◎他◎セ◎否◎相◎ハ◎
法◎ノ◎ル◎ト◎手◎方◎
律◎詐◎モ◎不◎到◎
ニ◎術◎其◎問◎也◎
於◎ヲ◎ノ◎欺◎何◎
何◎施◎罔◎的◎行◎
等◎タ◎ル◎ト◎ハ◎
限◎同◎一◎程◎
ス◎ノ◎程◎ハ◎
所◎ナ◎キ◎ニ◎
以◎テ◎達◎相◎手◎
テ◎レ◎ハ◎ナ◎
偽◎計◎詐◎術◎
用◎ヒ◎

未遂犯ノ成立○詐欺取財ノ未遂犯

已遂犯ハ即チ此場合ニ成立シ被告ノ所爲茲ニ至ラスンハ未遂犯ヲ以テ處分セサルヲ得ス

第一審 高知地方裁判所 第二審 廣島控訴院
被告人 榑野馬之丞 辯護人 齊藤二郎

右私印盗用私書偽造行使詐欺取財未遂被告事件ニ付明治三十九年十二月二十八日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書一ハ原判決ニ於ケル本件公訴第一事實ノ認定ハ被告カ濱田源吾ニ對スル金二百圓ノ抵當附債權ハ源吾ノ債務者タル小松勝八ヨリ辨濟ヲ受ケタル結果全ク消滅シタルニ拘ハラズ借用證書カ依然被告ノ手中ニ存在セシヲ奇貨トシ源吾ヨリ金員ヲ騙取セント企テ明治三十九年四月十四日右證書ニ基キ未タ債務者源吾ヨリ辨濟ヲ受ケサルヲ理由トシ高知區裁判所ニ對シ競賣法手續ニ依リ抵當不動産ニ對シ競賣申立ヲ爲シ其手續進行中同年四月二十一日源吾ノ爲メニ告訴セラレ竟ニ其目的ヲ達セサル詐欺取財未遂犯ナリト云フニ在リ即チ競賣裁判所ノ判事ヲ錯誤ニ陷ラシメテ濱田源吾ノ不動産ヲ處分セシメ以テ金員ヲ被告ニ騙取セントシタル犯罪行爲ナリトノ斷定ニ歸ス按スルニ本案ノ如キ事例ニ於テ詐欺取財ヲ構成スルヤ否ハ申立テラレタル競賣ノ進行程度如何ノ問題ニ係ル上ニ假令不正ノ競賣申立アリタリトスルモ競賣裁判所判事カ競賣開始決定ヲ爲スカ或ハ之ヲ爲スヘク決心シタル時ニ至ル迄ノ間ハ競賣申立者ハ尙犯罪行爲ノ準備中ニ在リト云ヒ得ヘ

ク從テ此間ニ於テ自他ノ障礙ニ因リ任意又ハ不任意ニ其進行ヲ中止シ又ハ阻害セラレタル場合ハ全ク罪責ナキ行爲タルニ終ルヘシ然ルニ原院ハ本案ヲ詐欺取財未遂犯ト認定シナカラ被告ノ申立タル競賣申請ハ其如何ナル程度ニ迄進行シタリシヤヲ明認セス單ニ「手續進行中」ナル抽象的認定ヲ爲シタルニ過キササルハ明カニ罪トナルヘキ事實理由ヲ明示セサル違法アリト云ハサルヘカラス單ニ手續進行中トアルノミニテハ競賣申立書ノ提出ヨリ競賣開始決定ヲナスニ至ル迄ノ期間モ最初ノ申立書提出ノ時期ヨリ觀察スレハ又手續進行中ナリト云フヲ妨ケサル筋合ナリトス要スルニ原判決ハ上述ノ理由ニ依リ到底失當ノ裁判タルヲ免カレスト云フニ在レテ○原判決ヲ閱スルニ本件競賣ノ申立ヲ受理シタル高知區裁判所カ其開始決定ヲ爲シタル旨明カニ記載スル所ナルヲ以テ本論旨ハ原判旨ニ副ハサルノミナラス詐欺取財罪ハ人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取スルニ因リテ成立スル犯罪ナルヲ以テ犯人カ犯罪構成ノ要件タル欺罔ノ所爲ニ着手シタルトキハ即チ詐欺取財罪ノ實行ニ着手シタルモノナルヘキヲ以テ犯人カ意外ノ誤錯又ハ障礙ニ因リ其遂行ヲ妨ケラレサルトキハ詐欺取財罪ノ未遂犯ヲ構成スルコトヲ妨ケサルモノトス而シテ消滅シタル抵當權ヲ之レアルモノ、如ク裝ヒ競賣ノ申立ヲ爲スハ即チ裁判所ノ欺罔ニ着手シタルモノナルヲ以テ裁判所カ決定ヲ爲スト否トニ拘ハラズ犯罪ハ成立シ得ルニ於テオヤ故ニ本論旨ハ其理由ナシ

●著作權法違犯及附帶私訴事件

明治四十年(レ)第一五〇號
明治四十年三月十八日判決

(棄却)

判決要旨

著作權ノ享有者〇著作權ノ侵害

一、著作權ハ之ヲ登録シタルト否トヲ問ハス著作權者之ヲ享有ス之ヲ侵害シタル者ハ偽作ノ制裁ヲ不免
一、遞信省カ著作權ヲ侵害セラレタル場合ハ被害者ノ地位ニ在ルモノハ國ナレハ遞信大臣ハ國ヲ代表シ刑事訴訟法第五十四條ニ依リ偽作ノ告訴ヲ爲スコトヲ得
一、戰捷紀念ノ爲メ遞信省ノ著作シタル繪葉書ヲ模造シ發行シタル所爲ハ偽作ノ罪ヲ構成ス

(參照) 本章ニ規定シタル罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス但シ第三十八條ノ場合ニ於テ著作權者ノ死亡シタルトキ並第四十條乃至第四十二條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス(著作權法第四十條)

告訴發ハ代人ニ委任シテ之ヲ爲スコトヲ得但第五十二條ノ場合ハ此限ニ在ラス(刑事訴訟法第五十四條第一項)

(參照) 文書演述圖畫彫刻模型寫真其ノ他文藝學術若ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作權ハ其ノ著作物ヲ複製スルノ權利ヲ專有ス(著作權法第一條第一項)

一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

公訴上告人 小西 乙吉 辯護人 花井 卓藏
外三名

公訴私訴上告人 筒井九郎右衛門
國代著者遺族大臣

私訴被上告人 山縣伊三郎 代理人 野村 徳

右著作權法違反及之ニ附帶スル私訴事件ニ付明治四十年一月三十一日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ各被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告第二點ハ原審ニ於ケル花井辯護人ハ第一回公判ノ際野村徳ヨリ提出セル告訴狀ハ不適式ナルカ故ニ著作權法第四十四條ノ條件ヲ具備セサルヲ理由トシテ公訴不受理ノ申立ヲ爲シ更ニ第二回ノ公判ニ於テ(一)告訴ニ係ラサルモノ(二)遞信省ハ著作權ノ登録ヲ爲サ、ルモノ故法律上保護スヘキモノニ非スト申立テ公訴不受理ノ理由ヲ追加シタルコト原院公判始末書ノ明記スル所ナリ然ルニ原判決ハ理由ノ冒頭ニ花井辯護人カ第一回ノ公判ニ於テ申立タル公訴不受理ノ理由ヲ記載シ之ニ對スル説明ノ最後ニ「辯護人ノ公訴不受理ノ理由トスル前掲ノ論旨ハ採用セス」ト記載セルニ止マルカ故ニ第二回公判ニ於テ追加シタル公訴不受理ノ理由ニ對シテハ説明ヲ與ヘサルコト寔ニ明白ナリト是故ニ原判決ハ後ノ理由ニ基ク公訴不受理ノ申立ニ對シ何等ノ裁判ヲ爲サ、ルモノニシテ法則ニ背反スル不法アルモノト信スト云フニ在リ○依テ訴訟記録ヲ查スルニ原院第二回公判始末書ニ「辯護人ハ公訴不受理ノ申立ニ付キ尙ホ二箇ノ理由ヲ申立第二ハ本件ハ告訴ニ係ラサルモノ第三ハ遞信省ハ著作權ノ登録ヲ爲サ、ルモノ故法律上保護スヘキモノニアラスト

著作權ノ享有○著作權ノ侵害

ノ點ヲ追加スルトアリテ公訴不受理ノ申立ノ理由トシテ右二點ノ追加ヲ爲シタルコトハ所論ノ如シ而シテ原判決ノ冒頭ニ於テ遞信大臣ノ代理委任狀ニヨリ野村徳ノ爲シタル告訴ハ法律上有效ニシテ告訴ヲ告發ト誤記シタルモノアルモ告訴タルノ效力ニ妨ケナキ旨ヲ說示シアレハ原院カ本件ニハ正當ノ告訴アリトシテ公訴不受理ノ申立ヲ却下シタル判旨ハ明瞭ナリト雖モ遞信省カ著作権ノ登錄ヲ爲サ、ルヲ以テ法律上保護スヘキモノニアラストノ理由ニ對シテハ原判決ニ於テ公訴不受理ノ申立ヲ却下スルノ理由トシテ一モ說示スル所ナシ但シ原判決ノ證據說明ノ部ニ於テ遞信省カ著作権ヲ有スルコトニ付證據ヲ掲ケテ說明スル所アルモ個ハ本案事實ニ關スル說明ニシテ本案前ノ判決即公訴不受理ノ申立ヲ却下シタル判決ノ理由ニアラサレハ結局原院ハ右ノ理由ニ對シテハ判示ヲ遺脱シタルノ失當ヲ免カレサルモノト謂ハサルヲ得ス然レトモ公訴不受理ナル訴其物ニ對シテハ却下ノ判決ヲ與ヘアルヲ以テ右ノ遺脱ヲ以テ訴ヲ受ケタル事件ヲ判決セサルノ違法アリトスルヲ得ス要スルニ其遺脱ハ一箇ノ訴ノ基ク數箇ノ理由ノ一ニ對シ説明ヲ缺如シタリト云フニ過キス若シ夫レ其説明ヲ遺脱シタル事項カ原院ニ於テ未タ確定セラレサル事實ニシテ之ヲ確定セサレハ上告裁判所ハ理由ノ當否ヲ判斷スルニ由ナキ場合又ハ事實既ニ確定シ公訴不受理ノ理由トナルヘキモノナル場合ニ於テハ或ハ原判決ヲ破毀シテ更ニ事實ノ審理ヲ爲サシメ又ハ本院ニ於テ直チニ公訴不受理ヲ言渡スヘキモノナルモ本件ニ付テハ原判決ヲ破毀スルノ要ナシ何トナレハ遞信省カ著作権ヲ有スルコトハ原判決ニ確認スル所ナルノミナラス著作権法第十五條ニ依レハ登錄ハ民事訴訟ヲ提起シ及著作権ノ讓渡質入ヲ以テ第三者ニ對抗スルノ條件ニシテ著作權ノ

享有ハ登錄ノ有無ヲ以テ左右セラル、モノニアラサレハ遞信省カ登錄ヲ爲サ、レハトテ著作權ヲ有セサルニアラサレハ其著作權ヲ侵害シタル者ニ在リテハ僞作ノ制裁ヲ受クヘキハ當然ナルノミナラス辯護人ノ主張スル理由ハ本案ノ抗辯ニシテ公訴不受理ノ原由トナルモノニアラサルコト明カナレハナリ依テ原判決ニハ理由ノ說示ニ不完全ノ點アリト雖モ之ヲ以テ原判決ヲ破毀スルノ理由トナスニ足ラス
上告第四點ハ僞作ハ著作権法第四十四條ニ依リ被害者ノ告訴ヲ俟テ其罪ヲ論スヘキ案件ナリ而シテ本件ノ告訴ハ國ノ代表ニ關スル法令ニ基カサル代理委任ニヨリ野村徳ナルモノ、告訴ニ係リ適法ニアラス從テ著作権法第四十四條ノ要件ヲ具備セサルモノナリ乃チ爰ノ點ニ於テ公訴不受理ノ言渡ヲナスヘキニ原院ノ判旨此ニ出テサルハ不法ナリト云フニ在レトモ官廳ノ著作權ヲ有スル著作物ニ付僞作者ニ對シテ爲スヘキ告訴ニ付テハ民事訴訟ニ關スル明治二十五年一月勅令第六號ノ如キ特別ノ法令アルコトナシ而シテ遞信省ノ有スル著作權侵害ノ場合ニ於テ著作權法第四十四條ノ被害者ノ位地ニ在ルモノハ國ニシテ其國ヲ代表スルモノハ遞信省所管ノ事務ヲ監督スル遞信大臣ナルコトハ官制上自カラ明白ナリ然ラハ遞信大臣ハ遞信省ノ著作權ヲ有スル繪葉書ニ對スル僞作ヲ告訴スルノ權ヲ有シ告訴ハ刑事訴訟法第五十四條ニ依リ代理人ニ委任シテ之ヲ爲スコトヲ得ルモノナレハ遞信大臣ハ何人ニモ告訴ノ代理ヲ委任スルコトヲ得ヘシ故ニ本件ニ付遞信大臣山縣伊三郎カ野村徳ニ告訴ノ代理ヲ委任シ其代理權ニ基キ野村徳ノ爲シタル告訴ハ法律上有效ニシテ第一第二審裁判所カ其告訴ニ基キ提起シタル公訴ニ依リ本件ヲ受理審判シタルハ相當ニシテ上

著作權ノ享有○著作權ノ侵害

告諭旨ハ其理由ナシ

上告第五點ハ著作權法ハ文書、圖畫、彫刻、模型、寫真其他文藝學術若クハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ニ對スル著作權者ノ複製權利ヲ保護スル法律ナリ而シテ原判決ハ前記ノ中其何種ノ著作物ヲ偽作シタルヤノ事實ヲ示サ、ルハ理由不備ノ裁判ナリ(著作權法第一條第二十五條第二十二條參照)ト云フニ在レトモ○原判決ニ認定シタル所ニ依レハ本件ノ偽作ニ係ルモノハ觀艦式陸軍凱旋觀兵式伊勢太廟靖國神社ノ圖我艦隊主力敵艦ニ向フ圖我主力艦隊敵艦遠擊ノ圖敵艦捕獲ノ圖東京郵便電信局ト郵便發着所ノ圖等人又ハ物ノ形象ヲ描寫シタル繪葉書ニシテ著作權法第一條ノ所謂圖畫ナルコト明カナレハ事實理由ノ不備アルコトナシトス

●故殺未遂事件

明治四十年(れ)第九八號
明治四十年二月二十一日宣告

(破毀)

判決要旨

一、豫審判事カ輕罪公判ニ付スルノ決定ヲ爲シタル事件ト雖モ第一審裁判所ニ於テ檢事ヨリ更ニ之ヲ重罪ナリトシテ訴追シタル以上ハ其事件ハ爾後重罪事件トシテ裁判所ニ繫屬ス從テ第一審裁判所カ被告人ノ所爲ヲ輕罪ナリト判決スルモ

第二審裁判所ハ尙ホ之ヲ重罪事件トシテ取調ヘサルヘカラ

第一審 長野地方裁判所

第二審 東京控訴院

被告人 三村 黎一

辯護人

志賀和多利

右故殺未遂被告事件ニ付明治四十年一月十五日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ辯護人志賀和多利ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書ハ本件ハ故殺未遂トシテ起訴セラレ豫審ニ於テ輕罪公判ニ付スル決定ヲ受ケ更ニ第一審公判ニ於テ重罪事件トシテ訴追セラレ而シテ判決ニ於テ歐打創傷罪ト認メラレ其刑ノ言渡ヲ受ケタルモノナリ故ニ本件ハ重罪事件トシテ原審ニ繫屬セルモノナルコト一點疑フヘキヲ見ス然ラハ刑事訴訟法第二百五十八條第一項第二百三十七條ノ規定ニ從ヒ被告人訊問ノ手續ヲ爲サ、ルヘカラサルニ之ヲ闕如シタル原審裁判ハ重要ナル訴訟手續ニ違背シタル不法アリト云フニ在リ○依テ本件ノ記録ヲ査スルニ檢事ハ本件ニ付故殺未遂ノ罪名ヲ以テ起訴シタルニ豫審判事ハ被告ノ所爲ヲ刑法第三百一條第一項第三百二條ニ該當スル歐打創傷罪ナリトシ本件ヲ長野地方裁判所松本支部ノ輕罪公判ニ付スルノ豫審終結決定ヲ爲シ而シテ本件ヲ受理シタル松本支部ニ於テ審理ノ際立會檢事ハ本件ヲ故殺未遂トシテ起訴スル旨ノ訴追申立ヲ爲シタルヲ以テ同支部ニ於テ之ヲ長野

地方裁判所ニ移ス旨ヲ言渡シタル結果同地方裁判所ニ於テ本件ヲ重罪事件トシテ取調ヘタル未被告ノ所爲ハ刑法第三百一條第一項ニ該當スルモノトシ輕罪ノ刑ニ處シ本件ノ控訴ヲ受ケタル原院ニ於テハ重罪事件ニ關スル手續ヲ爲サスシテ審判ヲ了シタルモノナリ依テ按スルニ豫審判事ニ於テ輕罪公判ニ付スルノ決定ヲ爲シタル事件ト雖モ之ヲ受ケタル第一審裁判所ニ於テ其事件ヲ重罪ナリトスルトキ又ハ檢事ヨリ更ニ其事件ヲ重罪ナリトシテ訴追スルコトノ申立アリタルトキハ其事件ハ重罪事件トシテ裁判所ニ繫屬シタルモノナレハ第一審裁判所ニ於テ審理ノ未被告人ノ所爲ヲ輕罪ナリトシテ判決シタル場合ト雖モ其事件ハ依然重罪事件トシテ存スルモノナルヲ以テ其事件ニ付控訴ヲ受ケタル第二審裁判所ハ第一審裁判所ト同シク重罪事件トシテ取調ヲ爲サハルヘカラス故ニ本件ハ豫審ニ於テ輕罪公判ニ付シ又第一審裁判所ニ於テ被告ノ所爲ヲ輕罪ナリト判決シタルニ拘ラス第一審裁判所ニ於テ檢事力之ヲ重罪トシテ訴追シタルモノナル以上ハ原院ニ於テモ之ヲ重罪事件トシ刑事訴訟法第二百二十七條第二百五十八條ニ從ヒ下調ノ手續ヲ履行セサルヘカラサルモノナルニ事茲ニ出テスシテ直ニ審判ヲ爲シタルハ重要ナル訴訟手續ニ違背シタルモノニシテ其結果公判手續ノ無效ヲ來タスト同時ニ其手續ニ基キ言渡シタル判決モ亦違法ニ歸スルモノナレハ原判決ハ結局破毀ヲ免レサルモノトス既ニ此點ヲ以テ原判決ヲ破毀スヘキモノトスル以上ハ其他ノ上告論旨ニ對シ逐一説明ヲ與フルノ要ナシ

謀殺未遂事件

明治四十年(れ)第一三三號
明治四十年二月二十六日判決 (棄却)

判決要旨

一、證人トナルコトヲ許サ、ル刑事訴訟法第二百二十三條第四號ノ所謂雇人トハ僕婢丁稚番當手代等ノ如ク雇主ヲ主人トシテ之レニ服從シ仕事スル者ノミヲ指稱シ民法上ノ雇傭契約ニ因ル一切ノ勞務者ヲ包含スルモノニアラス

說明

民事原告人及ヒ被告人ノ雇人ヲシテ其ノ裁判ニ付キ證人タルコトヲ許サ、ル所以ノモノハ他ナシ主從ノ間ニ發現スル人類自然ノ感情ヲ尊重スルニ由ル蓋シ人他人ニ雇ハレ其ノ雇主ヲ主人トシテ日々其ノ家ニ仕事スルニ於テハ雇人ハ金ヲ得ルカ爲メニ働キ主人ハ仕事ヲ爲サシムルカ爲メニ金ヲ與フ所謂經濟的需給ノ外ニ人情ノ常トシテ其ノ間ニ一種ノ情念ヲ惹起スルニ至ルベシ或ハ時ハ相互間ノ意氣投合シテ肉身ノ親者モ管ナラサルモノアルヘシ又或ハ時ハ主人ノ命甚タ苛酷ニ過キルカ爲メ其主人ニ對スル恨情漸ク深ク若シ機ノ乘スヘキアラハ之ヲ陷害セントノ非望ヲ抱ク者モ亦タ之レハ情ナキニアラサルヘシ相互ノ間ニ纏綿スル感情以上ノ如クナルニモ不拘其ノ雇人ヲ法廷ニ呼ビ主人ニ最モ利害ノ關係

證言ヲ許サル雇人ノ範圍